

令和4年度（2022年度）

社会福祉法人 三育福社会

事業報告

◇特別養護老人ホーム シャローム

住 所 〒239-0811 横須賀市走水1-35
電 話 046-842-1031
FAX 046-842-1324

◇シャローム 短期入所センター

電 話 046-842-6870
FAX 046-842-1324

◇シャローム 在宅ケアセンター

電 話 046-844-0301
FAX 046-842-3963

◇シャローム ケアプランセンター

電 話 046-844-0301
FAX 046-842-3963

◇大津地域包括支援センター

電 話 046-842-1082
FAX 046-842-1083

◇ケアハウス ルツの家

電 話 046-842-1033
FAX 046-842-1324

◇ともしびショップ 保健福祉大学

住 所 〒238-8522 横須賀市平成町1-10-1
電 話 046-822-6462
FAX 046-822-6462

◇障害者支援施設 シャローム浦上台

住 所 〒239-0815 横須賀市浦上台1-11-1
電 話 046-841-0319
FAX 046-841-0982

◇シャローム浦上台 デイサービスセンター

電 話 046-841-0319
FAX 046-841-0982

◇久里浜障害者支援センター ゆんるり

住 所 〒239-0831 横須賀市久里浜4-2-4
電 話 046-838-4627
FAX 046-838-4617

目 次

基本理念	1
組織図	2
法人事業報告	3

【シャローム】

事業報告	7
事務管理部門	12
相談・企画部門	17
短期入所センター	23
生活介護部門	25
A棟（一般虚弱棟）	30
B棟（重度認知棟）	38
医務部門	46
給食センター部門	51
在宅部門	55
ケアプランセンター	58
通所介護	62
訪問介護	66
施設入浴	69
ケアハウス ルツの家	71
大津地域包括支援センター	74
ともしびショップ保健福祉大学	80
チャプレン	81

【シャローム浦上台】

事業報告	82
事務管理部門	84
生活支援部門	89
医務部門	92
給食部門	96
デイサービスセンター	98
久里浜障害者支援センター ゆんるり	101

社会福祉法人 三育福祉会

基 本 理 念

いのちを敬い、いのちを愛し、

いのちに仕えることによって、

神の愛の実現に奉仕する

法人事業報告

理事長 上田 健

1. コロナウイルス感染予防対応

本年度は当施設内での感染陽性利用者を、一時期感染者が出た棟に特設の「陰圧テントを用いた居室」を設置しての看護・介護対応を実施しました。介護部門のみならず給食部門での職員陽性者の発生で、職員の濃厚接触者の出勤停止もあり、現場職員の配置の関係で朝食を軽くしたコロナ対応食の提供もしました。

この状況下で「短期療養者（ショート・ステイ）や、デイサービス部門での「利用控え」もあり事業稼働率の低下も余儀なくされました。

2. 働き方改革への対応

政府は「少子高齢化」への歯止めとして、女性主婦はもとより男性の育児休暇の利用取得を奨励しています。入所者介護の現場は病院看護現場と同じく、365日・24時間勤務態勢を必要とします。この介護現場を維持する職員配置は、職員相互の理解や協力が必要です。育児休暇で職場を数週間休むためには、職場の業務調整やバックアップが必要となります。今回は、具体的な育児休暇取得に必要な職場での事前調整について、顧問弁護士の助言を受け今後の対応への備えとしました。

3. 介護の質の向上と研修

各部門とも「密集」を避けオンラインによる研修を実施、施設内で映像を見て研修に参加するだけでなく、自宅でも研修に参加が可能となりました。職員の参加数や回数も通常より多く、今後もこの方式を取り入れて、多くの職員が参加する可能性の維持が検討課題となりました。

ケアハウスの職員の研究発表が、第19回神奈川県高齢者福祉研究大会で優秀賞を受け、山梨県で開催された関東ブロック老人福祉研究総会へ参加しました。そこにおいて栃木県で開催される全国大会発表者として推薦を受け、その役を果たしました。

4. 人材育成・採用

令和5年1月29日に実施の介護福祉士国家試験の結果が3月24日に発表され、2人が合格しました。EPA関連者の介護福祉士資格取得者は、先に合格した3人に加えて5人となりました。

本年の第6期EPA介護福祉士候補生の採用はインドネシアSDA大学看護学部卒の1人でした。

5. 事業整備

今期事業年度では「就業規則」「給与規程」「パートタイマー就業規則」「パートタイマー給与規程」の一部改正を実施し次事業年度への準備態勢を整えました。

事業収支上の収益は結果的に赤字決算となりましたが、法人事業の必要のため障害者支援施設ではWiFi設備(3,014,000円)、老人福祉部門では送迎車両(3,588,000円)などの物品取得もあり、事業運営に不便や支障を来すことなく支えられました。

★令和4年度 サービス事業別稼働率

サービス部門	項目内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	本年度実績	前年度実績	前年差出	本年度予定
特別支援老人ホーム 定員106人	総延日数 (106×月の日数)	3,180	3,286	3,286	3,286	3,286	3,180	3,286	3,180	3,286	3,286	2,968	3,286	38,690	38,690	-1.3%	97.5%
	入所延日数	2,863	3,086	3,116	3,263	3,250	3,095	3,108	3,070	3,260	3,142	2,844	3,156	37,253	37,767		
	バット稼働率	90.0%	93.9%	98.0%	99.3%	98.9%	97.3%	94.6%	96.5%	99.2%	95.6%	95.8%	96.0%	96.3%	97.6%		
ショートステイ 定員14人	総延日数 (14×月の日数)	420	434	420	434	434	420	434	420	434	434	392	434	5,110	5,110		90.0%
	利用延日数	203	378	379	391	386	266	345	363	394	365	344	436	4,155	4,540		
	バット稼働率	48.3%	87.1%	90.2%	90.1%	88.9%	63.3%	79.5%	86.4%	91.6%	83.0%	75.2%	100.5%	81.3%	88.8%		8.1%
かもめDS 定員25人	総延日数 (25×営業日数)	525	550	550	525	575	550	525	550	550	500	500	575	6,475	6,375		
	延サービス提供数	396	401	403	382	419	415	363	394	415	365	376	417	4,726	4,137		
	利用稼働率	75.4%	72.9%	73.3%	69.0%	72.9%	75.5%	69.1%	71.6%	75.5%	73.0%	75.2%	72.5%	73.0%	64.9%		
はしのみぞ DS 定員23人	総延日数 (23×営業日数)	483	506	506	483	529	506	483	506	506	460	460	529	5,957	5,888		79%
	延サービス提供数	245	413	415	377	416	391	381	410	410	377	373	412	4,556	4,746		-6.0%
	延サービス提供数/総合事業	8	17	14	11	14	12	9	11	6	7	12	11	132	242		(総合事業を除く)
つばさDS 定員15人	総延日数 (15×営業日数)	60	75	60	75	60	60	60	60	60	60	60	60	390	750		60%
	延サービス提供数	24	30	29	35	31	26	26	26	26	26	26	26	175	272		
	利用稼働率	40.0%	40.0%	48.3%	46.7%	51.7%	43.3%	43.3%	43.3%	43.3%	43.3%	43.3%	43.3%	44.9%	36.3%		
訪問介護	総サービス提供数	212	212	204	195	200	196	206	204	196	202	153	146	2,326	2,646		2,904件
	給付管理数/介護保険	184	186	184	179	178	173	179	189	182	176	178	176	2,164	2,471		2,460件
	給付管理数/予防	16	15	16	16	14	16	16	16	16	17	18	17	194	190		
施設入浴	営業日数	7	8	8	4	5	4	4	4	4	2	4	4	59	101		290回
	サービス提供数	15	18	18	14	16	7	15	11	13	6	11	11	155	336		
	配食数	1,529	1,436	1,478	1,445	1,473	1,498	1,450	1,485	1,377	1,334	1,335	1,746	17,586	17,340		20,800食
地域包括支援センター	給付管理数 (直営)	255	254	254	260	262	267	272	272	268	267	269	274	3,174	2,999		2,923件
	給付管理数 (委託)	42	56	57	63	56	62	64	60	58	63	66	62	709	446		263
	総延日数	1,144	1,196	1,144	1,196	1,196	1,144	1,196	1,144	1,196	1,196	1,040	1,196	13,988	13,988		
入所生活介護 定員52人	利用延日数	1,018	1,072	1,000	1,109	1,150	1,079	1,095	1,048	1,083	1,019	904	989	12,566	12,852		-2.0%
	稼働率	89.0%	89.6%	87.4%	92.7%	96.2%	94.3%	91.6%	91.6%	90.6%	85.2%	86.9%	82.7%	89.8%	91.9%		
	稼働率	92.5%	93.4%	91.3%	94.0%	96.0%	93.7%	95.2%	95.6%	93.4%	87.7%	89.4%	86.3%	92.4%	94.5%		-2.1%
施設入所支援 定員52人	総延日数	120	124	120	124	124	120	124	120	124	124	112	124	1,460	1,460		
	利用延日数	76	94	90	88	100	93	89	97	91	86	98	98	1,100	1,147		99%
	稼働率	63.3%	75.8%	75.0%	71.0%	80.6%	77.5%	71.8%	80.8%	73.4%	69.4%	87.5%	79.0%	75.3%	78.6%		-3.2%
生活介護 定員20人	総延日数	420	440	440	420	460	440	440	440	420	400	400	460	5,160	5,160		
	利用延日数	255	278	285	250	269	264	286	303	290	264	274	335	3,353	3,525		77%
	稼働率	60.7%	63.2%	64.8%	59.5%	58.5%	60.0%	68.1%	68.9%	69.0%	66.0%	68.6%	72.8%	65.0%	68.3%		-3.3%

高齢者福祉サービス(走水)

障害者支援サービス(浦上台)

社会福祉法人三育福社会 理事会決議

令和4年5月26日（木） 10時00分～ シャローム渡邊記念ホール

第1号議案 令和3年度事業報告（案）について

第2号議案 令和3年度決算報告（案）について

第3号議案 令和4年度第1回評議員会開催の日時、場所、議題及び議案の概要について

令和4年11月7日（月）10時00分～ シャローム渡邊記念ホール

第1号議案 役員等報酬規程の一部改正について

第2号議案 ケアハウス・ルツの家入居者契約書の一部改正について

第3号議案 障害者支援施設シャローム浦上台利用契約書の一部改正について

第4号議案 「指定短期入所事業シャローム浦上台短期入所サービスセンター」
利用契約書の一部改正について

第5号議案 「指定生活介護事業所シャローム浦上台デイサービスセンター」
利用契約書の一部改正について

令和5年3月16日（木）10時00分～ シャローム渡邊記念ホール

第1号議案 令和4年度第1次補正予算（案）について

第2号議案 令和5年度事業計画（案）について

第3号議案 令和5年度予算（案）について

第4号議案 就業規則の一部改正について

第5号議案 パートタイマー就業規則の一部改正について

第6号議案 給与規程の一部改正について

第7号議案 パートタイマー給与規程の一部改正について

第8号議案 シャローム在宅ケアセンター（通所介護、訪問介護）サービス契約書の一部改正について

第9号議案 シャローム短期入所センター サービス契約書の一部改正について

第10号議案 シャロームケアプランセンター サービス契約書の一部改正について

第11号議案 令和4年度第2回評議員会の開催の日時、場所、議題及び議案の概要について

社会福祉法人 三育福祉会 評議員会決議

令和4年6月15日（水） シャローム渡邊記念ホール

報告事項 令和3年度事業報告について

第1号議案 令和3年度計算書類及び財産目録について

令和5年3月24日（金） シャローム渡邊記念ホール

第1号議案 令和4年度第1次補正予算について

第2号議案 令和5年度事業計画について

第3号議案 令和5年度予算について

理事会、評議員会出席者

月 日	会議名	出席者	監事	欠席者	備 考
5月26日	理事会	7	2	0	
6月15日	評議員会	9	2	0	
11月7日	理事会	6	2	1	前田理事欠席
3月16日	理事会	5	2	2	鈴木理事、前田理事欠席
3月24日	評議員会	8	2	1	峯尾評議員欠席

シャローム 事業報告



事業報告

施設長 安河内 アキラ

令和4年度をふりかえり、昨年度はオミクロン株の流行によって施設内での感染が広がったために、計画したことが実施できず苦しい一年でした。それでも一年を終えることができたことを、まず皆さまに感謝をいたします。

冒頭にも記載しましたが、令和4年度が始まったところに、オミクロン株による一回目のクラスターが施設内で起きてしまいました。その後の発生状況などについては、各部門での報告をしていますので割愛しますが、コロナウィルスの感染が始まって三年間の中で、残念ながらご利用者と職員の感染が最も多い一年でしたが、同時に感染症発生時の対応にも慣れて、各部門において協力して迅速に対応ができるようにもなって来ました。令和5年5月からは、感染法上の位置づけが5類に変更になりますが、引き続き気をゆるめずに対応していきたいと考えています。

事業計画では、三本の柱を目標として立てています。そしてそれに感染症対応と将来計画について加えています。それぞれの事業計画の目標ごとに報告をさせていただきます。

1. 笑顔あふれる施設に

ご利用者が笑顔で毎日を過ごしていただきたい、それはシャロームでの一番の願いです。そのため職員が笑顔で接することができるようにと指導を続けていました。

介護部門の働きを強化するために介護の部門の責任者を兼務ですが複数にしたり、部門長を補佐する相談員を増やしました。また昨年度末に導入したICT機材を用いて、現場の負担を軽減することにより、職員がご利用者に今まで以上に接することができることを目指しました。新しい機械の導入が定着するまでは、もう少し時間がかかるかもしれませんが、徐々に成果ができています。

A棟の環境の改善を計画しましたが、コロナ禍の中、長期間の工事となるために、本年度の実施を中止せざるを得ませんでした。

2. よい福祉人に

施設内外の研修が、Zoomを用いてのものがほとんどとなりましたが、少しずつ復活してきた外部の団体などが主催する研修にも、できるだけ職員が参加するようにしてきました。

施設内の研修は、一昨年からは映像や書面による研修を継続しました。自宅でも研修に参加できるため、90%以上の参加率になる研修もありました。

働きやすい制度を作るための、本年度後半からは外部のコンサルタントの指導を受けながら、新しい勤務体制を作る準備をしています。令和5年4月からは、まず第一歩としてパート職員の待遇を働き方によってわけました。職員についても令和5年下半期から、勤務の状況に応じて働き方を選べるようにしていきます。

3. 元気な地域に

シャロームは「地域の福祉の灯台に、井戸端に」なろうと働いて来ましたが、本年度の後半になり、少しずつ地域の感染状況が落ち着いて来たので、介護教室なども徐々に再開されつつあります。

けれども感染症対策で、地域のボランティアさんをお受け入れることはできませんでした。

施設内学会は、地域のみなさまに集まっていたことは断念して、映像を録画して公開しました。講師による講評も映像で編集をして加えました。映像なので途中から見ることができ、自分の都合が良い時に見られるようになりました。また他施設からも視聴希望がいくつかあり、わたしたちの

研究が地域の方々のお役にたちました。

シャロームふれあいバザーは本年度も中止としましたが、少しずつ地域のお祭りが再開されて来たので、その二ヶ所出張シャロームバザーとして参加することができました。

シャロームフレあいお弁当も、地域のみなさまに助けていただき、配食数も昨年度後半から徐々に増えています。

4. 新型コロナウイルス対策

本年度が、過去二年と比べて残念ながら感染者が増えてしまいました。それはウイルスの感染力が強まったためですが、施設内での迅速な対応を行い、また嘱託医の先生や指示を受けて提携病院などからも、すぐに治療薬を処方していただきました。

感染予防のためにも保健所の指示を受けながら、ご利用者と職員のために定期的に予防接種を実施してきました。

三年間のコロナウイルス感染症の間にも、例年と同じく毎年30人前後の退所者があり、おそらく三分の二くらいのご利用者が入れ替わりました。ご家族は、入所された愛する家族が、どんな場所に住んでいるかを見たことが無い方が多くなりました。また家族会からも、洋服がどのような状態になっているか実際に確認をしたいという声も多く、昨年秋には衣替えのためにご家族が居室へ入っていただくこととしました。年度末からの感染者が増えた時期以外は、できるかぎり施設の玄関での予約制の面会は継続しました。そして3月上旬からは、多少の制限はありますがご家族には居室まで入って面会をできるようにしています。

5. 将来計画

シャロームは令和6年度に、開設40周年を迎えます。毎年建物検査を受けており、まだまだ建物本体はしっかりしていると建築士の診断を受けています。そして必要な器具などの交換は定期的に進めていますが、いつかは限界がやってくるでしょう。

そのために本年度も定期的に資金を貯めて準備を進めています。また市役所と建て替えに際して、受けることができる補助金などについても協議をしています。またシャロームに隣接する国有地についても、購入が可能かもしれないという道が開けてきました。

まだ具体的なことは何も進んでいませんが、同一敷地内での建て替えの可能性も膨らんで来た、そんな一年でした。

		作成責任者名
副施設長		近藤 智子
1 目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 良い福祉人を育成するための土台となる計画を立案実施する 2 地域に向けてシャロームから発信できることは何か考え進めていく 3 新型コロナウイルス対策を継続し、BCPの作成を行います 施設長の事業計画に基づきサポートをしていきます 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 介護福祉士受験に向けて実務者研修を委託開講。 映像研修の会場を設定し、自宅学習が困難な方をサポートする。 2 就労準備のためのトライアル人材の受け入れ。 神奈川県社会福祉協議会主催の就労応援セミナー開催。 3 新型コロナウイルスクラスターの発生を受けて、対応一覧を作成。 発生時のゾーニング、対応にあたる。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 「介護の教室C-Lif.lab」の主催にてシャロームでの実務者研修 実施。 映像研修の会場を渡辺記念ホールに設定し、研修参加者が増えた。 2 横須賀市就労支援準備センター「ネクスト」よりトライアル受け入れ。 横須賀三浦地区を神奈川県社会福祉協議会主催の就労応援セミナー実施。 3 新型コロナウイルスクラスターの発生を受けて、国の基準に沿っての対応策を基に、シャロームで対応出来る内容で介護現場への統一を図った。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 実務者研修を受けていない方へ受講の声掛けを行う。他施設からの申し込みもあり、刺激を受けながら受講が終了できた。来年度も継続したい。 リモート研修を開催することで、受講の機会を広げる事が出来、またリモートなどの使用が困難な方にも、同じ研修が受けられるよう今後も支援に努めたい。 2 就労支援準備センターのトライアル体験や、潜在介護士の就労に向けての支援は、自信を持って社会に参加できることを後押しできた。 支援を手伝った職員もやりがいを持つ事が出来、有意義な結果となった。 今後も、依頼を受けていきたい。（表①-1講座、研修表より） 3 新型コロナウイルス感染状況や、施設内クラスター（表①-2）に合わせて会議を開き、研修会を行う中から、基本的な行動、既存施設での感染症対応について工夫する力を付けられたことは、強みとなった。厚労省の発表を基本に、警戒レベル対応一覧表を都度見直し、レベル対応の策を講ずる事ができた。 （表②警戒レベル対応一覧表） 		

(表①-1 講座、研修表)

開講講座

(施設内、外部施設地域に向けて)

参加

実務者研修	介護の教室C-Lif.lab	11人	R4年7月～開講 11月27日
就労（トライアル）体験	横須賀市就労支援準備センター 「ネクスト」	1人	R4年6月～8月 (3か月間)
潜在介護支援講座	神奈川県社会福祉協議会主催 就労応援セミナー	3人	R4年9月11日

映像集合研修

(* 渡辺記念ホールでの受講者を対象とします。他の方は個人で視聴されています。)

メンタルヘルス研修	「アンガーマネジメント」 「心のセルフケア」	22人	7月11日・21日
防災研修	「消防到着まであなたは何が出来る」 「高齢者施設の災害対策BCP」	18人	9月8日・27日
身体拘束廃止研修	「身体拘束廃止の基本」 「介護現場での3つのロック」	27人	1月12日・24日
安全衛生研修	「腰痛解消・予防にこの体操」 「介護における安全衛生」	19人	2月9日・21日
接遇研修	「言葉遣いの基本」 「接遇力向上（接客と、接遇の違い）」	21人	3月9日・21日

(表①-2 感染状況)

新型コロナウイルス感染状況

A棟		保健所申請より
① (3月30日～4月13日)	入居者28人・職員13人	クラスター認定
② (10月25日～11月14日)	入居者5人・ショート1人・職員1人	
③ (12月29日～1月16日)	入居者2人・ショート2人・員5人	

B棟		保健所申請より
① (9月6日～10月5日)	入居者15人・ショート2人・職員4人	クラスター認定
② (1月11日～2月8日)	入居者19人・職員5人	クラスター認定

ケアハウス		
① (7月21日～7月23日)	入居者3人・職員1人	

新型コロナウイルス対応 レベル別対応表

2023.2.10

訪問サービス（マッサージ、運送、送迎、面談）は、玄関より施設内を通り実務場所へ直行して頂く。可能な限り利用者にもマスクを着用して頂いて下さい。

レベル	A棟	B棟	医務	他	食事	洗濯	掃除・ごみ	排泄	入浴		
① 感染予防期間	<p>【標準予防策】</p> <p>「汗を除くすべての血液、体液、分泌液、排泄物、損傷のある皮膚・粘膜は感染性病原体を含む可能性がある」という原則に基づき、手指衛生や個人防護具（ガウン他）の着用など感染リスクを減少させる予防策 感染症対策は発生後に行うのではなく発生させないことが重要です！ 発生してしまったら・・・を常に考えた日常を心がけましょう！</p>	<p>【基本姿勢】</p> <p>目的：「感染症から利用者、職員、その家族、地域を守るため」 考え方：「感染源の遮断、抵抗力の向上、リスクの軽減」 きちんと一人ひとりが対策をしっかりと、誰か悪いのではなく全員が正しい行動をします。 各自や各棟で悩まないでください、上の人下の人ではなく、同じシャロームの中の人、みんなので取り組んで不安とリスクを軽減し乗り越えましょう！</p>	通常勤務体制	業者納入、点検通常通り	通常	通常通り	通常通り	通常通り	通常通り	通常通り	
② 感染者が急に出た際（夜間で検査ができないうなどの場合）	<p>居室カーテン閉鎖にて経過観察（空気清浄機又は、クロロラ水加湿器使用）対応時は最後までできる限り職員を回す。 感染者と同室の方は勤動事務課が出動し、検査結果が出るまで、居室にいて待機</p>	<p>居室カーテン閉鎖にて経過観察（空気清浄機又は、クロロラ水加湿器使用）対応時は最後までできる限り職員を回す。 感染者と同室の方は勤動事務課が出動し、検査結果が出るまで、居室にいて待機</p>	看護師へO.C (翌朝抗原検査実施)	<p>感染者はマッサージ係科等サービスは中止（相談員より連絡を入れる）</p>	<p>ガウン、ゴーグル又はフェースシールド着用（マスクは必要に応じてマスクで対応） 発熱者及び同室者の居室配膳（残飯はコンビニ袋に入れて居室外処理） 下膳食器はアルコール噴霧し、ビニール袋に「消毒済み」と書いて下膳。</p>	<p>翌朝検査結果が出てから洗濯室へ出すまで居室内で保管する。 ↓ 検査結果が出たら対象者のものはビニール袋へ入れ内容を明記して、洗濯室へ出す</p>	<p>残飯、排泄で出た本人のゴミはコンビニ袋に入れて居室に入れておく。 発熱者のみガウン、フェースシールド使用 ゴミはコンビニ袋にまとめて捨てる</p>	<p>通常通り</p>	<p>通常通り</p>	<p>通常通り</p>	
③ 入居者に陽性者が出た際	<p>施設長発信 緊急感染症対策会議招集 スタンダードプロシジョン（標準予防策） 感染対応グッズの準備 ゾーニング対応、防護具対応 利用者居室対応 職員配置</p>	<p>発生棟の全利用者、シヨーステイ利用者の抗原検査3日連続実施</p>	<p>必要連絡文書作成、ホームページ、第一報全職員へのライン発信 感染棟のシヨーステイ受け入れ中止。ご利用中の方はご家族へ説明。 濃厚接触の職員、利用者へ抗原検査実施。 状況を話してご希望を確認する。</p>	<p>必要連絡文書作成、ホームページ、第一報全職員へのライン発信 感染棟のシヨーステイ受け入れ中止。ご利用中の方はご家族へ説明。 濃厚接触の職員、利用者へ抗原検査実施。 状況を話してご希望を確認する。</p>	<p>感染棟は居室ごとに食事配膳。全員使い捨て容器使用。 ゴミは各部屋でまとめて3日後処分する。 ルツは状況を見て外回りの食事出し</p>	<p>感染者の洗濯物はビニール袋へ入れコロナと明記して、洗濯室へ出す 80度以上の熱湯に10分以上浸してから洗濯。</p>	<p>居室ごとにまとめ、ビニール袋2重袋に日付を記入溜まったらダンボールへ入れ、まっぺらダンダにだす。3日経過したら、一般ごみとして廃棄する。</p>	<p>オムツ交換した際は外したオムツを速やかにビニール袋に入れる。（居室内ゴミ袋へ） 濃厚接触者は3日間の抗原検査義務で4日目から入浴可能</p>	<p>通常通り</p>	<p>通常通り</p>	<p>通常通り</p>
④ 職員に陽性者が出た際	<p><濃厚接触者> 濃厚接触者は4日目5日目にPCR抗原検査実施2回陰性なら出勤可能</p>	<p><濃厚接触者> 濃厚接触者は4日目5日目にPCR抗原検査実施2回陰性なら出勤可能</p>	<p><陽性者> 復帰後の体調など相談に応じる。</p>	<p><濃厚接触の職員、利用者へ抗原検査実施。状況を話してご希望を確認する。</p>	<p>濃厚接触の職員、利用者へ抗原検査実施。 状況を話してご希望を確認する。</p>	<p>通常通り</p>	<p>通常通り</p>	<p>通常通り</p>	<p>通常通り</p>	<p>濃厚接触者は3日間の抗原検査義務で4日目から入浴可能 濃厚接触者は3日間の抗原検査義務で4日目から入浴可能</p>	

部門名	部門人数	作成責任者名
事務管理	9	成田 正幸
<p>1 部門目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 走水拠点における経営分析と改善計画の作成および実施とチェック 2 各部門にキャリアアップを見直してもらい、職員の目標設定の明確化 3 建物や設備のメンテナンス管理 4 広報の充実 ホームページの更新頻度アップと家族への情報提供 		
<p>2 実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 毎月第1水曜日の午前中に、会計事務所を迎えての報告と課題分析 3か月間において、改善が見込まれない場合、責任者と相談し、対応協議改善内容を報告してもらい、実施し会計会議において実施状況のチェックをします。 2 目標管理シートを使って、1年間実施してもらい、課題の共有と今後の新たな目標設定を行ってもらいます。 3 事業計画及び予算化されたものを実行し、安全な環境づくりを目指します。 4 担当者を設けて、ホームページの管理から原稿作成、他部門からの応援を受けながら、よりよい広報活動を行います。 		
<p>3 結果（グラフや数値等は別に添付）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2か月前の実施状況を会計事務所から報告してもらい、今後の展開を読み事前に対処できることは行いました。コロナ禍において、1年間特養事業所で3回のクラスターを起こしましたが、重篤な人以外は施設で看護し、稼働状況を保つことができました。半面短期入所、デイサービスにおいては、特養の状況や、その他の事業所における感染者の有無により、サービスの停止や中止に追い込まれました。また低調な事業所においては、現場の意見も聞き改善にもっていくよう努力しましたが、稼働状況は改善しませんでした。 2 法人で取り組んでいるキャリアパスに沿ったスケジュールを行い、年2回の面談だけでなく、仕事の中で取り組んでいる時には、出来る限り声をかけ課題解決に責任者として関わる姿勢を持ち続けました。 1年間を通じて、川原経営相談センターと高齢・障害者施設の部門長レベルの責任者及び人材育成担当と会議を重ね、綿密なキャリアパスシートや情意及び能力別シートの作成を行いました。 3 年度に予定していたメンテナンスは、概ね達成することができましたが、修理や固定資産の購入については、クラスターによる在宅事業の停止や感染対策の費用増加により、ベテルホールの外壁塗装、ベッドの購入、A棟床張り替え等対応することができませんでした。 4 ホームページの担当者を設けて、ホームページ作成ソフトの更新費用を出費し、リニューアルしました。以前使っていた写真はかなり古いものだったので、最近の 		

写真を撮って掲載したり、かもめ通信など在宅サービスのページを見やすくしました。入所の家族会だけが入れる専用ページを作成し、そこでご利用者の写真や家族向けの情報、YouTubeの動画配信をし、ブラッシュアップしました。介護保険情報などの更新も行い、情報を掲載することができました。

4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること）

- 1 責任者で共有するだけでなく、現場の職員が経営や運営を理解し、現場レベルでできる改善や、意思統一をはかっていくことが課題として残っています。
安定した稼働率を維持するには、受付担当者の家族への対応や、日々のこころがけまた先を見越した面接など、入所・在宅サービスが有機的に機能することでシャローム全体の経営改善に繋がっていきます。そのための資料とコミュニケーションを取る時間をもつことが必要です。
- 2 外部のコンサルタント業者をいれて、1年間キャリアパス、人事考課のための資料作り、法人として統一感のあるものを作成してきました。令和6年度の本格運用に向けて、来年度におけるルール作りと運用そして考課者となる役職者の意識付けが大切です。法人創設以来の課題に向けて、しっかりと取り組みます。
- 3 昨年度からの継続的な修理や設備更新を、財政面からの課題も認識しつつ補助金の活用を検討しながら、計画的に行っていきます。
- 4 広報活動は、法人や施設を理解していただくうえで、とても大切な業務の一つです。担当者任せにするのではなく、どうすればより多くの人にみていただくことができるのか、シャロームの魅力をアピールすることが、人材確保や利用者の増加に繋がっていきます。一つの部門だけで完結するのではなく、施設全体の取り組みになるように、職員や利用者、家族、そして関係機関の意見を集約して、よりよいホームページ、生き生きとしたタイムリーな情報を提供し続けていきます。

外部研修

月 日	研 修 内 容	
4/23	新型コロナウイルスとの闘い横須賀共済病院の取り組み	横須賀市ボランティア連絡協議会
5/18	人事労務の基礎実務講座	公益財団法人労働福祉協会
5/25	人事・労務管理の基礎知識	神奈川県社会福祉協議会
6/ 1	社会福祉施設長資格認定講習会	全国老人福祉施設協議会
7/ 7	年金制度改正、在職高齢年金制度の見直し	横須賀年金事務所
8/ 3	科学的介護&ICTによる介護サービスのDX化	川原経営総合センター
9/ 6	危険物取扱講習会	神奈川県危険物安全協会
10/27	魅力的で働き甲斐のある介護の職場づくりに向けて	財団法人Uビジョン研究所
11/24	よくある誤解による相談事例について	横須賀年金事務所
12/16	会計実務セミナー「使える予算、使えない予算」	独立行政法人福祉医療機構
1/25	理事会・評議員会の運営方法と理事・監事の改選手続き	全国福祉法人協会
2/ 7	メンタルヘルスラインケア講座	神奈川県労働福祉協会
3/23	インボイス講座 会	かながわインボイス制度協議 会
3/23	第6回 Care テクノロジー東京	ブティックス株式会社
3/30	高齢者福祉事業経営を取り巻く動向について	全国社会福祉協議会

内部研修

月 日	研 修 内 容	参加人数
6/30	感染症対策と食中毒予防と蔓延防止	8
7/22	メンタルヘルス	8
9/30	非常災害対応・事故発生時の緊急対応	7
11/30	施設内学会	8
1/30	身体拘束	8
1/31	職業倫理・法令遵守	8
2/28	個人情報保護法	8
3/22	接遇マナー	8
3/31	プライバシー保護	8

シャローム走水 施設職員在籍状況

特別養護老人ホームシャローム（含む短期入所事業）							
職種	指定介護老人福祉施設・短期入所			配食サービス		どもしばしショップ	
	指定基準	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1	1	0	0	0	0	1
相談員	2.3	4	2	0	0	0	0
副施設長	0	1	0	0	0	0	0
介護支援専門員	1.1	9(兼務)	0	0	0	0	0
介護職員	37	39	18	0	0	0	0
看護師	3	3	4	0	0	0	0
管理栄養士	2	4	0	0	0	0	0
栄養士	0	0	0	0	0	0	0
医師(産業医)	1	0	1	0	0	0	0
機能訓練指導員	1	1(兼務)	0	0	0	0	0
事務員	0	4	0	0	0	0	0
営繕職員	0	1	2	0	0	0	0
調理員	0	1	5	0	4	0	0
その他	0	0	10	0	9	0	3
チャプレン	0	1(兼務)	0	0	0	0	0
合計		58	42	0	13	0	4

シャローム在宅ケアセンター									
	通所介護(かもめ) 25人定員			通所介護(はしりみず) 23人定員			通所介護(つばさ) 15人定員		
	指定基準	常勤	非常勤	指定基準	常勤	非常勤	指定基準	常勤	非常勤
管理者	1	1(兼務)	0	1	1(兼務)	0	0	1(兼務)	0
認知症実践者研修修了者	1	1(兼務)	1(兼務)	1	1(兼務)	0	1	0	1(兼務)
相談員	1	1	0	1	1	0	1	0	1(兼務)
看護師	1	0	3	1	0	4	1	0	1(兼務)
介護職員	4	3	6	3	2	5	1	0	1(兼務)
調理員	0	0	1(兼務)	0	0	1(兼務)	0	0	0
合計		4	9		3	9		0	0
	訪問介護			居宅介護支援			施設入浴		
	指定基準	常勤	非常勤	指定基準	常勤	非常勤	指定基準	常勤	非常勤
管理者	0	0	0	1	1	0	0	0	0
サービス提供責任者	1	2(兼務)	0	0	0	0	0	0	0
看護師	0	0	0	0	0	0	1	0	1(兼務)
介護職員	2.5	3	1(兼務)	0	0	0	0	1(兼務)	1(兼務)
主任介護支援専門員	0	0	0	1	1	0	0	0	0
介護支援専門員	0	0	0	0	5	0	0	0	0
合計		3	0		7	0		0	0

通所つばさは、毎週日曜日のみ

ケアハウス「ルツの家」				大津地域包括支援センター		
	国基準	常勤	非常勤		常勤	非常勤
施設長	1	1(兼務)	0	管理者	1(兼務)	0
相談員	1	1	0	社会福祉士	3	0
事務員	1	1	0	看護師(保健師)	2	0
介護職員	1	1	4	主任介護支援専門員	2	0
調理員	0	0	1	プランナー	0	3
清掃	0	0	1	事務員	0	1
合計		3	6	合計	7	4

育児・介護休業 常勤 6人

常勤職員	85
非常勤職員	87
合計	172

防災訓練実施報告書

実施日	訓練名	訓練内容	評価
5月9日	消火訓練	新人オリエンテーションで、消火器・消火栓の使用方法を学ぶ	使用方法について、消防設備業者より使用方法について詳しく学ぶことができた。
7月19日	日中想定火災避難訓練 (A棟)	火災想定火元確認と本部への連絡を行う	初期消火の対応が各部署で対応されていた。
8月16日	日中想定総合避難訓練 (B棟)	火災想定火元確認と本部への連絡を行う	火元の発見に時間がかかり、発見後の全館放送も遅れた。
10月18日	夜間想定火災避難訓練	夜勤者と宿直者のみで火災想定訓練を実施	初期の対応は迅速だった。防火扉などの閉鎖もできたが、ご利用者の人数確認に手間取った。
1月17日	日中想定地震避難訓練	震度6以上の地震を想定した訓練	DSは避難時に頭巾を着用した。感染症対応中だったので、訓練の一部を簡素化した。
3月10日	県下一斉報告訓練	県主催の災害状況報告を電話にて報告	防火管理者が地区幹事施設に報告した。事務職員や営繕職員が外壁や電気設備、ボイラーなどの確認を行った。
3月30日	日中想定火災避難訓練 (全体、抜き打ち)	訓練の開催を知らせずに、実施した。	出火場所をまちがえた。避難誘導までできなかった。

1. 減災・予防対策等

- 6・12月 各部門の防災委員に、火災の原因となるコンセントの確認を実施
- 9・3月 各部門の防災委員に、備蓄品を確認し、不足分の補充を行う
- 9月 高齢者施設のBCP、火災発生時等緊急時対応について映像で研修
- 11月22日 発電機とポンプによる生活用水汲み上げ方法を学ぶ

部門名	部門人数	作成責任者名
相談・企画	5	樋口 洋一
1 目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 適切な入所相談、電話相談、入退所業務を通しベッド管理を行なう 2 ご利用者・ご家族の心の安定の為、「見える施設づくり」の為、『発信力の強化』 3 対人援助職としてのスキルアップ、他職種連携を強化する 4 コロナ禍においても特別養護老人ホームの使命と役割を実施する 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 短期入所相談員との連携・早期における医師面談・看取り支援。 相談者の立場に立った電話相談の実施、状況に応じて他施設も紹介する。 2 行事スケジュール、施設内の様子を写真でご家族へ送付・家族会と連携し、定期的にご利用者の写真を送付やホームページの活用、オンラインツールの活用や対策を重ねての面会の実施。 3 コロナ禍において保健所・病院MSWとの連携・定期勉強会の開催。 感染期における相談援助技術向上の為、職員それぞれによる自己啓発。 4 入居者懇談会の実施と生活の場への評価の体制づくり・生活環境への討議。 福祉を学ぶ、実習生の受け入れ、シャローム秋祭りの開催。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 主に、郵送での新規入所申し込みは163件。年間の退所者は27人、年間稼働率は96.3%であった。3/31待機者総数が208人と変動の多い一年となった。 2 感染症対策を徹底し、季節行事を実施した。その活動の様子や、食事の様子を毎月ご家族へ送付することができた。家族総会は、中止としたが、家族会役員と話し合い、定期的にご利用者の写真を送付を実施した。 施設ホームページも、事務所の協力のもと『家族専用ページ』が作成され、施設行事や生活風景の写真や動画が観覧できるようになった。 また、ご利用者の為に早期の直接面会を検討し、CO2測定モニターを面接室各フロアに設置し、市内の感染状況に応じて予約制面会を実施した。 3月からは、時間制限はあるものの通常面会を再開することができた。 3 陽性者のご家族に対して施設がクラスターとなった電話連絡等、ご家族の心理状況にあわせた対応が必要となった。施設での対策や治療薬、県の指針を相談員自身が読み込み理解し、業務が実施できた。 4 隔月の入居者懇談会で限られた生活の中ではあるが、ご利用者の意見を聞く事ができた。また、年二回生活向上委員会ではご利用者計4人に参加していただき生活改善⇒実行とPDCAサイクルで生活改善を図った。 コロナ禍においても、学校と調整し標準予防策を徹底のもと、多くの実習生を受け入れることができた。 施設行事としての「シャローム秋祭り」は、ご家族が参加することは叶わなかったが、多くの職員と共にご利用者に非日常の時間を提供することができた。 		

4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること）

- 1 年度初めのクラスターをきっかけに、感染症を踏まえた入所管理の難しさを考える一年だった。「入所したらしばらく会えなくなる」と入所の声掛けから時間が欲しいご家族もいた。また、初回面接が待機場所施設の都合で直接会えず、情報のみの入所支援など感染症との微調整が必要であった。申込者の数と待機者の総数からみても、市内の特養待機者が減少していると考えられる。その中で日常支援継続加算の要件の維持が難しく、要件の比率を考えながらのベット管理となった。来年度は加算維持の為の安定した入所支援管理をし、目標稼働率が達成できるようにしたい。
- 2 感染症発生時のご利用者・ご家族の心理負担は相当なものだと考えられる。少しでも面会をと施設内で協議を重ね方法を変え、面会を実施できたことでご利用者・ご家族の心理負担の継続に繋がった。来年度も、継続して検討しコロナ前のような面会状況に戻れるようにしていきたい。施設行事や日々の活動についても、ホームページの充実は今後も課題であり、継続していきたい。
- 3 ZOOMを用いたり、限られた時間での説明等、相談援助の環境や方法は、多様化している。相談者や他職種と互いが有益だと思える時間となるために、私たち自身の相談職としてのスキルアップは今後も必要である。
- 4 ご利用者が実際に参加する委員会において、選ばれたご利用者は自分の事だけではなく、他の入居者のことも考えての生活に対する意見が見受けられた。事前に、委員会への出席を伝えご利用者にも役割という意識が芽生えていた。今後も、施設生活においての多くのニーズを職員だけで考えるのではなく、ご利用者も一緒に考え、改善していきたい。福祉を志す若者が減少していることは施設だけではなく社会全体の問題である施設で働く介護福祉士が働こうとしたきっかけの多くは、高齢者福祉に出会ってこの仕事に就いたものが多い。このことから、たくさんの人達が高齢者福祉と出会えるように、地域への発信や児童・学生の交流、ボランティアの再開に向けて施設を開かなくてはいけないと考える。来年度も可能な限りご利用者に非日常を感じてもらえるような行事企画を提供したい。

表 1 行事記録

月	日	曜日	行事名	利用者	ご家族	来訪者・ボランティア
4	20	水	誕生会	全員		
5	5	木	端午の節句昼食会	全員		
	18	水	誕生会	全員		
6	15	水	誕生会	全員		
7	7	木	七夕昼食会	全員		
	20	水	誕生会	全員		
8	1	月	開設記念式典	全員		
	17	水	誕生会	全員		
	28	日	秋祭り・花火大会	全員		8
9	18	日	敬老お祝い会	全員		
	21	水	誕生会	全員		
10	19	水	誕生会	全員		
11	16	水	誕生会	全員		
12	21	水	誕生会	全員		
	23	金	クリスマス昼食会	全員		
	23	金	キャロリング	30名位		
	26	月	お餅つき	70名位		
1	1	日	新年の式典・おせちお祝い膳	全員		
	18	水	誕生会	全員		
2	3	金	節分	全員		
	15	水	誕生会	全員		
3	3	金	ひな祭り昼食会	全員		
	15	水	誕生会	全員		
			※ 新型コロナウイルス感染症予防対応のため、ご家族・ボランティアの来所を制限をした時期がありました。			

表2 最高齢 (3月31日現在)

	男性	女性
A棟	93歳	104歳
B棟	100歳	100歳

表3 最年少 (3月31日現在)

	男性	女性
A棟	71歳	72歳
B棟	63歳	71歳

表4 平均年齢 (3月31日現在)

	人数	平均年齢
男性	24人	84歳
女性	81人	88歳
全体	105人	87歳

表5 在所期間 (3月31日現在)

最大在所期間		18年1ヶ月			
平均在所期間		3年9ヶ月			
在所期間	0~	0.6~	1.1~	3.1~	
性別	0.5	1年	3年	5年	
男性(人)	8	2	7	5	
女性(人)	7	11	21	16	
合計	15	13	28	21	
在所期間	5.1~	10.1~	15.1~	20.1~	
性別	10年	15年	20年	29年	
男性(人)	1	0	1	0	
女性(人)	20	4	2	0	
合計	21	4	3	0	

表6 ボランティア (※新型コロナウイルス感染症予防期間中のため)

部 門	延べ人数
洗濯物たたみ	0
クラブ指導	0
行事手伝い	8
計	8

表7 新規申し込み

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
15	16	18	18	10	15	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
12	5	18	11	10	15	163

待機者数

3/31現在	208人 (他 介護度1・2 34人)
--------	---------------------

表8 入所状況（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

番号	姓	棟	市町村	入所日	年齢	入居前居所
1	女性	A	横須賀市	2022/4/11	86	介護老人保健施設
2	女性	A	＃	2022/4/25	86	介護老人保健施設
3	女性	A	＃	2022/4/26	98	介護老人保健施設
4	男性	A	＃	2022/4/27	86	自宅
5	女性	A	＃	2022/5/4	95	ケアハウス
6	女性	A	＃	2022/5/9	97	有料老人ホーム
7	女性	A	＃	2022/5/10	88	グループホーム
8	女性	A	＃	2022/5/11	81	介護老人保健施設
9	男性	A	＃	2022/5/13	86	自宅
10	女性	A	＃	2022/5/16	74	自宅
11	男性	A	＃	2022/5/23	89	自宅
12	女性	B	＃	2022/6/1	70	有料老人ホーム
13	女性	A	＃	2022/6/6	86	介護老人保健施設
14	女性	B	＃	2022/6/9	99	自宅
15	女性	A	＃	2022/7/4	88	有料老人ホーム
16	男性	B	＃	2022/9/1	86	有料老人ホーム
17	男性	B	＃	2022/10/13	87	自宅
18	男性	B	東京都	2022/10/24	80	病院
19	女性	B	横須賀市	2022/11/8	78	自宅
20	男性	B	＃	2022/11/18	81	介護老人保健施設
21	男性	A	＃	2022/11/21	83	自宅
22	女性	B	＃	2022/11/22	79	病院
23	男性	B	＃	2022/12/5	81	自宅
24	女性	A	＃	2023/2/16	78	有料老人ホーム
25	男性	A	＃	2023/2/20	87	自宅
26	女性	A	＃	2023/2/22	82	介護老人保健施設
27	男性	B	＃	2023/3/1	100	病院
28	女性	B	京都府	2023/3/7	82	特別養護老人ホーム
29	女性	B	横須賀市	2023/3/10	83	自宅
30	男性	A	＃	2023/3/28	80	有料老人ホーム
31	女性	B	＃	2023/3/31	94	有料老人ホーム

表9 退所状況

番号	姓	棟	市町村	退所日	年齢	事由
1	女性	A	横須賀市	2022/4/3	96	永眠（シャローム）
2	女性	A	＃	2022/4/6	97	永眠（シャローム）
3	女性	A	＃	2022/4/10	92	永眠（シャローム）
4	女性	A	＃	2022/4/10	85	永眠（シャローム）
5	男性	A	＃	2022/4/13	103	永眠（シャローム）
6	女性	A	＃	2022/4/13	92	永眠（シャローム）
7	女性	A	＃	2022/4/19	94	永眠（シャローム）
8	女性	A	＃	2022/4/19	97	永眠（シャローム）
9	男性	A	＃	2022/4/24	88	永眠（シャローム）
10	女性	A	＃	2022/5/3	86	永眠（シャローム）
11	男性	B	＃	2022/8/19	94	永眠（シャローム）
12	男性	B	＃	2022/9/22	99	永眠（シャローム）
13	女性	B	＃	2022/9/24	95	永眠（シャローム）
14	男性	B	＃	2022/9/28	87	永眠（シャローム）
15	男性	A	＃	2022/10/4	86	永眠（病院）
16	女性	B	＃	2022/10/6	93	永眠（シャローム）
17	女性	A	＃	2022/10/7	84	永眠（シャローム）
18	男性	A	＃	2022/11/6	90	永眠（シャローム）
19	女性	A	＃	2022/12/17	96	永眠（シャローム）
20	男性	A	＃	2023/1/7	83	永眠（シャローム）
21	女性	A	＃	2023/1/18	90	永眠（シャローム）
22	男性	B	＃	2023/2/7	86	永眠（病院）
23	男性	B	＃	2023/2/8	96	永眠（シャローム）
24	女性	B	＃	2023/2/16	102	永眠（シャローム）
25	男性	B	＃	2023/2/17	81	永眠（シャローム）
26	男性	A	＃	2023/3/2	83	永眠（シャローム）
27	女性	A	＃	2023/3/8	89	永眠（病院）

表10 実習受け入れ状況

学校名	期間	人数	日数	実習場所
神奈川県立保健福祉大学	5/16~7/8	4	30	入居棟(28日) 在宅(2日)
横須賀南高等学校	7/12~15	4	3	入居棟
横須賀三浦地区インターンシップ	7/25~7/27	1	3	入居棟
関東学院大学栄養学部	8/1~8/6	2	5	給食
神奈川県立保健福祉大学	8/5~8/26	3	15	入居棟
関東学院大学栄養学部	8/15~8/20	2	5	給食
関東学院大学栄養学部	8/22~8/27	2	5	給食
湘南医療福祉専門学校	8/29~9/22	3	25	入居棟
ヨコスカ調理製菓専門学校	8/29~9/9	1	10	給食【インターンシップ】
東京工芸大学介護等体験	9/10~12/24	18	隔週土曜	オンライン実習【特養】
関東学院大学栄養学部	9/12~9/18	2	5	給食
ヨコスカ調理製菓専門学校	10/3~10/14	1	10	給食【インターンシップ】
文教大学 管理栄養学科	10/17~10/22	2	5	給食
文教大学 管理栄養学科	10/24~10/29	1	5	給食
湘南医療福祉専門学校	2/20~3/13	3	15	入居棟

部門名	部門人数	作成責任者名
短期入所センター	2	矢野 千香子
<p>1 部門目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 また来たいショートステイ、楽しかったショートステイ 2 寄り添い、喜びや悲しみを共感し生きた証を残せるショートステイ 3 急な利用でも、いつでもニーズに応えられるショートステイ 4 個別ケア・認知症の理解を深め専門職の力を発揮できるショートステイ 5 感染症対策を強化しサービスの継続ができるショートステイ 		
<p>2 実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活歴や趣味を把握した個別ケアの実施。 2 生活の中での記録を充実し、ご利用者ご家族が安心して利用出来る支援。 3 利用ごとにニーズを捉えた個別対応。 4 思いに寄り添った認知症ケアの実施。 5 特別養護老人ホームの感染対策に沿い、サービス継続。 		
<p>3 結果（グラフや数値等は別に添付）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 利用ごとに自宅での生活の様子を把握し、次の利用にも繋げられるよう趣味や趣向を踏まえ施設で生活していただくよう対応した。 2 利用中の様子を詳しくお知らせすることで、ご家族には不安なく利用期間を過ごしていただけるように対応した。 3 定期的な利用の他に、急な利用にもできる限り対応したが、感染症対策から本入所ベッドを使うことができない事や、感染症の拡大のため、ショートステイの受け入れを中止することになり全てのニーズに応えることができなかった。 4 個別ケアや認知症を理解したケアを実践し、思いに寄り添った。 5 施設のクラスター発生により、サービスを止めざる負えなかった。年度後半は、利用直前に施設で抗原検査を実施し、3人の方が利用直前にサービスを中止した。 		
<p>4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 24時間、ご利用者ご家族が安心できるサービス継続の為、自宅での過ごし方やご本人の好きな事、興味のある事を事前にアセスメントし今後も伝えていく。 2 短期入所サービス計画書にそった記録を残せるよう、今後も委員会等でご家族の思いや他職種が必要としている記録を投げかけていく。 3・4 個別ケアに重点を置き、認知症になっても住み慣れた地域で生活が継続できるような支援を継続する方向を確立させていかななくてはいけない。物的環境や人的環境の整備を施設として取り組んでいかななくてはならない 5 地域でも感染症が蔓延し、急なサービス変更や稼働率の低下に繋がった。短期入所の存在意義を考え、サービス提供できる体制を施設と共に作っていききたい。 		

平均介護度及び平均年齢

	平均介護度
男性	3.2
女性	3
平均	3

	平均年齢
男性	82.96
女性	87.37
平均	86.17

ベット利用数及びベット稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ベット数	420	434	420	434	434	420	434	420	434	434	392	434	5110
延べベット数	203	378	379	391	386	266	345	363	400	264	344	436	4155
稼働率	48.3%	87.1%	90.2%	90.1%	88.9%	63.3%	79.5%	86.4%	92.2%	60.8%	87.8%	100.5%	81.3%

年間受け入れ人数

緊急ショーステイ	9
新規	61

部門名	部門人数	作成責任者名
生活介護	56	樋口洋一・中園和子
1 目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 サービスの原点に立ち返る 2 一人ひとりのご利用者への視点を強化する 3 キャリアパスと連動した人材育成、個別研修計画 4 地域への交流と、他職種への理解 連携の強化 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 「尊厳」「自立支援」を意識したカンファレンス・各会議の開催。 定期的なケアワーカーの開催・クラスター後の振り返り。 2 ICTの活用、日中の勤務者を増やすための方法を模索、主任・副主任との目指すべき体制への共有 介護過程を学び直し、個別介護計画書の作成と実施。 3 プリセプター制度、新人教育の見直し。勉強会の開催（ハイブリット方式）。 介護職員の介護の考えを聞くための記述式の報告書の作成。 4 実習生への指導 行事や日々の場面での他職種との意見交換。 訪問マッサージや歯科との情報共有 感染時の職員の応援派遣。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 主任が交代する人事も重なり、改めて施設環境を見直す場が設けられた。 コロナのクラスター発生の度に施設全体での振り返りのもと、最低限度の生活以上の生活の維持をはかるため、都度ゾーニングの見直しを実施した。 2 介護過程や認知症の勉強会を通し、個別ケアへの意識付けを実施。これまでの書式から、記録ソフト内での個別介護計画書への移行を施設ケアマネジャーや主任・副主任・リーダーで職員へ発信し周知徹底した。 日中の時間に目を向け、ICT活用を含め議論のもと来年度初めから夜勤の人数体制の業務改善が実行できた。 3 適切な介護評価ができるよう、介護キャリア段位を参考に、新人指導マニュアルを作成し直した。年間研修に沿って研修を実施した。 4 月曜の朝、ご利用者の食事について話し合う機会を設けた。また、生活リハビリ充実のため、ポジショニングや口腔について専門職との情報共有に努めた。 クラスター発生時は、職員の感染も広がり欠員が出た際には互いの棟への応援体制を図った。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 4月A棟でのクラスター発生は感染症訓練を重ねていたが、多くの学びと、ご利用者に生活の不自由さを与えた。この時、介護職員が感じた様々な生活に対する意見は、とても重要であったと考えられる、『もっと～したい』や『もっと～すればよかった』と内発的動機付けになった。この気持ちを大事に今後のケアのあり方について職員同士で考え、学び合っていきたい。 		

- 2 本年度、導入した眠りスキャンを使いこなし昼夜のケアを個別ケアに繋げていかななくてはならない。集団で生活する生活環境の中で居室担当や施設ケアマネジャーからの発信で個別ケアの実践の充実を目指していく。
教務改善したことにより、生まれるそれぞれの棟での時間。この時間が、各棟それぞれの売りとなり、働く介護職員も施設の売りを言語化できるようにしたい。
今後も入居棟の介護部門として話し合いながら業務改善し、働きやすい職場環境となれる様努力したい。
裾野の広い富士山型の介護職の人材確保をめざし、介護助手制度を充実なものにさせたい。

- 3 6月に入居棟全職員に「自立支援」について自身が思っていることを課題としレポート提出してもらった。12月には、看取りケアについても同様の事を実施した。職員それぞれの介護観が語られとても有意義なものとなった。
これを、ケアの統一や職員面談で活用し活かしていきたいと考える。
前向きに、向上心をもった介護職員となれるよう支援していきたい。

- 4 LIFE加算もあり、カンファレンスの頻度が半年に一回が基本となった。
生活を見直し、随時問題定義・検討する体制の整備が求められる。
専門職として互いに尊重し、意見を取り入れスムーズな対応ができるよう、今後も他職種の役割、特性についても学び合っていきたい。

表 I 施設内研修

月	研 修 内 容	参加CW	対 象	場 所
4月	新型コロナウイルス感染症発生の為中止 (新人オリエンテーションは実施)			
5月	ICT 使い方・分析について	26人	CW	記念ホール
5月	個人情報保護・職業倫理及び法令遵守・プライバシー保護 (映像研修)	全職員	全職員	書面配布
6月	高齢者の疾病 (廃用症候群)	CW 全員	CW	記念ホール・ 欠席者は動画
6月	感染症及び食中毒発生予防及び蔓延の防止 (書面研修)	全職員	全職員	書面配布
7月	介護過程①/褥瘡研修 (書面研修)	36人	CW	記念ホール/ 書面配布
7月	メンタルヘルス (映像研修)	全職員	全職員	記念ホール・ 書面配布
8月	口腔ケア 定期訓練 (書面+動画)	CW 全員	CW	記念ホール・ 欠席者は動画
8月	感染症定期訓練 (標準予防策確認・ゾーニング・物品保管場所・必要物品と使用物品の分別・感染症発生時の手順等)	11人	医務・ 相談員・ CW	記念ホール・ 物品庫
9月	非常時災害時の対応・事故発生時緊急時の対応 (映像研修)	全職員	全職員	記念ホール・ 書面配布
10月	介護過程②	CW 全員	CW	書面配布
11月	感染症対応・振り返り	19人	CW	記念ホール
11月	安全衛生・腰痛予防 (書面研修)	全職員	全職員	書面配布
12月	看取り及び精神的ケアについて・グリーフケア	27人	CW	記念ホール
12月	虐待防止・身体拘束廃止 (書面研修)	CW 全員	CW	書面配布
1月	虐待防止・身体拘束 (書面研修)	全職員	全職員	書面配布
3月	研修報告「認知症実践リーダー研修」より	23人	相談員・CW	記念ホール
3月	事故防止②	23人	CW	記念ホール

表Ⅱ 職員外部研修

実施日	研修内容	参加職種・人数	場所
5月25日(水)	介護テクノロジー横浜 システム・見守り・ロボットに 特化した専門展	介護職員 3	横浜産貿ホール マネリア
6月1日(水)～ 4ヶ月	喀痰吸引等免除研修第1期	介護職員 1	シャローム
6月20日(月)	新任福祉・介護施設等職員合同 交流会・研修会(前期・動画)	介護職員 1	シャローム
6月21日(火)	「基本について学ぼう 根拠ある排泄ケア」 (Zoom)	介護職員 5	渡辺記念ホール
7月6日(水)	「応用力で課題を解決 困難事例への対応(排泄と スキンケア)」(Zoom)	介護職員 5	渡辺記念ホール
7月14日(木)～ R5年3月1日(水) 13日間	神奈川県版ファースト ステップ研修 (オンライン研修・集合研修)	介護職員 1	横須賀市 産業交流プラザ他
9月26日(月) 12月12日(月)	新任福祉・介護施設等職員合同 交流・研修会(後期・動画・対 面研修)	介護職員 1	動画：シャローム 対面研修：海老名市立 総合福祉会館
10月27、29、31 11月5、7、14、21 日(7日間)	介護福祉士実習指導者講習会 (Zoom)	介護職員 1	シャローム
11月16日(水)	介護技術研修基本編 職業倫理・利用者の尊厳・コミ ュニケーション・移乗技術等 (動画・集合研修)	介護職員 1	動画：シャローム 集合研修：神奈川県 社会福祉センター
11月29日(火)	認知症介護をするすべての 人のためのカンファータブ ル・ケア (Zoom)	看護師 3 相談員 1	A棟静養室
12月8日(木)	介護職なら知っておきたい 認知症の基礎知識 (Zoom)	相談員 1	A棟面接室
12月9日(金)	これからの認知症ケア (Zoom)	相談員 1	A棟面接室
12月19日(月)	虐待防止に求められる 自己覚知 (動画)	相談員 1	A棟面接室
12月21日(水)	食べて出す～食事と排泄はよ り良い介護の第一歩～ (Zoom)	看護師 3 相談員 1	A棟静養室

1月10、13、17、 19、22日 職場実習1月20日 ～2月23日	神奈川県認知症 介護実践者研修	介護職員 1	神奈川県 産業振興センター
2月1日(水)～ 4ヶ月	喀痰吸引等免除研修第3期	介護職員 2	シャローム
2月3日(金)	介護施設等防災リーダー養成 研修 避難確保計画、BCPの 策定支援	介護職員 1	神奈川県 産業振興センター
2月18日(土)	新人指導力強化研修	介護職員 1	神奈川県 社会福祉センター
3月10日(金)	神奈川県高齢者権利擁護・身体 拘束廃止推進研修(動画)	施設長・ 介護職員 2	シャローム
3月22日(水)	高齢者虐待の防止に向けた 取り組み～アンガーマネジメ ント～(Zoom)	施設職員 8	シャローム
3月23日(木)	ケアテックス東京'23 介護用品・介護テクノロジー等	施設職員 5	東京ビッグサイト

部署名	部門人数	作成責任者名
特養A棟	26	中村 光徳
1 目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 個別ケアの充実と専門性の向上 2 接遇・温かい介護 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 個別ケアチームとして編成をし、個別のケアプランを理解し、その視点に合うサービスを行ない、根拠となる記録を残せるよう意識付け、働きかけを行ない、生活の質の向上、記録面の質の向上を目指せるよう取り組んだ。 2 接遇力向上の為にチーム編成をし、挨拶についての取り組みに加え、態度や基本的な声掛け等についてもメンバー中心に声を掛け意識付けを行い、投票形式を実施しながら習慣化するよう努めた。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 個別のケアプランを常に確認し、根拠となる記録を残す事を職員、パート関係なく意識するようになり、少しずつ日々の記録が充実してきた。 ご利用者からも今日は何をするのかと期待されている様子も見られるようになった。コロナ禍という事で日常生活での行事等も制限が掛かり、個別のサービス提供が中々できない事もあった。 2 メンバー中心に行動一つひとつに対して意識はしているが、緊急時対応、コロナ対応や日々の業務に追われ度々意識出来ていない場面も見られている。コロナ対応のため、他職員へ意識を高める様なミーティングやケアワーカー会等の実施が十分にできず、情報伝達が不十分な部分もあった。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 コロナ対応、クラスターとなり、対応で精一杯となり、生活の質の向上を目指すという部分が十分な対応とはならず、最低限の生活を送る事が最優先となってしまったが、大変な中でも改めて多くの学びを得る事になった。 個別のケアプランを確認し、サービスを実施する事で、改めてその方を見つめ直すきっかけとなった。内容を職員間で共有する事で統一したケアの提供が行え、根拠のある記録を残す事により、生活の質の向上に繋がる事が再認識できた。 コロナ禍で制限が掛かり、十分な取り組みができない日もあったが、そうであってもできる事を職員間で考え実施していく事の重要性を改めて感じた。またマンネリ化しない様に引き続きの業務の改善、皆で声を掛け合い、評価を行いながら、サービスの実施と記録を更に充実させていく。 2 接遇面の向上は、挨拶をはじめ、基本的なマナー面を全職員が周知意識していく必要があると再認識出来た。職員間でもコミュニケーションを取りながら、お互いで注意し合える関係性も必要不可欠である。 コロナ対応の中であり、職員も体調を崩しながらも、お互いで声を掛け合い、大変な期間を乗り越える事が出来、改めて絆の様なものを感じる事ができた。 引き続き改善すべき点を意識しながら取り組み、チーム力向上を目指していく。 		

ADLチェックリスト(A棟)

(単位:人)

項目	該当		項目	該当		項目	該当					
	時々	時々		時々	時々		時々	時々				
起 座	自立	21	3	寝返り	自分可	20	0	排泄形	トイレ・トイレ	30	1	
	一部介助	6	0	車椅子	一部介助	4	4	入浴形	尿器	0	0	
	全介助	16	0	食事	全介助	24	0	洗面	差込便器	0	0	
	起座不可	5	0	食形態	自立	8	0	洗面	Pパンツ	28	0	
立 ち 上 排 泄	自立	18	0	食事	一部可	12	1	洗面	オムツ	20	9	
	一部介助	16	0		全介助	24	0		入浴形	一般浴	1	0
	不可	14	0		自立	16	0		洗面	中間浴	25	1
着 脱 衣 入 浴	自立	4	0	食事	一部介助	20	0	洗面	特殊浴	12	0	
	一部介助	24	0		全介助	8	4		洗面	その他	0	0
移 動	全介助	20	0	食形態	普通食	13	0	洗面	歯磨き可	23	0	
	自立	4	0		きざみ	12	0		洗面	うがい可	23	0
	一部介助	23	0		極小	11	0		洗面	顔洗い可	27	0
入 浴	全介助	21	0	食事	ミキサー寒天	8	0	洗面				
	自立	0	0		経管栄養	4	0					
移 動	一部介助	16	0	食形態	とろみ食	0	0	洗面				
	全介助	32	0		箸	16	0					
	自立	12	0		スプーン	48	0					
移 動	一部介助	12	3	食事	手づかみ	0	0	洗面				
	全介助	24	0		器具	全介助	8		4			

3/15現在
在籍者 本入所48人

重複している場合あり
夜間使用も含む
項目の不可は全介助で数えている
洗面は拭くだけの人も可で数えている
移動手段は歩行、つえ歩行、歩行器
ウオーカー、車椅子、介助歩行

ADL及び介護の実施状況 (A棟) 毎月15日現在

現在員 58人(SS利用者含む)
R5,3/15現在 在籍者48人(入院者1人)

月	オムツ		Pオムツ		トイレ		便尿器		歩行器		杖		車椅子		食事		入浴			経管 栄養	入院	欠員 外泊	
	日	夜	日	夜	日	夜	日	夜	日	夜	日	夜	日	夜	全	一	一	中	特				清
4	13	19	21	15	1	5	0	0	0	0	0	0	35	5	5	7	1	21	14	0	2	3	11
5	18	24	24	18	1	4	0	0	1	1	1	1	41	8	4	12	2	24	18	0	5	0	6
6	21	27	26	22	1	5	0	0	1	1	1	1	46	6	6	14	2	24	23	0	5	0	1
7	21	28	26	20	1	5	0	0	1	1	1	1	46	5	5	11	2	26	22	0	5	1	0
8	21	28	26	20	1	5	0	0	1	1	1	1	46	5	6	10	2	26	22	0	5	0	0
9	20	27	26	20	1	5	0	0	0	0	2	2	47	6	6	10	2	26	21	0	5	1	0
10	20	27	26	18	1	5	0	0	0	0	2	2	44	10	5	14	1	25	21	0	5	1	2
11	20	26	25	18	1	5	0	0	0	0	2	2	43	10	4	14	1	25	20	0	5	1	3
12	20	29	28	20	1	5	0	0	1	1	2	2	45	6	6	11	2	25	23	0	5	0	0
1	18	27	28	20	1	5	0	0	1	1	2	2	43	6	6	10	2	25	21	0	4	0	2
2	16	24	27	20	1	5	0	0	1	1	2	2	42	5	5	8	1	26	20	0	4	0	3
3	13	21	27	20	1	7	0	0	1	1	2	2	39	5	5	8	1	26	17	0	4	1	2

A棟 事故防止委員会

1. 報告件数

事故報告件数34件(入所利用者21件・短期入所利用者13件)で昨年度比-1件、ヒヤリハット件数253件(入所利用者219件・短期入所利用者34件)で昨年度比-10件でした。

2. 月別発生件数(図1参照)

事故件数については6月が最も多く7件となっています。

事故区分の7割を転倒・滑落が占めており、6月の事故の内4件が転倒の事故となっています。夜間から明け方に多く発生しており覚醒不良によって動き出しにバランスを崩されてしまう事も要因なのではないかと思えます。昨年度の5月より眠りスキャン・インカムが導入されました。以前は事故後に発見する事故が多かったが導入後はご利用者の動き出しを把握する事が出来、未然に防げた事故が多々あると思えます。眠りスキャンでは上体を起こすだけでなく端座位にならないと起き上がりの反応が出ない事やタイムラグがあるので機械に頼り切るのではなく、引き続きこまめな巡回を継続して行っていく必要があると思えます。

3. 発生時間(図2参照)

5時~6時、6時~7時の時間帯にそれぞれ4件の事故が発生していました。

事故の内容としては月別発生件数で記述した通り転倒・滑落の事故が多くあがっています。ヒヤリハットは10時~12時に54件あがっており、同時刻に起こったヒヤリハット内訳を見ると入浴時に発見した表皮剥離や皮下出血・入浴拒否をされ職員に噛みつこうとされたなど入浴時に関する件が半数を占めています。入浴拒否をされる方へのアプローチを様々行っており、日により拒否なく入浴出来ている日もあるので落ち着いて入浴された日の成功例を職員間で共有し本人にとって入浴しやすい環境を作りたいと思えます。同様に14時~16時にも56件あがっており、居室にて自力移乗を試みた結果起こってしまったヒヤリハットが午前中と比べ多くあがっています。午後に滑落・転倒件数が多い要因として、午前中と比べて居室で過ごされている事が多い、日勤職員が休憩に入っておりフロアに居る職員の数が少なく居室で過ごされている方の見守りが他の時間に比べると手薄になってしまう事、昼食後にインカムを持っている職員が少なく職員間で迅速に連携を取る事が難しいなどが要因として考えられます。今後の対策として、職員だけでなくパート職員もインカムを携帯し上手く連携を取れるよう対応していきたいと思えます。

4. 区分別・発生場所(図3・4参照)

(1) 事故

ア、転倒：14件(昨年度比±0件)

イ、滑落：9件(昨年度比+5件)

居室内での事故が多く、起居動作場面際で転倒・滑落をしてしまう事故が多くありました。

ADLに合わせてベッド柵やタッチアップを使用し立ち上がり・座位保持を安定して行える環境を作る、居室で休まれている際には車椅子やPトイレへ移乗しやすいように設置されているか・足底がしっかりとつくベッドの高さに調整されているか都度確認する、スキャンのアラームが鳴った際には訪室するなどの事に意識して転倒・滑落の事故を未然に防いでいけるよう心がけていきたいと思えます。

5. 重大事故

(1) 全介助利用者による骨折の事故が2件ありました。

前年度も同様の事故があり重大事故として挙げていましたが、再発防止策が活かされていなかったのではないかと考えられます。高齢で骨が脆くなっている事を念頭に置いた上で体位交換・排泄介助を行っていけるよう再度職員間で認識・共有し同様の事故を繰り返さないよう努めていきたいと思えます。

- (2) 認知症を患っている短期入所利用者が、明け方に敷地外へ出られ帰宅されてしまう事がありました。一昨年にも同様の事故がありましたが、時間が経ちその際に立てた再発防止策が風化してしまった結果として同様の事故に繋がってしまったのではないかと思います。そのため、事故が風化しないよう定期的な発信をしていく事が必要だと思いました。また、今回の事故で立てた再発防止策の1つとして緊急時のフローチャートを作成しました。発生しないために巡回や利用者の精神状態に沿った対応を行う事は勿論、万が一離脱をしてしまった時にはどのように動けばいいのかを職員一人ひとりが周知出来るよう定期的に目を通す機会を設けていきたいと思っています。
- (3) 職員との接触による転倒の事故がありました。明け方にご入居者の誘導を行っていた際、起きて来られた事を認識してなく接触し、転倒させてしまい右足転子部・右手遠位端の骨折をさせてしまうというヒューマンエラーの事故がありました。常に利用者が居る事を想定し、視界の悪い場所では確認を怠らずに誘導していきたいと思っています。

6. ヒヤリハット (図5・6参照)

ア、表皮剥離：48件(昨年度比+14件)

イ、転倒：47件(昨年度比+14件)

排泄介助時、入浴の着脱時に表皮剥離の発見が多くありました。昨年度も表皮剥離のヒヤリハットが1番多く、排泄介助時・体位交換・移乗時が多いのではないかと考察したが、介助方法の検討・統一・共有を行う機会をあまり作れていなかったため前年度の反省を活かし本年度実施していけるよう努めていきたいと思っています。

7. 総評

- (1) 眠りスキャンが5月より導入されました。初めのうちは慣れていないこともあり活かしきれず、ご入居者で上半期に転倒の事故が4件出ていましたが、下半期は転倒の事故が1件まで減少しました。離床検知などにより初動が把握しやすく導入前に比べ迅速に対応出来ている効果の現れだと思っています。しかしその一方で、短期入所ご利用者の転倒事故は上半期5件、下半期4件とあまり差がありませんでした。要因として短期入所利用者の使用されているベッドは眠りスキャン上に反映されておらず、別端末より確認しなければいけないため、ご入居者と比べ確認できる手段が限られてしまう事だと思っています。来年度は短期入所利用者の方も事故が減らせていけるよう改善案を考えていきたいと思っています。
- (2) 本年度より検討をかける際に参加する職員が変更となり、介護職員と看護師で検討をかけられるようになりました。昨年度まで事故発生から検討まで時間がかかっていましたが本年度は検討・再発防止策の実施・再検討の一連の流れをスムーズに行えるよう努めていきたいと思っています。
- (3) A棟では3つのステージ分けをしている区分表をワーカー室に掲示し、対応後の記録を行う際に今起こった事例がヒヤリハットなのか事故なのかを判断しやすいよう掲示を行いました。またヒヤリハット早見表の更新や危険予知トレーニングを定期的に行っています。リスクの早期発見を行い重大な事故に繋がらないよう取り組みを継続していきたいと思っています。
- (4) 本年度はA棟内でコロナウイルスが流行し居室隔離を行わなければならない状況になりました。その際、環境の変化・外へ出られないストレスによって精神状態が不安定な利用者がいたため次回同様に隔離をしなければいけない状況の際にはストレスの緩和を行い精神状態の安定を図りたいと思っています。
- (5) 精神不安定な事がヒヤリハット・事故に繋がっている件があるため、精神状態が不安定だと感じた際には巡回をいつもより多く行う、職員の目が届く場所で過ごして頂くなど精神状態に寄り添って介助を行っていけるよう努めていきたいと思ふ。
- (6) インカムを活用する事で職員・利用者の所在確認が以前より行いやすくなり、食堂を離れずに連携を取れるようになったため見守りが以前よりしやすくなったため今後も継続して行っていきたいと思っています。また、インカムを使う事で職員同士が声を掛け合う事の重要性を再認識できたため今後もインカムだけでなく声を掛けあって介助にあたっていけるよう心掛けていきたいと思っています。

図1. 月別発生件数

入所者・ショート別

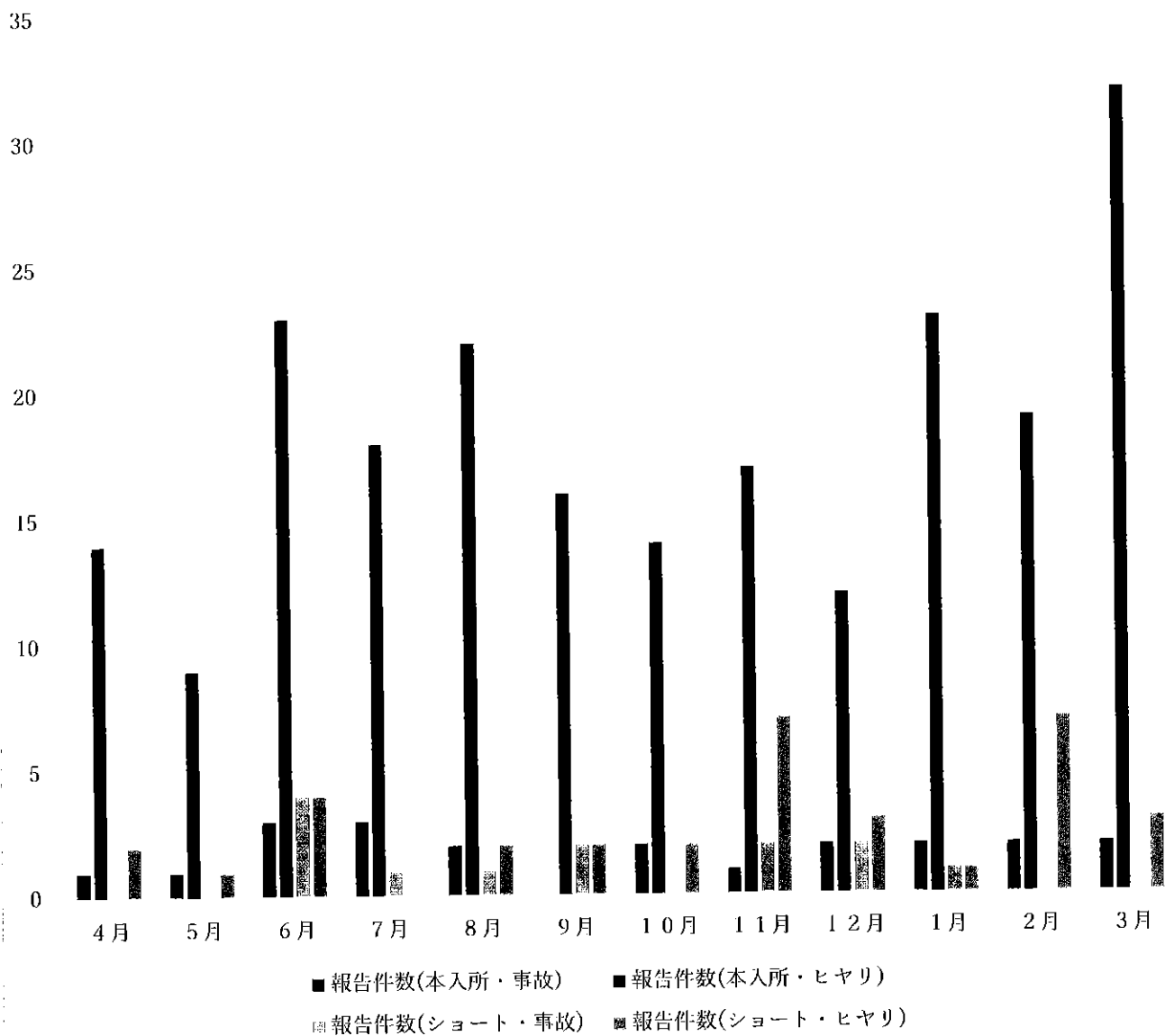


図2. 発生時間

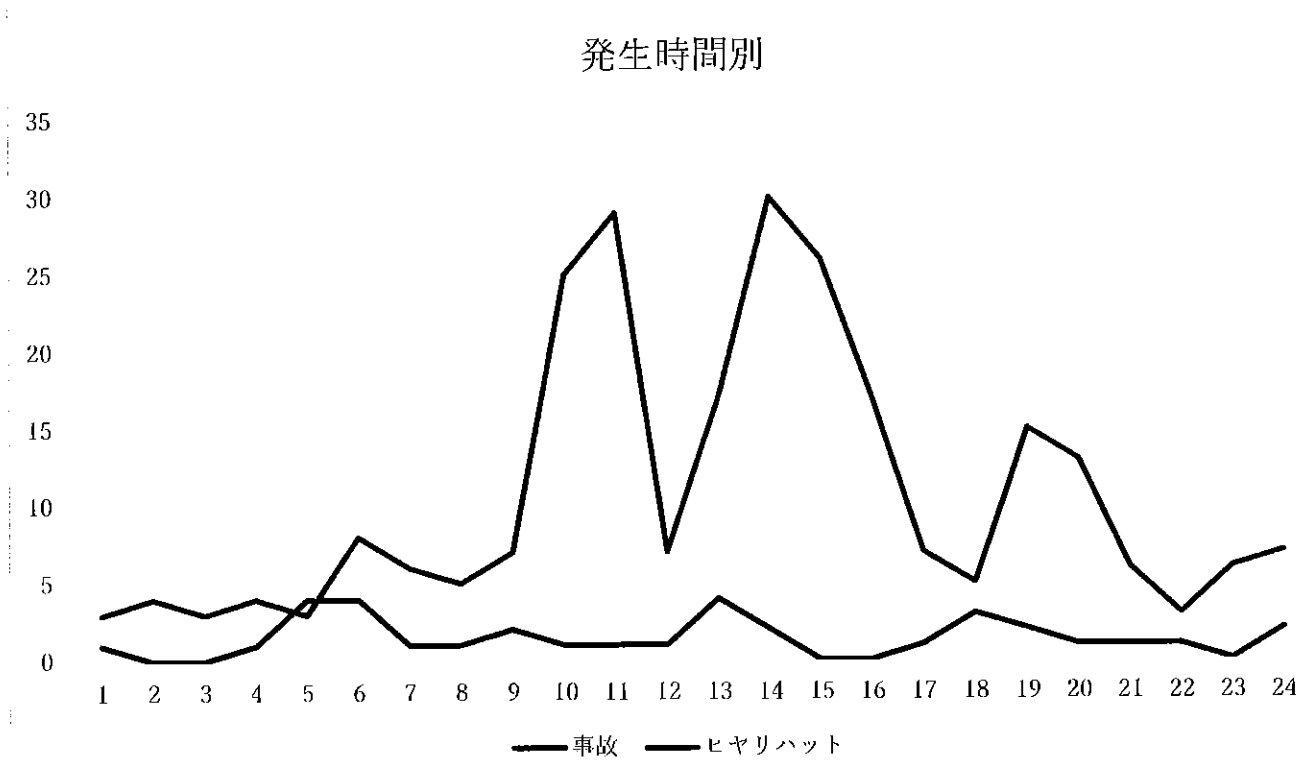


図3. 事故の区分別件数

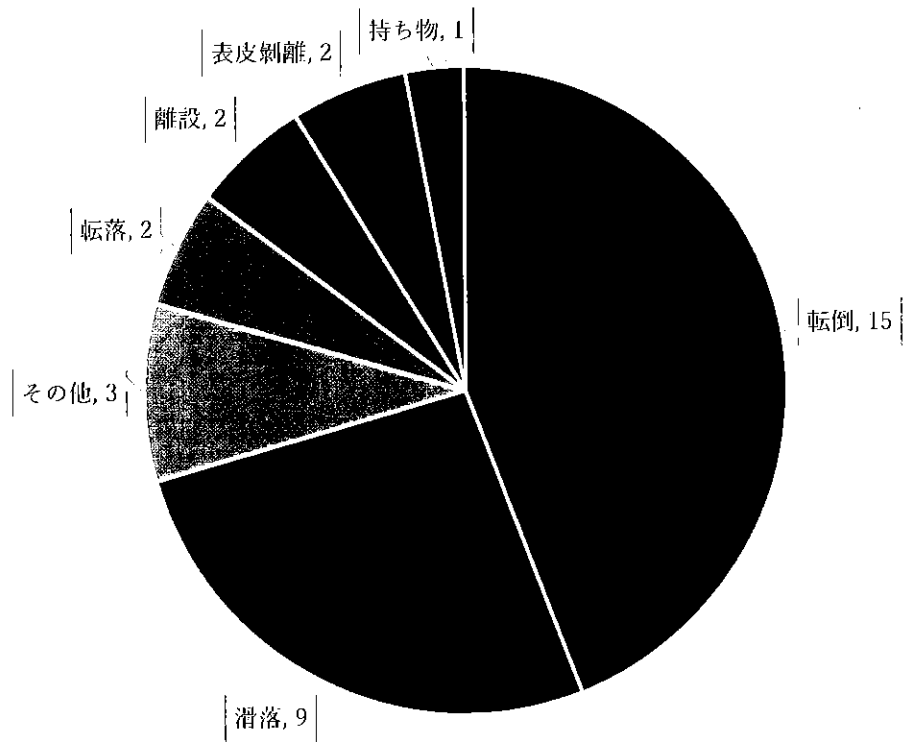


図4. (事故) 発生場所別件数

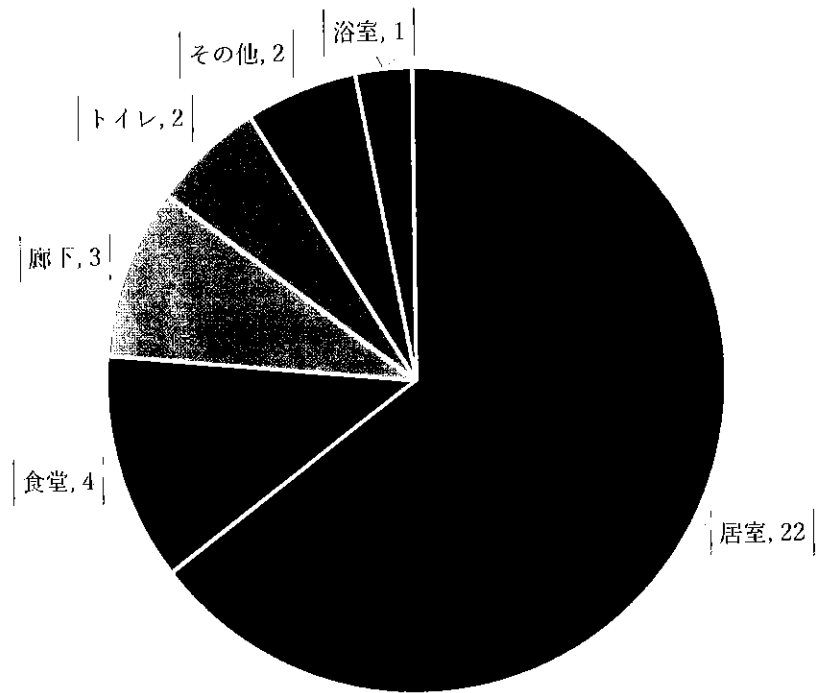


図5. ヒヤリハットの区分別件数

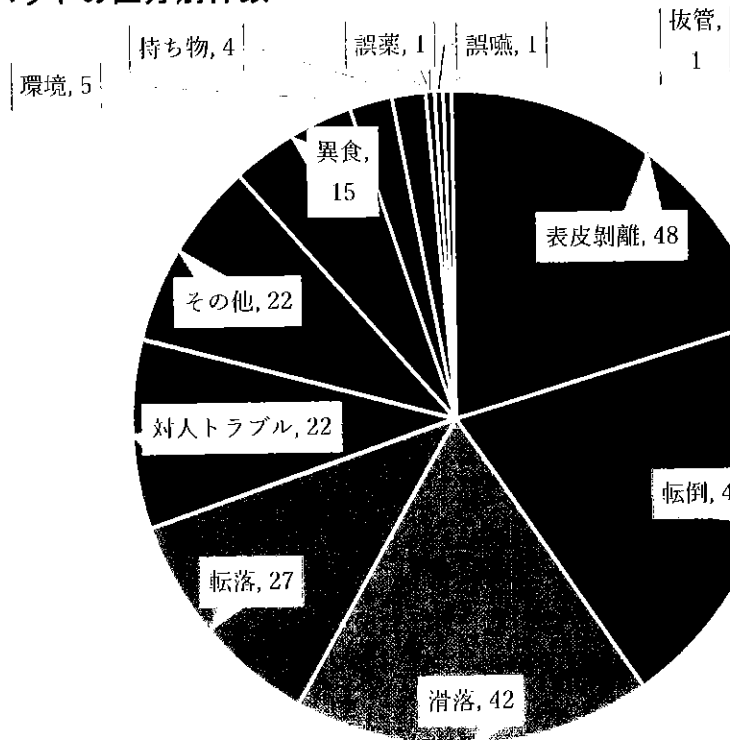
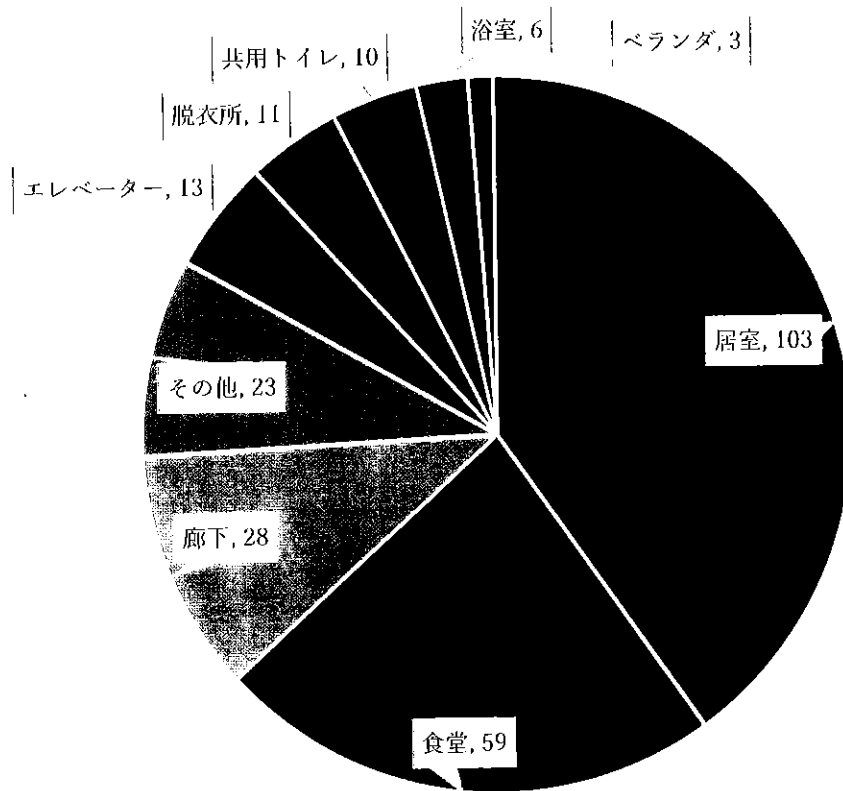


図6. (ヒヤリハット) 発生場所別件数



部門名	部門人数	作成責任者名
特養B棟	32	豊田 浩之
1 目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 認知症ケア及び質の向上 2 安心・安全で充実した生活空間の提供 3 社会人基礎力の向上（前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力） 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 研修参加やケアワーカー会、日中のミーティングにて支援方法について話し合いの場をもち日々の個別支援に活かした。 2 環境担当グループを中心に生活環境についての振り返りの機会を設けた。 3 主任、副主任、リーダーが中心になり課題を共有し課題解決に向けての話し合いや、職員との面談を行った。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 コロナ対策、クラスター発生もありゾーニング対応中には最低限度の生活の支援をする事が一杯な時期もあった。 訓練が十分に行えていない中、クラスター発生時の振り返りを行うことで多くの学びを得ることができた。 落ち着いている時期には、認知症の勉強会の実施や、記録や日々の申し送り等で情報共有を行い新しく本入所された方も施設での生活に慣れていただけた。 また入浴や生活リハビリ等ケアプランを今までより意識して日々の支援を行う事ができるようになった 2 「利用者さんにとっての環境」を改めて考える1年になった。 withコロナに向けて各部署と連携して環境改善を行えた。 3 コロナ対策が優先され職員の基礎力の向上とはいかなかった。 会議や話し合い、研修、職員相互からの学びの機会が少なかった。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 その方の「小さなできる」を見つける前向きな視点で利用者を支えることができた。 認知症の知識やコミュニケーション技術など個人差があるが、実践者研修、リーダー研修参加者が中心となり日々のケアの振り返りや勉強会など専門棟としての役割を果たせるようスキルを磨いていきたい。 またケアプランの理解共有、実践、記録しより良い生活に繋げていきたい。 2 一昨年ショートステイユニットを作り学んだ事を活かし、排泄介助や個別入浴など日々の日常生活の中で、「自立」に向けて業務改善試みを行った。 また環境の一部として私たち職員の態度や姿勢など常に振り返る必要がある。 コロナ5類引き下げ後も高齢者にとってのリスクに変わりはない。 状況をみながらではあるが、ご家族や地域との繋がりを取り戻していきたい。 3 コロナクラスター発生時など、レッドゾーン対応や勤務変更など快く引き受けてくれ利用者を守るために働いてくれる心強い職員が多くいてくれる事を改めて実感することができました。 福祉は人、自分自身が成長し、お互い学び合い、人を育てていける職場を作っていきたいと思います。 		

ADLチェックリスト (B棟)

(単位:人)

項目	該当時々		項目	該当時々		項目	該当時々								
	該当	時々		該当	時々		該当	時々							
起座	自立	8	4	寝返り	13	10	排泄形	トイレ・トイレ	34	0					
	一部介助	19	2	車椅子	11	0	尿器	0	0						
	全介助	18	0	食事	31	0	差込便器	0	0						
	起座不可	10	0	椅子	0	0	Pパンツ	33	0						
立ち上	自立	14	0	食事	一部可	1	3	オムツ	22	45					
	一部介助	21	3		全介助	30	2	入浴形	一般浴	13	0				
	不可	20	0		自立	22	0	中間浴	23	0					
排泄	自立	0	0	食事	一部介助	18	3	洗面形	特殊浴	19	0				
	一部介助	8	0		全介助	17	9	その他	0	0					
着脱衣	自立	47	3	食事	普通食	11	0	洗面	歯磨き可	15	6				
	一部介助	2	1		きざみ	10	0	うがい可	21	6					
	全介助	4	2		極小	25	0	顔洗い可	23	5					
入浴	自立	49	0	食事	ミサー寒天	4	0	洗面							
	一部介助	6	2		経管栄養	0	0								
移動	自立	0	0	食事	ミサー食	4	0					重複している場合あり 夜間使用も含む 項目の不可は全介助で数えている 洗面は拭くだけの人も可で数えている 移動手段は歩行、つえ歩行、歩行器 ウオーカー、車椅子、介助歩行			
	一部介助	49	0		箸	12	0								
	全介助	49	0		撮影	0	0								
動作	自立	3	0	食事	スプーン	26	0								
	一部介助	21	1		道	0	0								
	自立	31	0	器具	手づかみ	0	0								
	一部介助	31	0		全介助	17	9								

3/15現在

在籍者 本入所56人(入院1人)

ADL及び介護の実施状況 (B棟) 毎月15日現在

R5.3.15現在 在籍者56人

月	オムツ		Pオムツ		トイレ		便尿器		歩行器		杖		車椅子		食事		入浴					経管栄養	入院	欠員外泊
	日	夜	日	夜	日	夜	日	夜	日	夜	日	夜	日	夜	全	一	一	中	特	清				
4	30	53	36	3	0	2	0	0	1	0	0	0	42	0	17	12	10	27	19	0	0	0	0	
5	30	53	34	2	0	2	0	0	1	0	0	0	42	0	18	11	10	27	19	0	0	0	0	
6	28	51	31	3	0	2	0	0	1	0	0	0	38	0	14	17	11	25	19	0	0	1	0	
7	28	52	32	3	0	2	0	0	1	0	0	0	41	0	16	16	12	24	20	0	0	0	0	
8	27	52	34	3	0	2	0	0	1	0	1	1	39	0	18	14	14	22	20	0	0	0	0	
9	24	49	29	5	0	2	0	0	1	0	1	1	35	0	19	17	13	21	20	0	0	2	0	
10	25	48	33	5	0	2	0	0	1	0	1	1	36	0	17	17	13	21	19	0	0	0	3	
11	25	47	30	7	0	2	0	0	2	1	1	1	34	0	15	21	14	21	20	0	0	0	1	
12	25	48	31	7	0	2	0	0	2	1	1	1	34	0	14	19	15	20	21	0	0	0	0	
1	24	47	32	8	0	2	0	0	2	1	1	1	33	0	14	19	15	20	21	0	0	0	0	
2	23	46	31	9	0	2	0	0	2	1	1	1	34	0	15	15	15	20	19	0	0	0	2	
3	22	45	33	10	0	3	0	0	2	1	1	1	32	0	17	18	13	23	19	0	0	1	0	

ADLチェックリストからの考察

令和4年度に本入所された方は歩かれています方が多く車椅子を使用される方が少なくなりました
入浴についても一般浴の方が増えました

記憶障害が見当識障害、実行機能障害など認知症の中核症状はあります

食事についてはその日その時により、ご自身で召し上がることができる時とそうでない時があります。どの生活動作にも言えることですが、残存機能を維持して頂くことが大切です

利用者さんの健康の基盤にある食事が、美味しく出来るだけご自身で食べていただけるよう支援方法を共有していきたいと思えます

また着衣動作や立ち上がり、歩行、話をする、表情を表出するなど「その方のできる」を大切に見守ること、必要時に声を掛けること、必要などころをお手伝いすること、当たり前のことですが日頃の業務に追われず自立支援の観点をもって関わってきたいと思えます

B棟 生活リハビリ及びクラブ活動実施状況

クラブ活動実施状況

	クラブ名	平均参加人数(人)	開催状況	担当者
1	音楽療法	20前後	月2回	西先生・職員
2	書道	2～3	月1回	職員
3	創作クラブ	5～10	月1～3回	職員
4	回想法	5～8	月1回	職員
5	安息日礼拝 (R5年3月から再開)	3～4	週1回	チャプレン、職員
6	外気浴・散歩	5～20	随時	職員
7	クッキングレク	4～10	月1回	職員

※新型コロナウイルス感染に伴いボランティアの訪問、実施はありません

※ラジオ体操は毎日実施、歌レク 脳トレ、茶話会、ボール等使用したレクリエーションなど随時実施

B棟 事故防止委員会

1. 報告件数

事故報告件数 37 件（うち入所利用者 31 件・短期入所利用者 6 件）昨年度比 - 22 件、ヒヤリハット件数 108 件（うち入所利用者 97 件・短期入所利用者 11 件）昨年度比 - 51 件でした。

2. 月別発生件数（図 1 参照）

事故件数については 12 月が 4 件で最も多くなっています。次に 5 月・8 月・1 月の 3 件となっています。その事故区分の約半分が転倒で占めており、夕方から夜間の時間帯が多くありました。身体機能の低下からくる歩行状態が不安定な方の急な立ち上がりや歩行時にバランスを崩される為、転倒が多く出てしまいました。原因としては身体機能の低下で下肢に力が入らず膝折れしてしまう事が原因の一つだと思われます。

3. 発生時間（図 2 参照）

16 時～17 時が 5 件で最も多く、次に 9 時～10 時・14 時～15 時・19 時～20 時・21 時～22 時の 3 件で事故が発生しました。又、ヒヤリハットは食後の時間が多く出ています。

16 時～17 時の事故は 5 件中 4 件が 3 階で起きており、ご利用者をデイルームから食堂に誘導するため、職員の見守りが手薄になってしまうことが原因の一つだと思われます。又、9 時～10 時は脱衣所で入浴のために脱衣した際に発見することが多くありました。他の時間の 14 時～15 時・19 時～20 時・21 時～22 時は休憩や夜勤などで稼働している職員の人数が少なくなってしまう、見守りが手薄になってしまう事も原因の一つだと思われます。

4. 区分別・発生場所（図 3・4・5・6 参照）

（1）事故

ア. 転倒：16 件(昨年度比-13 件)

イ. 表皮剥離：4 件(昨年度比+0 件)

転倒の事故の件数が昨年度より 13 件少なくなっています。昨年度、事故防止のマニュアルの更新により線引きが変わったことにより減少したと思われます。16 件の転倒に関しては同じご利用者が複数回転倒され、急な立ち上がり歩き出しで職員の対応に遅れてしまったことが原因の一つだと思われます。又、昨年度最も多く事故があった 2 階デイルームでの事故も 9 件から 3 件に減少しており、その 3 件も表皮剥離でご利用者の皮膚の状態を確認してから介助をすることで再発防止に努めていきます。

5. 重大事故

- (1) バルーンパックのチューブが抜管してしまう事故がありました。過去にも何度か起きてしまっている事故のため、定期的に外れやすくなってしまう可能性がある為、それを念頭に置いておき、バルーンパックとチューブの位置を確認しながら介助をして再発防止に努めます。
- (2) 利用者の骨折が2件ありました。1件は全介助の利用者で骨が弱くなっていることを再度意識し、移乗介助の際負荷のかからないよう体の大きな部分を支え介助を行い再発防止に努めています。もう1件に関しては普段から急な立ち上がりのある方で歩行状態の悪い方であるため、下肢筋力の低下が原因の一つだと思われるため、体操などを行い下肢筋力の維持、上昇していくことで再発のリスクを減らすようにし再発防止に努めていきます。

6. ヒヤリハット

- (1) 転倒：37件
- (2) 異食：19件

転倒のヒヤリハットが多く出ており、原因としては、下肢筋力の低下や足が上がりきっていない可能性が多いと思われます。本人の体調や下肢筋力の低下の様子を見ながら介助をしていきます。又、異食も多く出ており、異食の可能性のある方の近くにもものを置かないなど基本的なことを徹底していくのと同時に見守りをしています。

7. 総評

4月より入居棟で勤務形態の変更があり、職員の動きが多少変化しました。職員の動きが変わったことにより、ご利用者の生活に変化が出てくる可能性があることを念頭に入れ、生活環境を考えて利用者が不安にならない様にし、事故件数が上昇しないように努めていきます。又、本年度は骨折の重大事故が出てしまいました。再発防止策を引き続き実施し、小さなヒヤリハットを皆で共有することで事故、特に重大事故の発生防止に努めていきたいと思えます。

図1. 月別発生件数

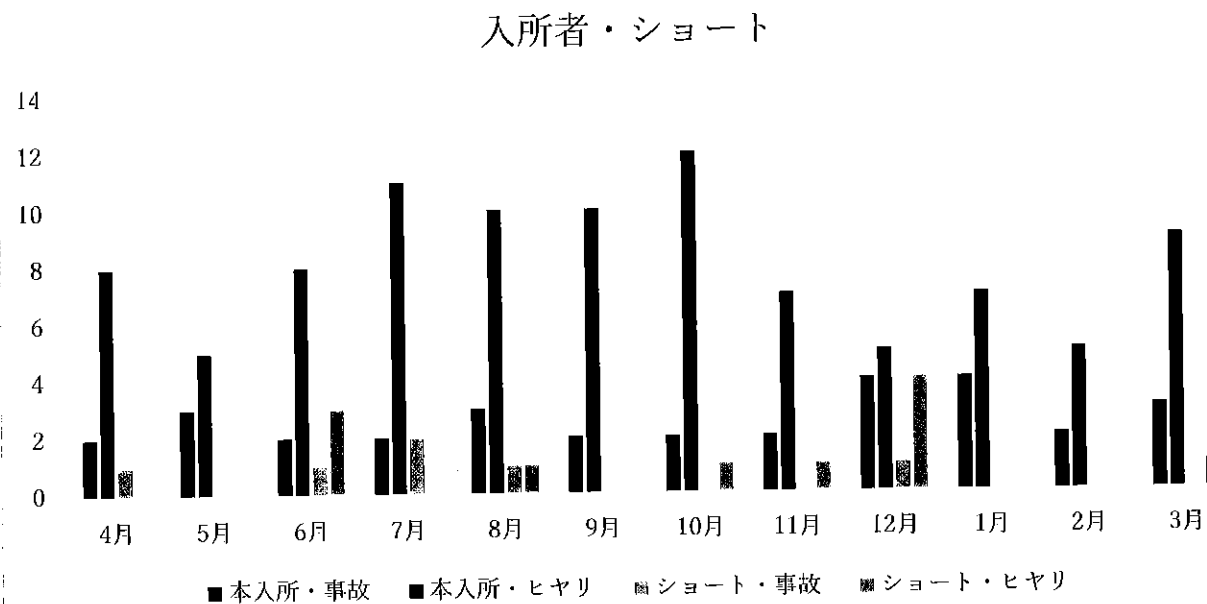


図2. 発生時間

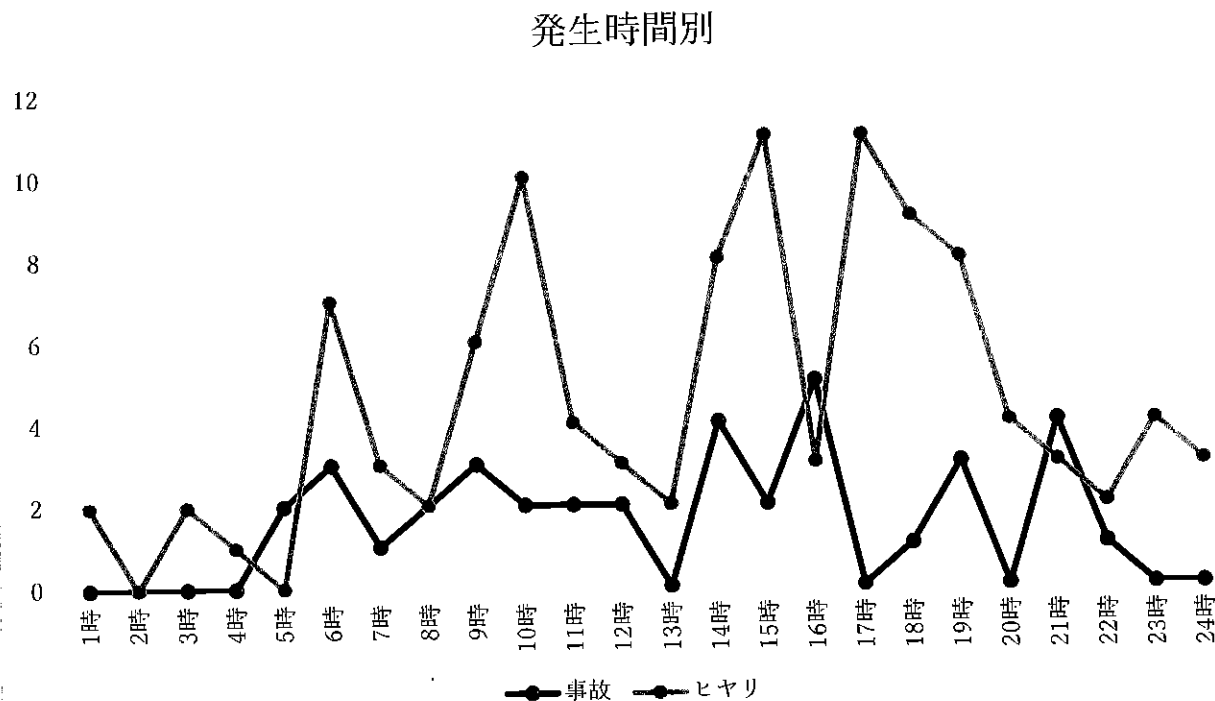


図3. 事故の区分別件数

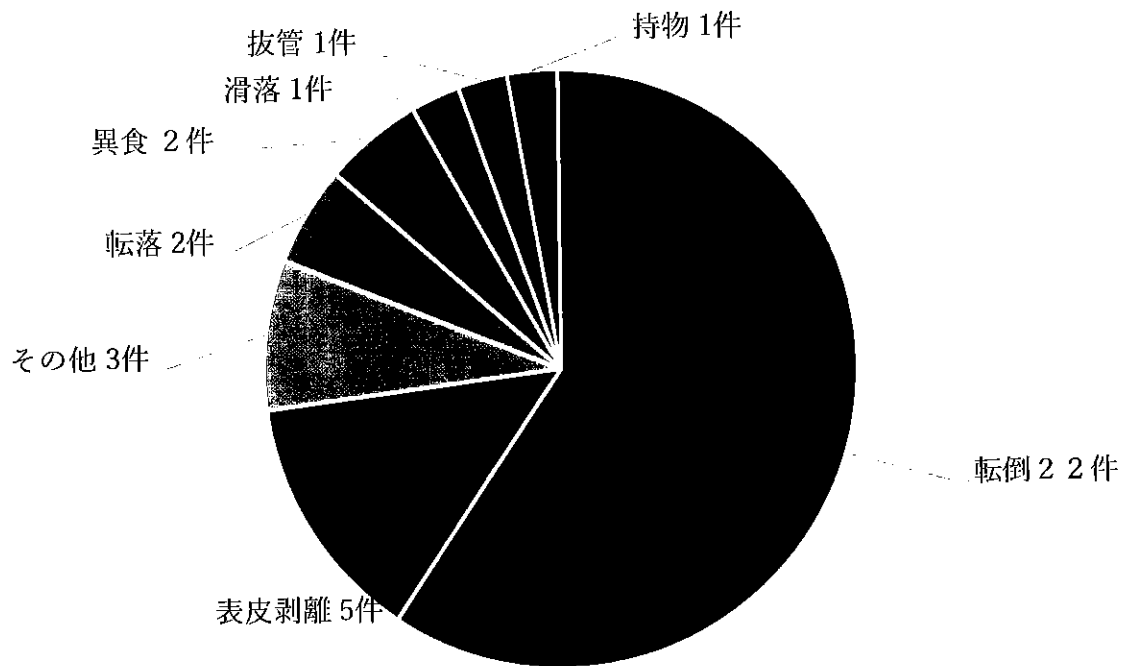


図4. ヒヤリハットの区分別件数

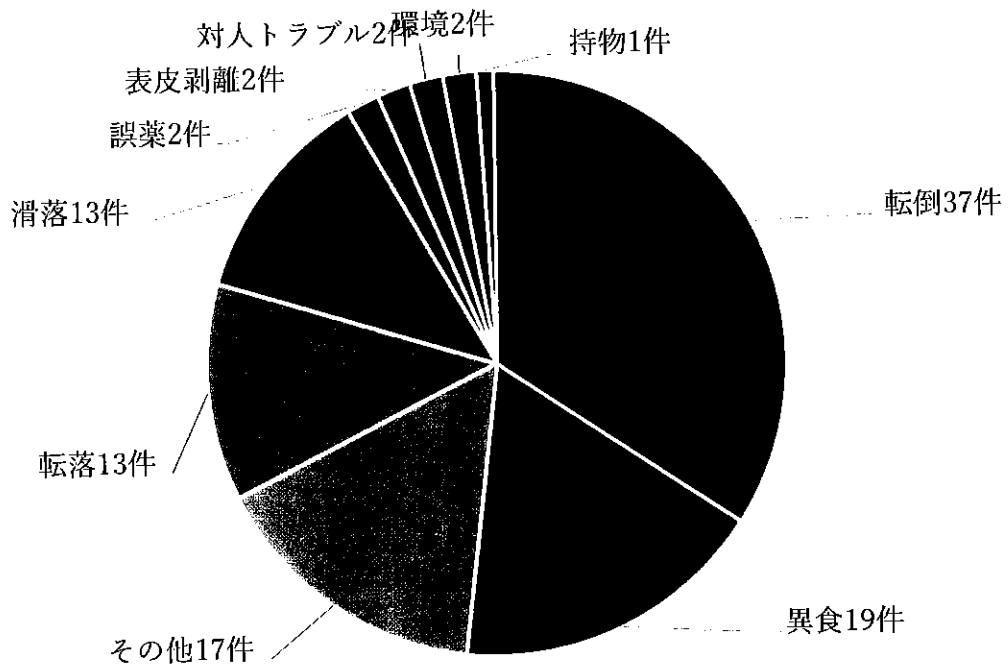


図5. (事故)発生場所別件数

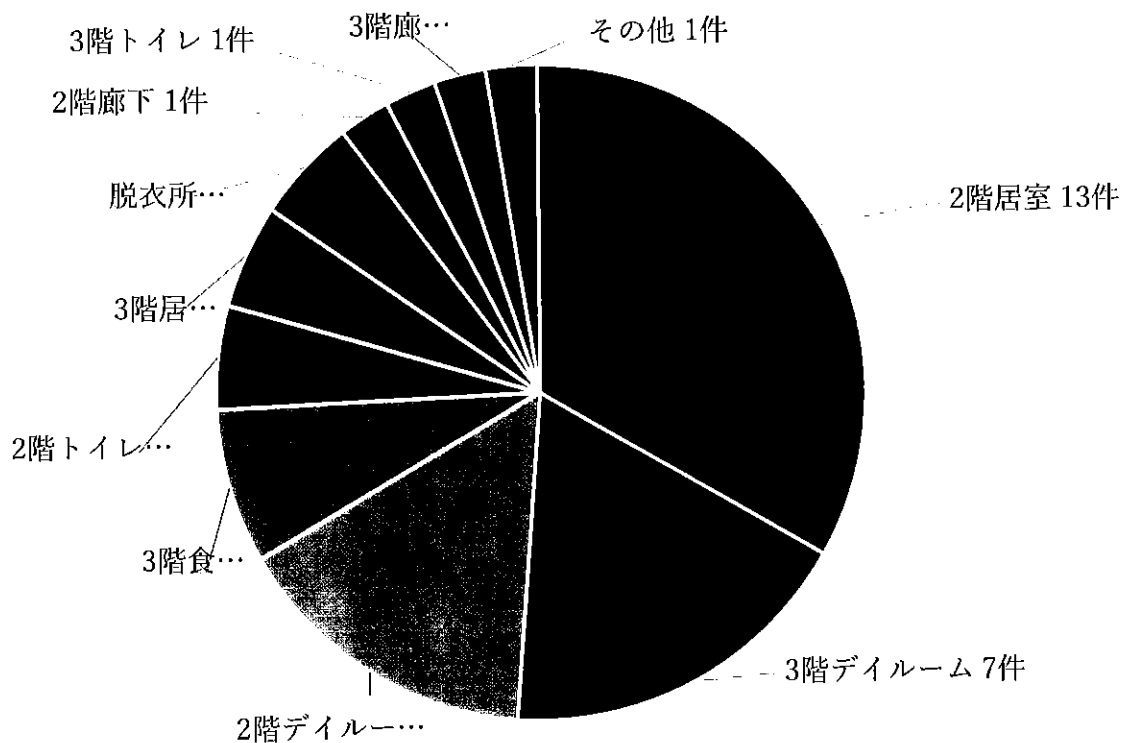
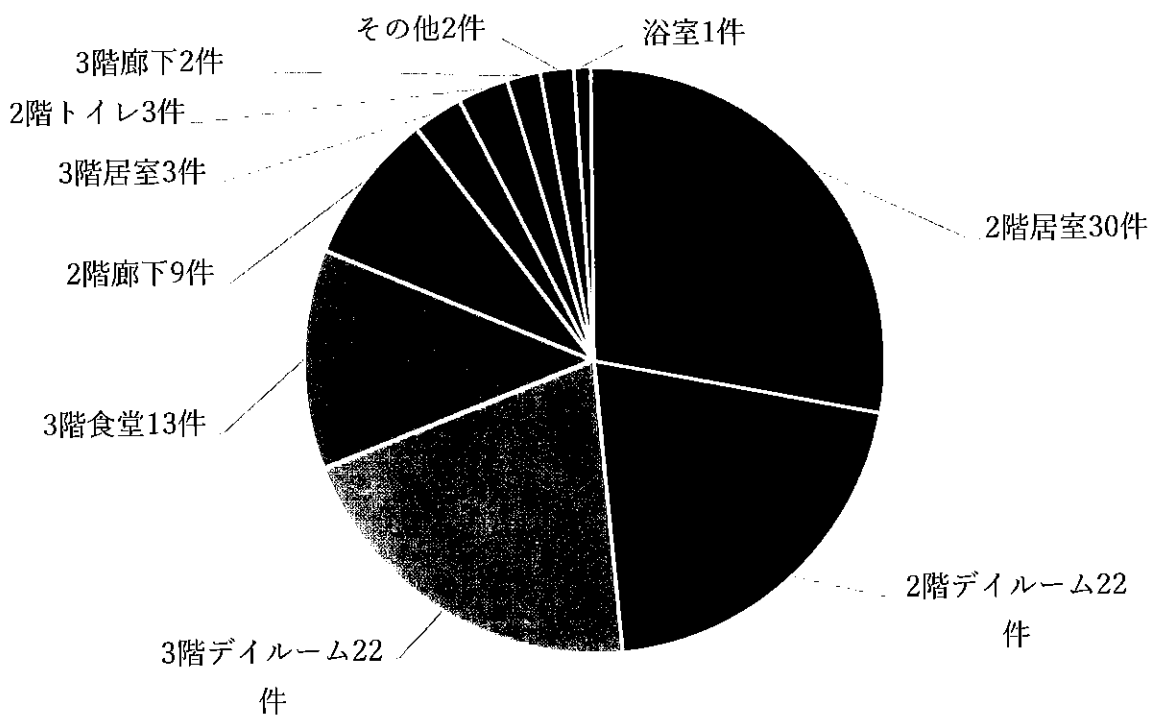


図6. (ヒヤリハット)発生場所別件数



部門名	部門人数	作成責任者名
医務	7	中園 和子
<p>1 部門目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 勉強会、研修をミーティングごとに行い習得していく 2 情報把握に努め、早期発見、治療に繋がられるように連携を強化しご利用者、ご家族の意向に寄り添うような対応をしていく 3 日々の生活記録の充実を図る 4 医務室をオープンにし、気楽に相談しやすい場所となるようにしていきたい 5 看護師が情報を共有し統一した情報を発信できるように強化する 		
<p>2 実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 定期・不定期勉強会開催 リモートによる研修参加とフィードバック 喀痰吸引指導者研修への参加。 2 感染期における対応 関係機関への症状の報告 コロナ予防ワクチンの接種・相談。 3 関係機関へのサマリー提出 部門同士で連携が取れる必要な情報の記録を実施。 4 昼休み以外はドアをオープンとし、入りやすい場所とした。 5 感染症予防・対策として嘱託医への相談。ご利用者の疾病や援助方法についての助言を医務室内でも共有。 		
<p>3 結果（グラフや数値等は別に添付）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ミーティングの時間を活用し、機能訓練・感染症といった勉強会を開催した。 年度後半では、機能訓練について訪問マッサージの業者に相談。勉強会を企画した。 2 クラスター発生時、必要な情報を保健所と連絡を取り合った。ご利用者のご家族からはワクチン接種の判断や感染期の生活の様子等の連絡が多かった。早めの医師面談を実施し、年間の看取りのご利用者は24人となった。 3 個別機能訓練計画書を作成し、目標がある支援をできるような計画を作成した、 4 職員の健康面や悩み、コロナ関連の不安から自身の生活相談の場所として訪れる方が多かった。 5 嘱託医の意見・指示を円滑に施設内で伝達し対応した。外部サービス（歯科・訪問マッサージ）等も感染状況により、サービスを中止せざるを得なかった。 		
<p>4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 機能訓練指導員としての役割もあるので、今後も学び合い施設での生活リハビリを充実できるようにしていきたい。 2 コロナ罹患とともに、全身状態が悪化となり看取り期に入られたご利用者や面会ができていない状況下での生活の報告をご家族に伝える難しさを実感した。また、保健所等には速やかな情報提供が必要となる等、柔軟な対応が求められた。振り返りを行い、学びと変えたい。 		

- 3 LIFE加算の新規取得もあり、既往歴・服薬などの情報の入力が必要とされた。褥瘡、拘縮予防、意欲低下等、廃用症候群予防の為に生活リハビリを通し、介護部門に適切な生活のアドバイスが求められる。
- 4 職員が心身ともに健康で働きができるよう、来年度以降も続けていきたい
- 5 クラスター発生時は、医務室も二つのグループに分け業務を実施した。グループに分けたが、互いの棟のご利用者の様子の共有ができるよう情報共有に努めた。目まぐるしく、感染症の状況や対策が変化する一年であったが、以前の生活に一刻でも戻ることができるよう今後も県の指針を基に、嘱託医と相談、シャロームでの対応を伝えていきたい。

日 常 業 務

【下剤】 (件数)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
レシカルボンを挿入する	64	29	14	30	9	18	15	19	12	24	14	25	273	23
浣腸を施行する	78	36	33	57	63	54	53	38	35	60	55	62	624	52
排便を行う	25	11	15	19	35	18	15	16	7	9	34	15	219	18
【処置】 (件数)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
吸引を施行する	116	42	31	57	69	46	49	41	49	36	53	63	652	54
酸素吸入を開始する	5	2	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	11	1
酸素吸入継続中、及び時々使用	30	10	0	0	0	0	6	0	1	3	1	0	51	4
褥瘡部の処置を行う	195	166	189	182	109	59	74	64	123	138	111	133	1543	129
ガーゼする	228	163	260	342	282	193	359	262	323	152	193	238	2995	250
軟膏塗布する	226	223	266	350	308	119	173	290	297	175	231	192	2850	238
点眼介助を行う	394	391	464	454	443	449	396	428	442	367	404	462	5094	425
薬剤テープを貼付する	180	147	210	216	229	184	219	238	246	238	195	259	2561	213
湿布をする	48	23	31	38	34	16	14	8	4	10	10	9	245	20
血糖検査を行う	25	20	41	30	26	14	43	30	25	17	22	26	319	27
坐薬を挿入する	1	3	1	2	8	2	4	11	5	2	3	0	42	4
フィアルムを貼付する	16	16	6	11	14	5	7	8	2	3	4	7	99	8
点耳を行う	0	0	19	0	0	0	0	0	1	0	5	37	62	5
インスリン注射を施行	8	5	5	4	6	0	6	10	8	4	2	8	66	5.5
ストマ交換を行う	5	6	5	8	13	5	0	0	3	7	7	6	65	5
膀胱洗浄を施行する	5	4	4	5	4	4	4	4	4	7	9	4	58	5
皮下注射を行う	0	3	9	10	10	8	11	16	11	9	10	9	106	9
点滴を施行する	21	0	1	0	0	1	0	1	1	3	2	0	30	3
コロナ抗原検査を行う	0	1	1	1	1	162	49	64	67	407	1	1	755	63

内科・精神科・歯科の往診人数

内科 (月8回) 稲垣医師	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
A	71	70	71	65	81	63	68	68	62	68	67	65	819
B	70	80	75	71	96	102	70	86	71	78	78	70	947
計	141	150	146	136	177	165	138	154	133	146	145	135	1766
内科 (月4回) 小山田医師	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
A	11	20	24	13	13	5	19	5	7	0	13	12	142
B	3	16	10	15	14	4	8	6	6	0	9	10	101
計	14	36	34	28	27	9	27	11	13	0	22	22	243
精神科 (月2回)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
A	2	8	6	8	8	TEL	4	4	TEL	0	4	9	53
B	12	25	24	26	26	TEL	19	28	TEL	20	12	28	220
計	14	33	30	34	34	0	23	32	0	20	16	37	273
歯科 (月8回)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
A	106	119	100	109	105	87	97	96	82	87	72	67	1127
B	104	100	102	105	104	91	103	106	125	110	81	106	1237
計	210	219	202	214	209	178	200	202	207	197	153	173	2364

TEL (コロナウイルス感染対策)

内服薬(処方薬等) 件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
A棟	40	49	57	59	50	48	48	50	51	50	52	50	604
A棟臨時	3	6	4	9	14	5	7	5	7	5	1	7	73
B棟	57	57	66	61	61	57	61	65	60	57	55	60	717
B棟臨時	4	9	2	6	11	16	6	6	3	5	5	5	78
予防接種	0	0	0	69	23	0	3	99	90	0	2	0	286

受診状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	1	3	3	4	4	7	8	6	1	4	1	3	45
外科	0	0	1	1	1	2	0	3	0	2	0	1	11
整形外科	5	11	4	3	5	1	2	3	2	2	4	2	44
脳神経科	0	0	0	1	1	1	1	1	1	2	0	1	9
皮膚科	0	1	1	1	1	1	1	3	2	2	2	3	18
泌尿器科	2	2	0	1	1	2	1	1	1	1	2	1	15
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
精神科	1	0	2	2	2	3	1	2	2	0	2	1	18
歯科	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	8
眼科	0	0	4	1	0	0	2	0	0	2	1	0	10
耳鼻科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ペースメーカー	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
健康診断	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
胃瘻交換	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	5
検査のみ	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
処方のみ	5	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	7
救急外来	4	0	3	0	1	1	1	0	0	4	0	2	16
計	21	21	21	17	18	20	19	20	11	21	12	15	216
救急車要請	2	0	1	0	1	3	1	0	0	4	0	1	13
紹介状	4	3	4	1	5	6	4	1	1	3	1	2	35

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院	4	0	2	0	2	5	0	1	0	2	1	4	21
退院	6	0	1	1	1	3	2	0	1	2	1	1	19
病院内死亡	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	3
施設内死亡	9	1	0	0	1	3	2	1	1	2	3	1	24
転院、退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入所	4	7	3	1	0	1	2	4	1	0	3	5	31

死因

老衰	12
老衰(コロナ後)	9
進行性核上麻痺(コロナ後)	1
脳梗塞	2
肺炎	1
心不全	1
腸閉塞	1

死亡者人数 27

入院疾患名

肺炎	4
脳出血・脳梗塞	2
悪性腫瘍	1
結石性	2
褥瘡	1
骨折	1
腸閉塞	1
コロナ感染症	7

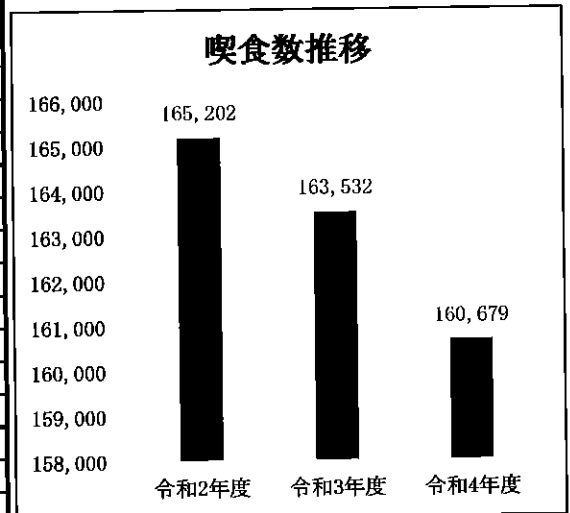
コロナ感染者

4月A棟クラスター 入居者28人(昨年度未発症)
9月B棟クラスター 入居者15人
10月A棟感染者5人
12月A棟感染者2人
1月B棟クラスター 入居者19人

部門名	部門人数	作成責任者名
給食センター	26	向井 洋子
1 部門目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 シャローム手作りフレあいお弁当が、平均80食/日提供できるよう体制強化に努めます 2 食事形態と適温給食の見直しを中心に考えながら、食べる人が満足できる食事サービスの提供に繋がります 3 キャリアパス、5Sに則った職場づくりを行い、未来志向の施設経営に繋がる職場環境づくりをすすめます 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 居宅介護支援事業所、民児協等に、シャローム手作りフレあいお弁当の説明を行う。 2 献立作成から調理盛り付けの過程において、常にご利用者にとってどうかを考えミールラウンドも含めPDCAサイクルに則った作業を行う。 3 目標管理シートや業務点検シート、月間清掃チェック表を使いながら、人材育成や職場環境づくりを行っていく。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 各事業所等に訪問することが昨年度同様できなかったが、平均76食/日にご利用者が増え、配食の必要性を感じる結果となった。 2 食事形態の見直しはできなかったが、ミールラウンドは実施できている。 3 目標管理シートや業務点検シート、月間清掃チェック表をただ実施しただけで活用には至らなかった。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 健康支援型配食サービスとしてシャローム手作りフレあいお弁当が、平均80食/日安定して提供できるよう引き続き、各事業所等へ説明の機会を設けながら、地域を元気にし福祉のお弁当の配食サービスとして、事業を実施していきたい。また、配食スタッフは70代後半の方が担っている状況だが、地域を元気にするボランティアの鑑として、ボランティア育成も含め地区社協等と連携を図りたい。 2 認定栄養ケア・ステーションシャロームとして事業依頼があるので、パンフレットを作成し、さらに事業に繋が、地域のかかりつけ栄養士になっていきたい。 3 退職・出向やコロナ発症・濃厚接触者等で、安定した勤務体制ではなかったが、世の中の様々な変化を見据えながらベストな方法を考え、キャリアパスやBCPとも連動し、いかなる時も事業が継続でき働きやすい職場づくりを考えていきたい。 4 ご利用者の笑顔がいつも見られる食事であるよう、自己研鑽に努めたい。 5 管理栄養士養成校の実習生や、調理師学校からのインターンシップを通して、各自が仕事の振り返りをし、就職へと繋がってきたい。 6 引き続き、研究発表や学会発表を行うことで、自己研鑽に繋がりたい。 7 働く喜びを仲間と共に感じ、シャロームの職員として誇りがもてるよう基本理念の下、事業をすすめていきたい。 		

1. 喫食数推移 (特養・ケアハウス・在宅部門・職員・その他)

		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		計	一日平均	計	一日平均	計	一日平均
朝	A棟 (虚弱)	20,001	55	20,139	55	19,070	52
	B棟 (認知)	21,773	60	21,332	58	21,650	59
	ケアハウス	6,566	18	6,321	17	5,951	16
	職員	1,012	3	1,106	3	1,249	3
	* その他	3	0	24	0	11	0
昼	A棟 (虚弱)	20,395	56	20,272	56	19,490	53
	B棟 (認知)	22,212	61	21,954	60	21,957	60
	ケアハウス	5,583	15	5,523	15	5,799	16
	職員	8,541	23	8,373	23	7,984	22
	☆ かもめデイ	4,364	17/回	4,050	17/回	4,648	18/回
	☆ 走水デイ	5,022	19/回	4,964	19/回	4,632	19/回
	☆ つばさデイ	352	7/回	224	7/回	149	6/回
	* その他	96	0	450	1	297	1
夜	A棟 (虚弱)	20,023	55	20,132	55	19,089	52
	B棟 (認知)	21,799	60	21,357	59	21,677	59
	ケアハウス	6,645	18	6,494	18	6,240	17
	職員	815	2	790	2	784	2
	* その他	0	0	27	0	2	0
総合計		165,202	453	163,532	448	160,679	440

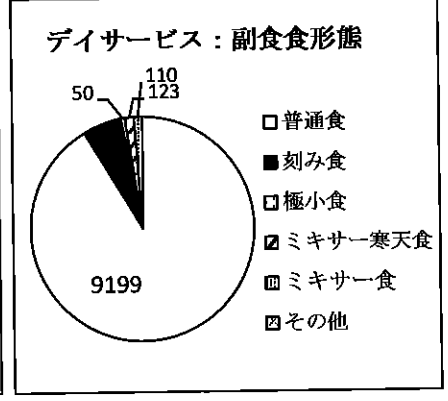
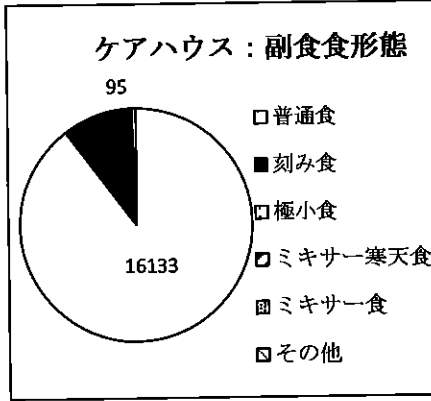
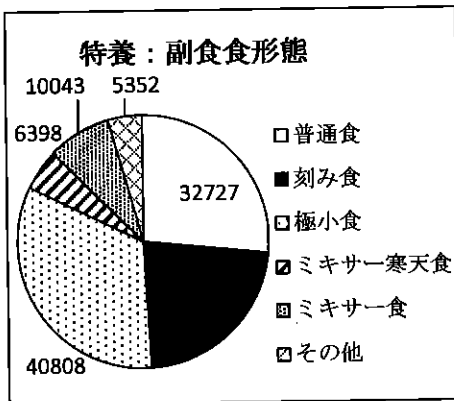


令和4年度約2600食減

☆4年度年間稼働日数、かもめ259回/年・走水248回/年、つばさ26回/半年(令和4年9月末日休止)。
*その他には、来客、実習生、弁当依頼等含まれる。

2. 主食・副食の食形態別喫食数

		特養		ケアハウス	デイサービス			合計
		A棟	B棟		走水デイ	かもめデイ	つばさデイ	
主食	米飯	27,890	40,063	17,108	4,119	4,336	139	93,655
	粥・分粥	24,518	25,110	882	513	312	10	51,345
	その他(胃瘻等)	5,241	111	0	0	0	0	5,352
	計	57,649	65,284	17,990	4,632	4,648	149	150,352
副食	普通食	18,710	14,017	16,133	4,236	4,245	135	57,476
	刻み食	14,129	13,476	1,762	260	260	10	29,897
	極小食	11,905	28,903	95	16	31	3	40,953
	ミキサー寒天食	1,625	4,773	0	118	4	1	6,521
	ミキサー一食	6,039	4,004	0	2	108	0	10,153
	その他(胃瘻等)	5,241	111	0	0	0	0	5,352
	計	57,649	65,284	17,990	4,632	4,648	149	150,352



3. 配食サービス

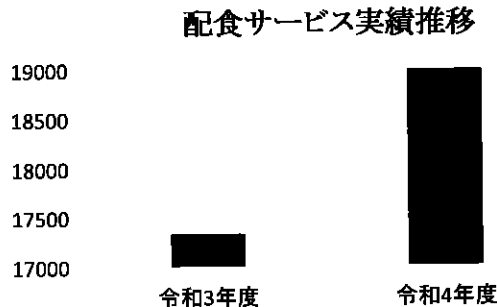
シャローム手作りフレあいお弁当実績推移

シャローム手作りフレあいお弁当（名称変更令和3年4月1日より）
 配達地区：大津地区社協、浦賀地区社協（一部） 田戸親睦会、
 リーデンス・コート自治会、直配、デイサービス時持ち帰り

	配食数
令和3年度	17342
令和4年度	19673

※令和3年度配達日数259日
 平均67食/日配達

※令和4年度配達日数258日
 平均76食/日配達



4. 認定栄養ケア・ステーションシャローム事業

日付	地 域	教室内容	人数
4/20	安浦地区社協管内	男性のための料理教室	17
7/15	馬堀台団地	いきいきサロン「フレイル予防の栄養講話」フレあいお弁当付き	25
9/7	安浦地区社協管内	男性のための料理教室	17
10/19	桜が丘2丁目	いきいきサロン「フレイル予防の栄養講話」フレあいお弁当付き	25
10/19	久里浜コミュニティセンター	はつらつ久里浜「防災講座」災害に役立つバッククッキングと講話	20
11/2	安浦地区社協管内	男性のための料理教室	17
11/4	二葉一丁目	いきいきサロン「フレイル予防の栄養講話」	35
11/20	馬堀台団地	「防災講座」バッククッキング実演と備蓄食品の紹介	72
11/22	大津3丁目	いきいきサロン「フレイル予防の栄養講話」お弁当付き	24
2/15	桜が丘2丁目	いきいきサロン「防災講座」バッククッキング実演	25

※10教室、延べ277人参加。

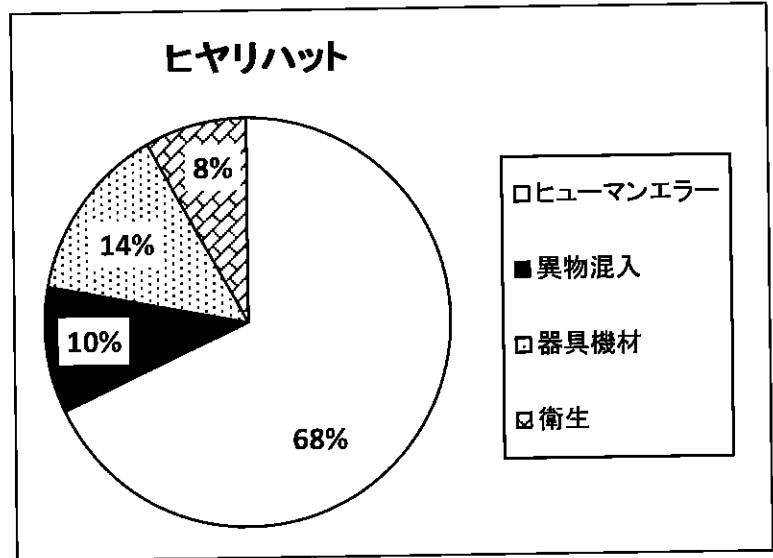
5. 行事食一覧（特養・ケアハウス・デイサービス）

月 日	行 事	提供場所
4/1	お祝い膳	特養、ケアハウス、デイサービス
4/6	お花見御膳	特養、ケアハウス、デイサービス
5/5	端午の節句昼食会	特養、ケアハウス、デイサービス
6/21	行事食	特養、ケアハウス、デイサービス
7/7	七夕昼食会	特養、ケアハウス、デイサービス
8/1	開設記念お祝い膳	特養、ケアハウス、デイサービス
8/28	夏まつり	特養、ケアハウス、デイサービス
9/18	敬老お祝膳	特養、ケアハウス、デイサービス
9/18~23	敬老ウィーク	デイサービス
10/12	行事食	特養、ケアハウス、デイサービス
11/30	行事食	特養、ケアハウス、デイサービス
12/19~23	クリスマスウィーク	デイサービス
12/23	クリスマス昼食会	特養、ケアハウス、デイサービス
12/26	おもちつき	特養、ケアハウス、デイサービス
12/31	年越しそば	特養、ケアハウス
1/1	おせち祝い膳	特養、ケアハウス
1/2	おせち祝い膳	特養、ケアハウス
1/7	七草粥	特養、ケアハウス、デイサービス
1/11	鏡開き	特養、ケアハウス、デイサービス
2/20	行事食	特養、ケアハウス、デイサービス
3/3	ひな祭り昼食会	特養、ケアハウス、デイサービス

6. ヒヤリハット・事故報告

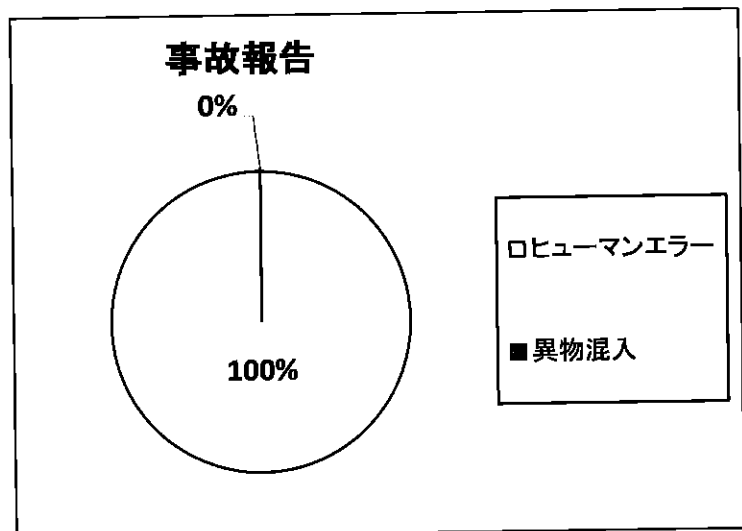
ヒヤリ・ハット内容	件数	
ヒューマンエラー	34	68%
異物混入	5	10%
器具機材	7	14%
衛生	4	8%
合 計	50	

※ヒューマンエラーは、
報連相ができていなかった
ことから起きたものや
確認不足と言った初歩的な事。



事故報告内容	件数	
ヒューマンエラー	1	100%
異物混入	0	0%
器物破損	0	0%
合 計	1	

※ヒューマンエラーは、
揚物の見た目が悪く、
苦情処理として第三者委員にも
報告した。



部門名	部門人数	作成責任者名
在宅	34	渡辺 誠一
1 目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1 黒字のサービスは、少しでも黒字が伸びるよう、赤字のサービスは、赤字幅を少しでも減らすようにする 2 ご利用者はおお客様であることを常に念頭におき、笑顔多く声掛けにも十分注意する 3 各職員が上司や同僚に気さくに相談ができる環境づくりに努める 4 コロナ禍の状況を鑑み、徐々に教室活動や実習生・ボランティア受け入れを再開する。また職業技術校などの就職説明会へ参加し、定期的な人員補充に結び付ける 		
2 実施方法		
<ol style="list-style-type: none"> 1 毎月行われる会計会議を受け、同日の部門ミーティングにて報告を行い、各部署の進捗状況を確認し、職員の意識付けを行いました。 2 接遇・マナー研修などを通し学びの場を設けるとともに、各デイサービスへは、意識して顔を出しました。 3 毎朝のミーティングでは、職員に笑顔が出るよう意識して笑いを取りに行きました。また普段から気さくに話しかけるよう心掛けました。 4 施設の方針に従い可能な範囲で実習生の受け入れを行いました。職業技術校へは、年2回講師として行くため、情報交換しました。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付）		
<ol style="list-style-type: none"> 1 通所介護1単位目・2単位目とも奮闘しました。3単位目は、9月いっぱいまで休止となりました。通所介護全体では、前年度比プラスとなりました。居宅介護支援・施設入浴サービス・訪問介護は、前年度比マイナスとなりました。 2 ごく稀に乱雑な声掛けも聞かれましたが、概ね達成できたと思います。 3 時折冗談を交えながら声掛けし、相談しやすい環境づくりに努めましたが、職員によっては、相談できなかった者がいると思われます。 4 就職説明会へは、年2回参加することができました。美容師のボランティアも再開しております。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること）		
<ol style="list-style-type: none"> 1 各サービスの黒字化は、目標期間を据え置きとさせていただき、達成に向け、営業活動・人脈づくりなど様々な工夫をしています。 2 職員同士が注意し合えるよう、部門ミーティングなどを通し提言していきます。接遇・マナー研修なども継続していきます。 3 職員毎の趣味・嗜好などを模索しつつ、興味を持つ話題提供を心がけます。 4 現在行えていることは継続とし、行えていないことに関しては、タイミングを見計らいながら徐々に再開していきます。 		

在宅部門各種研修会、ボランティア、実習生、事故報告

外部研修

月	内 容	参加者数 (人)
6	「ストレス抱えていませんか!?笑顔で話せる東ブロック」(東ブロック会)	1
7	「近くて遠い医師(医療者)とケアマネジャー」(神奈川県介護支援専門員協会)	1
8	「令和4年度新任ケアマネジャー研修」(横須賀市介護保険課)	1
	「横須賀市との懇談会の報告」(横須賀市通所事業所連絡協議会)	2
9	「一人の支援からつながる輪」(横須賀市居宅介護支援事業所連絡協議会 主マネ部会)	1
	「高齢者虐待における加害者の病理を理解する」(横須賀市地域福祉課)	1
	「包括的ケア会議 ～高齢者が食べられない時どうしたらいいのか～」(浦賀地域包括支援センター)	2
	「包括的ケア会議 ～緊急通報システムの運用方法と活用事例～」(大津地域包括支援センター) (※)	1
	「救急連携講習会」(横須賀市) (※)	1
10	「介護予防ケアマネジメント研修会」(大津地域包括支援センター)	1
	「ストレス抱えていませんか!?笑顔で話せる東ブロック」(東ブロック会)	1
	「ケアマネジャースキルアップ研修」(横須賀市介護保険課)	1
11	「包括的ケア会議」(浦賀地域包括支援センター)	1
	「BLG(社会参加型デイサービス)について・LIFEフィードバック等」(横須賀市通所事業所連絡協議会)	3
12	「私にもできる事例検討～みんなで集まって謎解きしよう～」(4包括共催)	2
	「介護保険制度と障害者総合支援法は何が違うの??」(浦賀・大津地域包括支援センター)	4
	「よこすか みかん 事業説明会」(訪問看護よこすかみかん)	2
	「一人の支援からつながる輪②～地域ケア個別会議編～」(横須賀市居宅介護支援事業所連絡協議会 主マネ部会)	1
	「介護施設等防災リーダー養成研修」(一般社団法人 中部産業連盟)	1
1	「パーキンソン病ことはじめ」(神奈川県介護支援専門員協会)	1
	「考えてみよう!!うつ病について」(神奈川県介護支援専門員協会)	1
	「ケアプラン作成についての疑問点や不明点～サービス担当者会議～」(4法人合同)	7
2	「介護予防ケアマネジメント研修」(横須賀市介護保険課)	3
	「集団指導講習会～居宅介護支援～」(横須賀市指導監査課)	7
	「介護施設等防災リーダー養成研修」(一般社団法人 中部産業連盟)	1
3	「いのちを守る」～認知症による行方不明高齢者を地域でどう支える～(東・南ブロック会)	1
	「ケアプラン集団検討会」(横須賀市介護保険課)	1
	「包括的ケア会議」(大津地域包括支援センター)	1
	「高齢者虐待の防止に向けた取り組み～アンガーマネジメント～」(横須賀市地域福祉課)	1

(※)はZOOM以外

施設内部・在宅部門合同ミーティング研修

月	題 名	参加者数 (人)
5	「介護従事者の接遇に関する理解(映像研修)」(在宅)	27
	「プライバシー保護 個人情報取り扱いの理解(映像研修)」(在宅)	27
6	「法令遵守の理解(映像研修)、育児・介護休業法」(在宅)	27
	「食中毒発生予防及び蔓延防止・感染対策マニュアル(書面研修)」(在宅)	34
7	「メンタルヘルス研修(映像研修)」(在宅)	34
	「身体拘束排除の知識(映像研修)」(在宅)	25
8	「事故防止の知識(映像研修)」(在宅)	25
9	「介護従事者の接遇(映像研修)」(在宅)	25
	「非常災害対応・事故発生時の緊急対応(映像研修)」(在宅)	34
10	「緊急時対応の理解(映像研修)」(在宅)	24
11	「シャローム施設内学会(映像研修)」(在宅)	24
12	「感染症の予防とまん延防止(映像研修)」(在宅)	26
1	「食中毒の予防とまん延防止(映像研修)」(在宅)	28
	「職業倫理・法令遵守(書面研修)」(在宅)	33
2	「非常災害時の対応(映像研修)」(在宅)	25
	「個人情報保護法(書面研修)」(在宅)	33
	「介護業の安全衛生(映像研修)」(在宅)	33

3	「認知症の理解・認知症ケアの基本（映像研修）」	(在宅)	27
	「プライバシー保護法（書面研修）」	(在宅)	34
	「接遇マナー研修（映像研修）」	(在宅)	34
	「人事給与制度の見直しについて」（川原経営）	(在宅)	15

実習生受け入れ

県立保健福祉大学生 7人（うち2人ソーシャルワーク実習）

事故報告、ヒヤリハット、苦情相談

・車両事故 (単位:件)

令和2年度	訪問介護	1	移動時	対物
	通所介護	5	移動時	対物
令和3年度	居宅介護	2	駐停車時	対物
	通所介護	1	移動時	対物
令和4年度	居宅介護	4	移動時	対物
	通所介護	2	移動時	対物

・事故報告（横須賀市報告分） (単位:件)

令和2年度	通所介護	4	転倒2、離設1、服薬忘れ1
	訪問介護	1	転倒（入浴時）1
令和3年度	通所介護	8	転倒・転落4、離設1、尻もち2、骨折1
令和4年度	通所介護	4	転倒4

・ヒヤリハット (単位:件)

令和2年度	通所介護	20	ヒューマンエラー4、入浴時3、ふらつき3 異食3、与薬2、車内2、膝折れ1 転倒しそう1、車より降りる1
	訪問介護	1	椅子に座ろうとし滑り落ち1
令和3年度	通所介護	24	ヒューマンエラー6、転倒しそう5、忘れ物2 ふらつき3、対人1、所在1、その他6
	通所介護	21	ヒューマンエラー9（リフト固定忘れ・車椅子積み 忘れ・薬出し忘れ・車椅子破損・荷物入れ違いなど） 歩行ふらつき5・膝折れ1・車から降りようとする 3・離設1・その他2（浴槽内で浮くなど）

・苦情相談 (単位:件)

令和2年度	通所介護	2	職員対応
令和3年度	通所介護	1	職員対応（器物破損）
令和4年度	通所介護	1	職員対応
	居宅介護	2	職員対応

部門名	部門人数	作成責任者名
ケアプランセンター	7	渡辺 誠一
1 目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 給付件数の安定、ケアマネジメントの質の向上（アセスメント・ケアプラン作成） 2 職員の質の向上、非日常の中での職員のストレス軽減 3 狭い空間での人員配置、何でも相談できる環境づくり 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 研修などを通し、アセスメントの重要性を各職員が再度確認・実行し、ご利用者・ご家族の強みを生かし、セルフケア・インフォーマルサービスを組み入れた自立支援型のケアプラン作成を意識しました。 2 Zoomを活用した研修、施設内での研修、伝達会議などで職員の質の向上を目指し、お互い声掛けなどを行いました。 3 相談しやすい環境づくりに努めました。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 ご利用者の入れ替わりが激しく、給付件数は安定しませんでした。セルフケアやインフォーマルサービスは、前年度より位置づけることができました。 2 Zoom研修が主ですが、数多くの研修に参加することができました。日頃から声掛けを多くし、ストレス軽減が多少は図れたと思います。 3 年度途中から異動にて新人職員も入りましたが、各職員が優しいため、相談しやすい環境は作れたと思います。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 事業所経営継続のため、給付件数の安定と各加算の取得を目指します。 2 週1回の伝達会議や月1回のケアマネミーティングの内容を見直し、職員の質の向上を目指します。 Zoom以外の研修数も増やせるように努めます。 3 各職員が、お互いの様子などを観察し、声掛けなども意識し、何でも相談できる環境づくりを継続していきます。 		

ケアプランセンター 活動報告

① 利用人員

月	ケアプラン作成数		
	総合事業	予防	介護
4	8	8	184
5	7	8	186
6	8	8	184
7	8	8	179
8	6	8	178
9	8	8	173
10	8	8	179
11	8	8	189
12	9	8	182
1	9	8	176
2	9	9	178
3	8	9	176
計	96	98	2,164

② 要介護度別利用人員

月	総合事業	要支援		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
		1	2						
4	8	2	6	91	45	25	14	9	200
5	7	2	6	92	47	24	14	9	201
6	8	2	6	92	44	25	14	9	200
7	8	2	6	88	44	26	11	10	195
8	6	3	5	88	46	26	11	7	192
9	8	3	5	86	45	27	6	9	189
10	8	2	6	91	45	25	10	8	195
11	8	2	6	93	49	29	10	8	205
12	9	2	6	91	46	25	9	11	199
1	9	2	6	89	44	23	11	9	193
2	9	3	6	87	47	24	11	9	196
3	8	3	6	90	45	20	11	10	193
計	96	28	70	1078	547	299	132	108	2,358

③

ケアプランセンター活動件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規契約	2	5	2	5	5	5	8	10	3	3	4	13	65
区分変更申請	6	2	3	3	2	5	4	3	1	1	0	3	33
初回加算	1	7	5	2	2	5	10	7	1	3	8	7	58
さかのぼり請求	5	6	8	3	3	4	7	10	4	3	6	4	63
終了・中止	5	4	4	1	1	4	3	1	2	3	3	7	38
死去	4	2	2	1	3	3	0	2	4	1	3	1	26
住宅改修	0	0	0	2	2	0	0	1	2	1	1	0	9
訪問	254	269	243	239	278	263	279	270	255	261	265	284	3,160
電話受付	372	363	363	341	374	380	417	499	376	400	370	436	4,691
電話発信	457	531	572	568	587	526	579	595	472	466	472	568	6,393
認定調査	2	0	0	1	1	1	0	1	1	2	0	3	12
FAX受信	67	77	58	60	70	84	91	94	75	82	73	83	914
FAX発信	80	100	88	123	155	125	115	119	79	113	112	144	1,353
他事業所依頼	5	14	7	14	5	16	20	9	14	11	23	15	153
新規相談	7	6	2	1	6	5	7	8	4	5	7	11	69
担当者会議	24	26	23	20	10	20	29	32	14	17	31	39	285
研修	1	1	2	3	3	6	4	1	3	4	4	7	39
会議	8	10	12	13	13	12	18	15	9	9	12	14	145

④

会議・研修会等一覧施設外

横須賀市居宅介護支援事業所連絡協議会

一人の支援からつながる輪 (Zoom) 1回 1人

一人の支援からつながる輪② (Zoom) 1回 1人

横須賀市主催 新任ケアマネジャー研修 (Zoom) 1回 1人

ケアマネジャースキルアップ研修 (Zoom) 1回 1人

介護予防ケアマネジメント研修 (Zoom) 1回 1人

集団指導講習会 (Zoom) 1回 7人

ケアプラン集団検討会 (Zoom) 1回 1人

高齢者虐待防止研修 (Zoom) 2回 2人

救急連携講習会 1回 1人

神奈川県介護支援専門員協会

医療者とケアマネジャー (Zoom) 1回 1人

パーキンソン病ことはじめ (Zoom) 1回 1人

うつ病について (Zoom) 1回 1人

東ブロック会 ストレス抱えていませんか① (Zoom) 1回 1人

ストレス抱えていませんか② (Zoom) 1回 1人

東・南ブロック会 行方不明高齢者を地域でどう支える 1回 1人

大津地域包括 包括的ケア会議 2回 2人

介護予防ケアマネジメント研修会 (Zoom) 1回 1人

浦賀地域包括 包括的ケア会議 (Zoom) 2回 3人

浦賀・大津地域包括 介護保険制度と障害者総合支援法 1回 4人

4包括共催 主任介護支援専門員研修会 (Zoom) 1回 2人

訪問看護よこすかみかん 事業説明会 1回 2人

施設内

介護支援専門員伝達・ケース検討会議 (週1回) 47回

映像研修 18回

書面研修 7回

4法人合同研修会 1回

各種委員会

部門名	部門人数	作成責任者名
通所介護	26	本山 太郎
1 目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 稼働率の安定 2 職員の質の向上とストレス軽減を図る 3 感染症予防対策 4 全職員の定時退社 段階的な世代交代や事業の引継ぎ 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 感染症の発生状況に合わせ、居宅介護支援事業所への実績を手渡しする事で、最新の空き状況を提供する。通信での定期的な空き状況発信の継続。 2 在宅合同ミーティングでの勉強会実施を行い学びの時間をつくる。 業務負担軽減のために人員配置の検討を行う。 3 私生活でも感染の危険がある場や行為について介護職としての意識を持ち行動する。 4 新規職員の補充により、業務分担を見直すことで各職員の負担軽減や就業時間内で事務作業時間をつくる。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 感染症に対する対応の変化に合わせ、事業所への直接の訪問を行うことで新規利用者の獲得に繋がるケースも増加し登録人数の増加に繋げることができました。 2 勉強会の定期実施が行えましたが、介護技術や各職員の希望の研修や自己啓発での研修参加は行えておらず、今後の課題となっています。 3 感染症対策を継続することはできていましたが、感染者発生により休業期間もありました。今後も感染に対する対応の継続は課題となります。 4 定時退社については今後も検討を要する状況ですが、人員の補充、サービス縮小により事務時間を増やすことができ改善に向かっていると思います。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 3単位目の休止により収入の減少も考えられましたが、1単位目の稼働率が改善されたことにより収支に対しての対応も問題ないと考えられます。 今後のニーズに合わせて3単位目再開も検討しながら、各単位の稼働安定、人員の確保や時間的な余裕も作ることができれば稼働率の増加や職員の負担軽減に繋げることができると考えます。 安定した登録数を維持できるよう空き情報の営業活動を継続します。 事業所の特色と各単位の特徴を明確にし活動内容の充実を図っていきます。 科学的介護推進加算を算定、その他の加算取得の準備をすすめていきます。 2 勉強会の定期開催を継続。認知症に対する学びを深めることで個別の対応が必要になるご利用者の方への対応力を学ぶことが課題となります。 3 感染症対策を継続しながら、職員の感染症に対する意識を保ち、緩和された対応については徐々に戻していきます。 デイサービスの環境を段階的に感染症発生以前の環境に戻していきます。 4 就業時間内での事務時間の確保を継続し、記録類のパソコン入力を進めます。 パソコン入力開始前に勉強会の開催をすることで入力への不安がある職員の負担軽減策実施方法の検討が課題となります。 		

かもめデイサービス

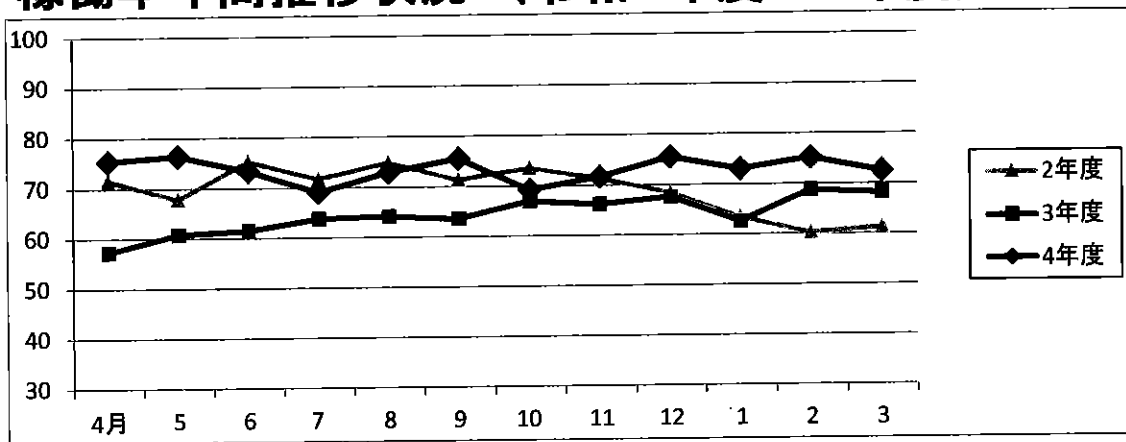
要介護度別利用状況

延人数

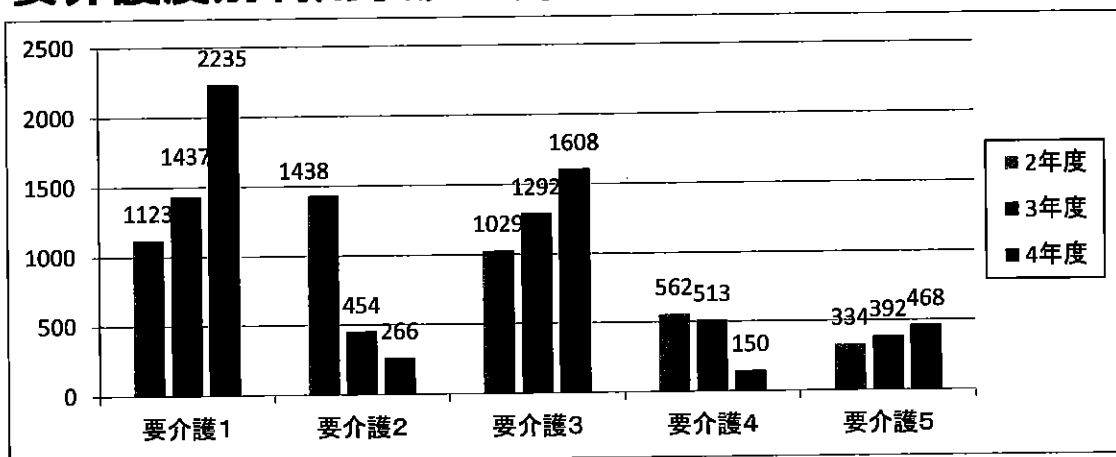
定員25人

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計①	稼働日数	当月定員②	稼働率①/② *100
4	146	42	127	41	40	396	21	525	75.4
5	153	42	144	23	39	401	22	550	72.9
6	161	31	156	15	40	403	22	550	73.3
7	156	27	134	8	37	362	21	525	69.0
8	191	32	150	10	36	419	23	575	72.9
9	195	16	162	10	32	415	22	550	75.5
10	185	13	124	8	33	363	21	525	69.1
11	208	12	127	7	40	394	22	550	71.6
12	224	10	134	7	40	415	22	550	75.5
1	189	11	125	10	30	365	20	500	73.0
2	195	13	113	5	50	376	20	500	75.2
3	232	17	112	6	51	418	23	575	72.7
計	2235	266	1608	150	468	4727	259	6475	73.0

稼働率年間推移状況（令和2年度～4年度）



要介護度別利用状況（令和2年度～4年度）



理由別キャンセル状況（令和2年度～4年度）

	ショートステイ	体調不良	都合	その他	合計
令和2年度	822	66	189	200	1277
令和3年度	736	89	297	109	1231
令和4年度	696	53	440	305	1494

はしりみずデイサービス

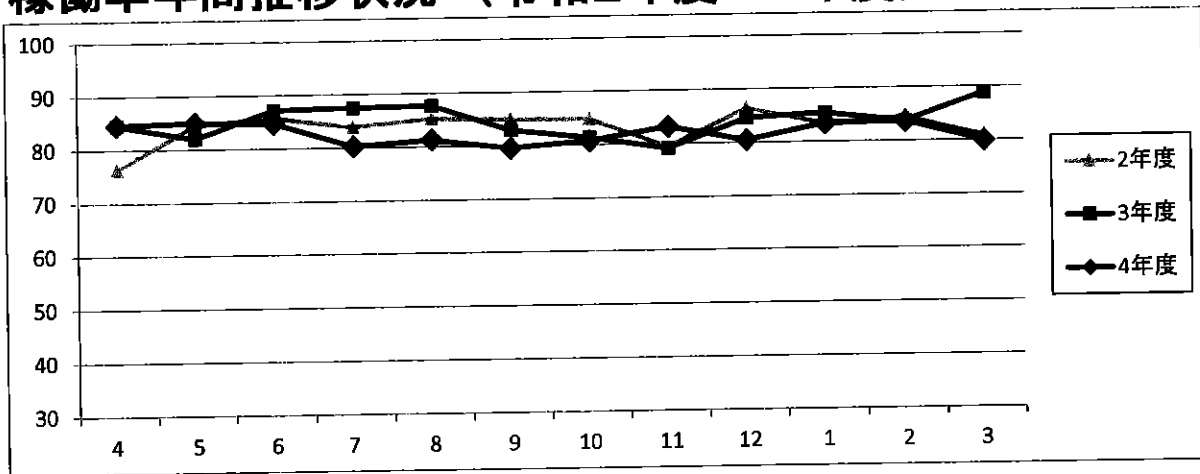
要介護度別利用状況

延人数

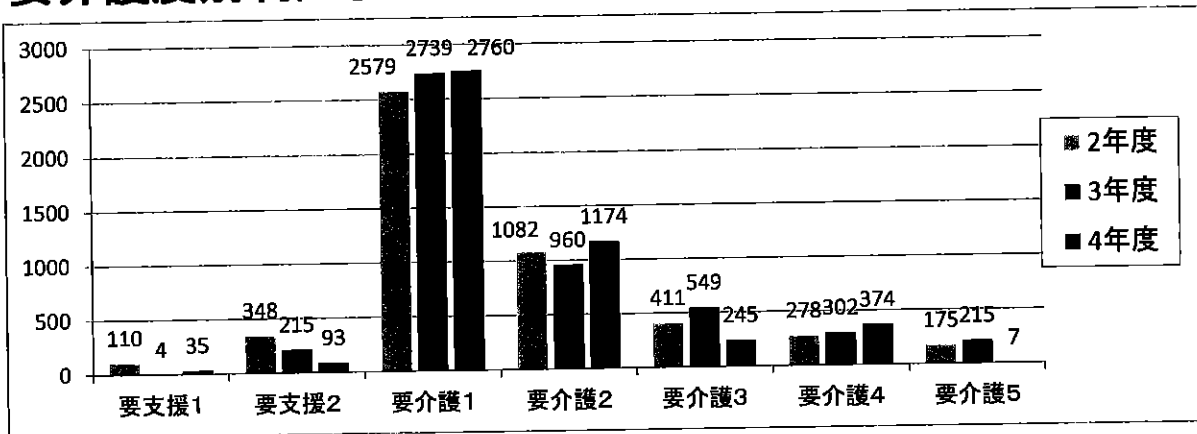
定員23人

月	要支援1 事業対象者	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計人数	稼働 日数	当月定員	予防のみ 稼働率	保険のみ 稼働率	合計稼働率
4	3	5	152	61	12	16	4	253	13	299	2.68	81.94	84.6
5	4	9	260	97	23	34	3	430	22	506	2.57	82.41	85.0
6	5	9	260	99	24	32	0	429	22	506	2.77	82.02	84.8
7	4	7	238	85	20	34	0	388	21	483	2.28	78.05	80.3
8	4	10	247	107	30	32	0	430	23	529	2.65	78.64	81.3
9	5	7	244	94	22	31	0	403	22	506	2.37	77.27	79.6
10	1	8	235	92	22	32	0	390	21	483	1.86	78.88	80.7
11	3	8	237	115	22	36	0	421	22	506	2.17	81.03	83.2
12	0	6	197	102	14	33	0	352	19	437	1.37	79.18	80.5
1	0	7	215	109	19	34	0	384	20	460	1.52	81.96	83.5
2	4	8	219	103	16	35	0	385	20	460	2.61	81.09	83.7
3	2	9	256	110	21	25	0	423	23	529	2.08	77.88	80.0
	35	93	2760	1174	245	374	7	4688	248	5704	2.24	75.96	83.7

稼働率年間推移状況（令和2年度～4年度）



要介護度別利用状況（令和2年度～4年度）



理由別キャンセル状況（令和2年度～4年度）

	ショートステイ	体調不良	都合	その他	合計
令和2年度	364	296	280	148	1088
令和3年度	360	186	158	210	914
令和4年度	457	212	175	191	1035

つばさデイサービス（令和4年4月から9月）

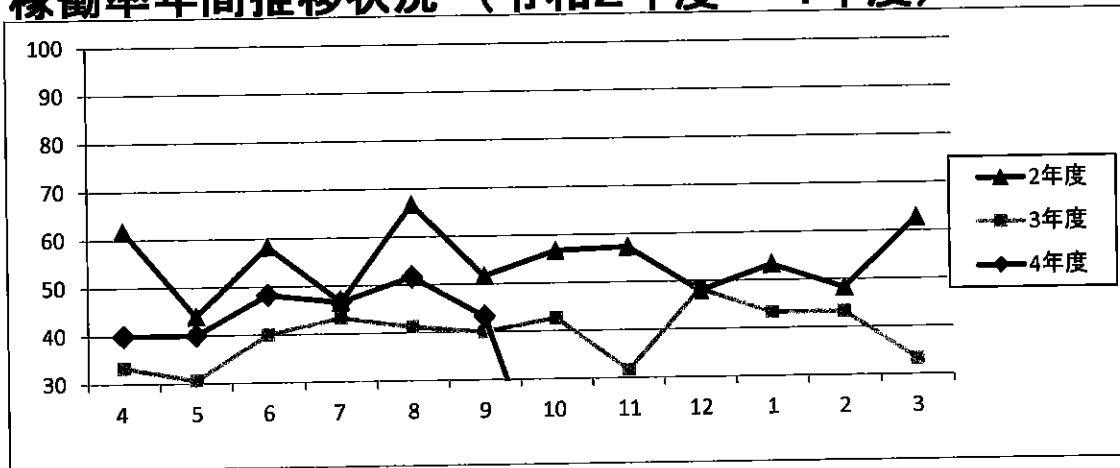
要介護度別利用状況

延人数

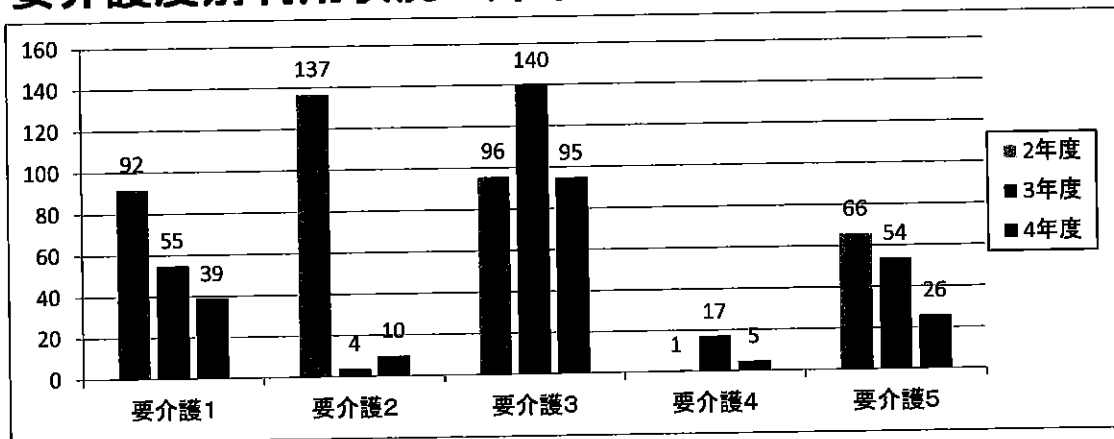
定員15人

月	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計①	稼働日数	当月定員②	稼働率①/② *100
4	4	2	12	2	4	24	4	60	40.0
5	5	1	16	3	5	30	5	75	40.0
6	8	1	16	0	4	29	4	60	48.3
7	10	2	18	0	5	35	5	75	46.7
8	8	2	17	0	4	31	4	60	51.7
9	4	2	16	0	4	26	4	60	43.3
10	※10月以降は営業休止								
11									
12									
1									
2									
3									
計	39	10	95	5	26	175	26	390	44.9

稼働率年間推移状況（令和2年度～4年度）



要介護度別利用状況（令和2年度～4年度）



理由別キャンセル状況（令和2年度～4年度）

	ショートステイ	体調不良	都合	その他	合計
令和2年度	92	9	50	26	177
令和3年度	66	4	59	2	131
令和4年度	32	0	33	2	67

部門名	部門人数	作成責任者名
訪問介護	3	山口 響子
<p>1 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 稼働率の安定を目指す 2 ご利用者が自宅で安心・安全に過ごせるよう介護技術、知識の習得に努め、職員の質の向上を図る 3 感染症予防の徹底 		
<p>2 実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ご利用者件数を常に意識し、新規利用者増に向けて情報提供の強化を常に考えました。 2 統一した支援、介護が実施できるよう日々の連絡・報告・相談等を迅速に行い、スキル向上のための勉強会に積極的に参加しました。 3 感染症予防を常に念頭に置いた自己管理に努めました。 		
<p>3 結果（グラフや数値等は別に添付）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 空き時間の調整、居宅事業所への情報提供の強化に課題がありました。常に新規の受け入れを優先しましたが、前年度を上回る実績ではありません。 2 職員間で「話す」「聴く」ことで理解を深めながら、統一したサービスの提供ができていたと思います。施設内での研修にも積極的に参加しました。 3 感染症対策を強化しながら途切れのないサービス提供はできたと思います。そんな中でも残念ながら職員1人がコロナに感染しました。（R4/12） 		
<p>4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 限られた人員の中でも 稼働率を常に意識し新規利用者増に向けて空き情報を定期的に居宅事業所等に提供できるよう営業活動を活発に行っていきます。 2 感染症を取り巻く状況は日々変化していく中で 気を緩めることなくご利用者の安心、安全を常に念頭に置き自己管理に努めていきます。 3 更なる介護知識・技術向上のために積極的に研修に参加し、具体的事例の検討や事故防止策を念頭に置いた訓練を行っていきます。 		

訪問介護部門

訪問介護／要介護度別利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	7	9	9	8	9	9	11	8	10	9	9	9	107
要介護2	6	6	6	6	5	5	5	6	5	5	5	5	65
要介護3	2	2	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	11
要介護4	2	2	2	3	3	1	1	1	1	2	1	1	20
要介護5	2	2	2	1	1	2	1	2	2	1	1	0	17
合計	19	21	20	19	19	18	19	18	19	17	16	15	220

訪問介護／要介護度別延べ訪問回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1	42	58	55	56	53	60	80	55	65	55	50	62	691
要介護2	63	63	74	50	72	61	62	67	50	62	54	57	735
要介護3	24	11	8	9	9	9	5	11	8	0	0	0	94
要介護4	26	26	24	48	36	4	5	3	5	5	3	3	188
要介護5	39	37	25	17	16	44	30	34	39	27	19	0	327
合計	194	195	186	180	186	178	182	170	167	149	126	122	2035

訪問介護／形態別延べ訪問回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
身体介護1	89	82	80	93	89	93	117	87	84	75	70	99	1058
身体介護2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
身体介護3	56	57	51	41	46	39	37	51	42	52	41	34	547
身体介護4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
身体1生活1	17	14	17	17	16	14	0	6	14	4	4	9	132
身体2生活2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生活援助2	19	20	20	17	22	19	15	13	11	10	3	8	177
生活援助3	13	17	14	12	13	13	14	14	16	8	8	6	148
合計	194	190	182	180	186	178	183	171	167	149	126	156	2062

予防訪問介護・予防訪問介護相当サービス／要支援別利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

予防訪問介護・予防訪問介護相当サービス／要介護度別延べ訪問回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

自費訪問／介護利用人数(保険併用者含む)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要支援	4	4	2	2	2	3	2	2	3	3	3	4	34
要介護	2	2	4	3	2	1	3	3	4	4	3	4	35
合計	6	6	6	5	4	4	5	5	7	7	6	8	69

自費訪問／延べ時間

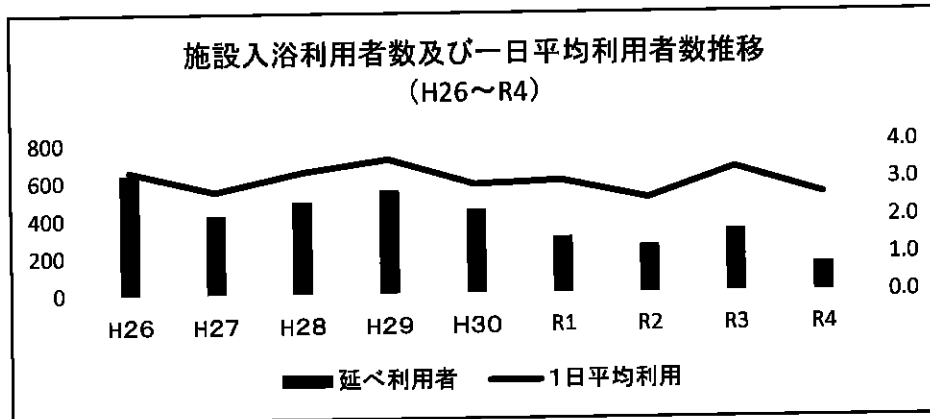
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
時間(時:分)	18:00	16:00	19:30	15:00	19:30	20:30	20:30	17:00	21:30	30:00	23:30	24:00	245
稼働日数	14	17	18	14	14	15	17	21	23	19	23	21	216
件数	18	17	18	15	14	18	18	23	29	31	27	24	252

部門名	部門人数	作成責任者名
施設入浴	26	本山 太郎
1 目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 提供件数の増加 2 職員の質と対応技術の向上 3 感染症予防対策 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 利用問い合わせの事業所への制限内容の伝達。通所介護問い合わせ時にも、施設入浴の利用検討を提案しました。 2 介護技術研修の開催は個別対応と限定された利用者対応のため、都度の注意点や状況に合わせた対応の伝達を行いました。 3 施設での感染症対策に準じて対応の継続と消毒などを徹底しました。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 利用につながらないケースも多く利用者増につながらず、令和4年7月より実営業日を減らしての営業としました。 2 個別対応を継続することで安全に留意し事故の発生を予防し対応を継続することができました。 3 施設での感染症対策を継続することで消毒や清掃など徹底しながら感染症予防を行うことができました。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 利用者数の減少に合わせ令和4年7月より営業日を減少し、人件費や経費削減に繋げる対応を行いました。利用者の方が増加の見込みに合わせ営業日を増やし提供件数増に繋げていきます。 2 在宅部門での座学研修開催は行えましたが介護技術研修開催が行えず、職員個別に都度の伝達は行えています。今後は新規職員に対する介護技術の基本を学ぶ機会をつくる必要があります。 3 感染症のリスクは今後も継続すると考えます。職員の体調管理の徹底と予防に対する意識を再確認することで施設内感染症対策を徹底する必要があります。 		

施設入浴利用者数と1日平均利用者数の推移

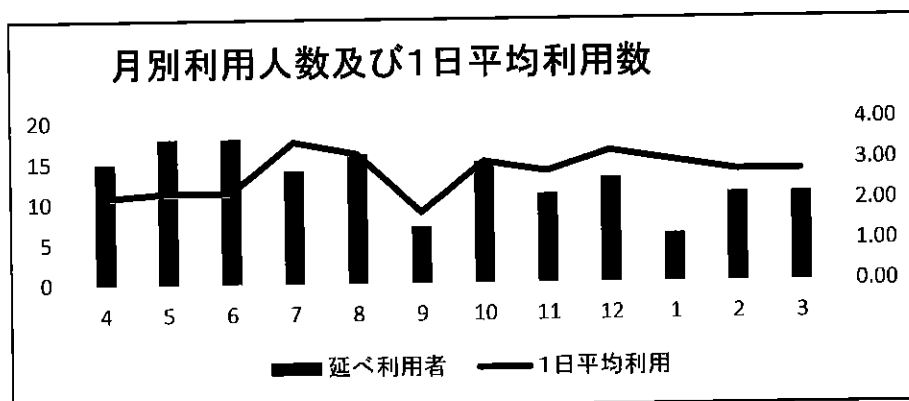
	延べ利用者	稼働日数	1日平均利用
H26	641	195	3.3
H27	421	154	2.7
H28	493	152	3.2
H29	552	154	3.6
H30	448	154	2.9
R1	300	100	3.0
R2	255	101	2.5
R3	336	101	3.3
R4	155	59	2.6

※ 令和4年7月より
月曜日午後の営業に縮小



月別利用人数及び1日平均利用人数と前年度比

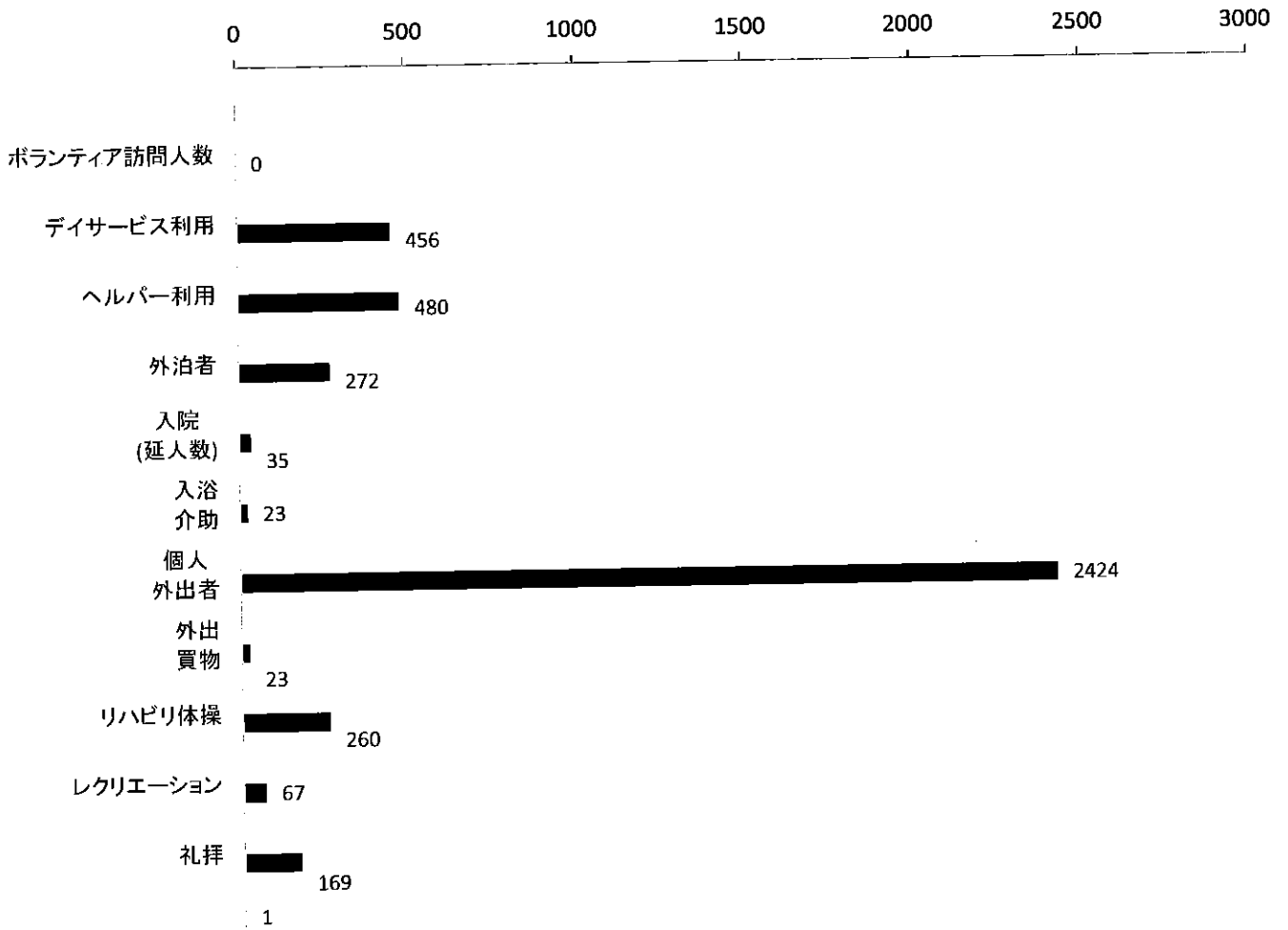
月	延べ利用者	稼働日数	1日平均利用	前年度比	新規	終了
4	15	7	2.14	-0.6	0	2
5	18	8	2.25	-0.7	0	0
6	18	8	2.25	-0.7	1	1
7	14	4	3.50	0.5	0	0
8	16	5	3.20	0.2	0	0
9	7	4	1.75	-1.0	0	1
10	15	5	3.00	0.4	0	0
11	11	4	2.75	0.3	0	0
12	13	4	3.25	0.9	0	0
1	6	2	3.00	0.8	0	0
2	11	4	2.75	0.1	1	0
3	11	4	2.75	-0.2	0	1
合計	155	59	2.63	-0.1	2	5



部門名	部門人数	作成責任者名
ケアハウス ルツの家	10	市原 和紀
1 部門目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 ご利用者への適切な接遇、マナーを心掛け、安心して過ごせるようにする 2 研修や研究発表等の参加により、職員の資質向上を高める 3 コロナ感染の推移をみながら、地域交流活動を実施検討する 4 ご利用者が健康に過ごしていただけるよう努めると共に、緊急時には迅速に対応する 5 コロナウイルスの感染拡大防止のため、ご利用者、職員への啓発活動、感染対策を徹底する 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 利用者懇談会を実施、生活のアンケート調査結果からご利用者の満足度や困り事を把握し、必要により個人的に話し合いを行った。 2 地域交流活動についての全国大会の発表に参加したほか、施設内、施設外の研修に参加した。 3 コロナの影響で自粛期間が続き地域交流活動は開催できなかったが、ボランティアセンターに訪問するなど連携し、近況を報告しあった。 4 毎朝夕の健康状態のチェック、緊急受診などの対応を行った。 5 コロナに対する情報、感染対策等の伝達、掲示、文書にて 家族への状況報告、毎日2回以上の施設内消毒作業を実施した。 		
3 結果 <ol style="list-style-type: none"> 1 ご利用者から、人間関係、対人トラブルなどの意見があったため、契約書及び、重要事項説明書などを改めて皆さんと確認し、安心して生活できるよう対応した。 2 全国大会への出席、定期的な研修参加で、知識、技術、資質などの向上を図ることができた。 3 地域交流活動は実施できなかったが、ボランティアセンターとの連携で、コロナ禍におけるボランティアさんのニーズや困り事などを知ることができた。 4 体調不良のご利用者の早期発見に繋がった。緊急受診でご利用者の早期治療に繋げることができた。 5 ご利用者、ご家族にコロナ情報を理解してもらった。コロナ感染者が3人出たが、事前の研修等で迅速に対応、連携することができた。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 人間関係で困っているご利用者が現在も何人かおられるため、引き続き懇談会で話し合ったり、相談等を行っていく必要がある。 2 研修への参加を継続し、知識、技術などを維持する。 3 ボランティアセンターとの連携を継続し、地域交流活動の再開を検討する。 4 引き続き健康チェックを行い、緊急時には迅速に対応できるようにする。 5 ご利用者、ご家族への情報提供、感染防止対策徹底等を継続し、できる限り感染者を出さないようにする。 		

利用者活動状況

(単位:人)



延べ人数

項目	礼拝	レクリエーション	リハビリ体操	外出買物	個人外出者	入浴介助	入院(延人数)	外泊者	ヘルパー利用	デイサービス利用	ボランティア訪問人数
令和4年度	169	67	260	23	2424	23	35	272	480	456	0

参加研修一覧

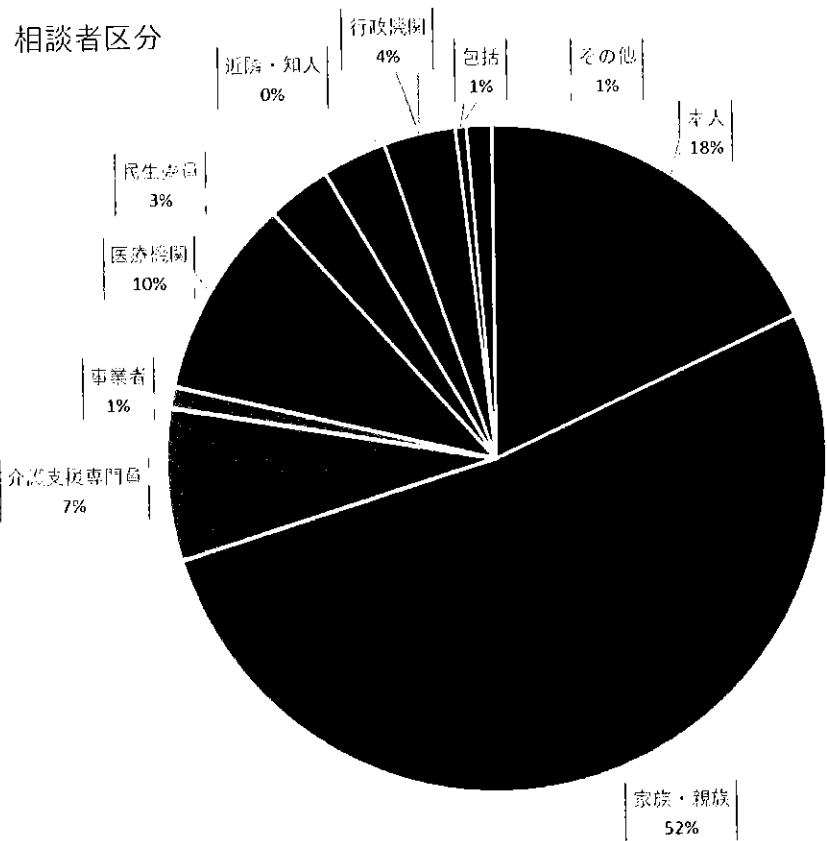
施設内研修		参加人数
6/1	虐待防止	5
6/30	感染症対策と食中毒予防と蔓延防止	5
7/11	メンタルヘルス	5
9/30	非常災害、事故発生時の緊急対応	5
9/30	身体拘束廃止に向けた取り組み	5
11/30	施設内学会	5
1/30	身体拘束の基本とスピーチロック	7
1/31	職業倫理・法令遵守	7
2/9	安全衛生と腰痛予防	7
3/22	接遇・マナー	7
2/28	高齢者虐待防止	6
2/28	個人情報保護	7
3/20	感染症、食中毒研修自分自身が他者に 感染させないためには	7
3/20	介護事故の対応、防止、報告	7
3/31	プライバシー保護	7
施設外研修		参加人数
5/28	神奈川県介護支援専門員協会主催 アセスメント研修	1
6/18	神奈川県介護支援専門員協会主催 ケアプラン作成研修	1
7/16	神奈川県介護支援専門員協会主催 サービス担当者会議研修	1
8/20	神奈川県介護支援専門員協会主催 ICF 実践研修	1
12/2	介護施設等防災リーダー養成研修	1
1/22	高齢者研究大会 全国大会	2
3/22	高齢者虐待の防止にむけた取り組み ～アンガーマネジメント～	7

部門名	部門人数	作成責任者名
大津地域包括支援センター	12	鈴木 礼
1 目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 支出の増加に繋がっている「シャロームひろば」運営方針の、法人との話し合い 2 地域型介護予防教室の相次ぐキャンセルによる収入減 3 ケアプラン作成数の増加に加え、総合相談数も増加し、各自の業務負担が増大 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 「シャロームひろば」の廃止をただ目指すのではなく、将来的には相談からというサービスの提供までを一体的に行える、いわば地域ケアプラザ的福祉施設を大津にビジョンを持って話し合う。 2 コロナ禍における実施条件を地域に明示し、実施の方向性を地域と話し合い、高齢者の介護予防に努める。 3 2021年度事業評価における唯一の減点が、三職種の受け持てるケアプラン数がオーバーしていたことによるもの。まずはケアプラン数、総合相談対応ケース数の職員間格差をなくすことに目標を置いた。具体的方法としてはデータベースソフトを利用し、新規相談受付内容を分析。適当と思われる担当者に振り分けた。加えてケースの担当者間格差も見える化した。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 残念ながら法人側との具体的な話し合いの場を設けていただけなかったため、継続とする。 2 医療・介護データも利用し重点的にアプローチする地域を選定。結果実施数大幅に増。 3 新規ケースの振り分けに関しては適正に行うことができたが、残念ながら令和4年度も受け持ちプラン数はオーバー。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <p>令和4年度が一番の成果は、横須賀市内全包括の管理者が集まり、行政と対話を持ち、包括三職種（主任介護支援専門員・社会福祉士・看護師）に対し「包括処遇改善手当」として9000円/月の委託費増額を勝ち取ったこと。</p> <p>令和5年度4月からの給与に反映されるはずなので、包括職員のモチベーション向上効果に期待がもたれる。手当増額を糧に、新年度もより一層地域から求められる事業としての活躍を決意したい。</p>		

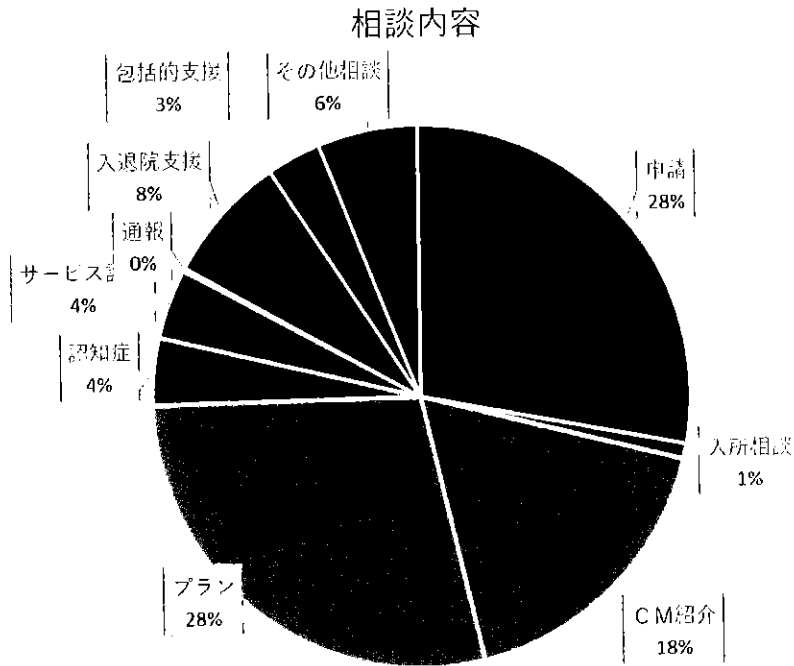
新規相談内訳

- ・令和4年4月～令和5年3月までの、初回相談のみ(実件数)集計
- ・再来相談は追加せず、初回相談の情報を更新した。(月次報告書の件数と差がある)

相談者区分



相談内容



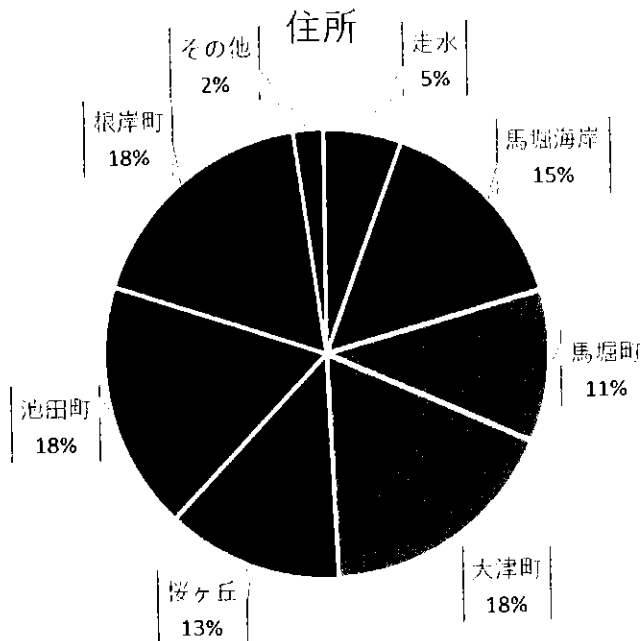
「相談者」「相談内容」集計結果から…

・家族、親族または本人から、介護保険サービス利用のための相談が半数以上を占めている。

・要介護1以上もしくは要介護状態が予想され、居宅ケアマネを紹介するケースも、相談全体の18%に上っている。

以上のことより、居宅介護支援事業所との連携の重要性が表出した一年だったといえる。

相談対象者居住地区



令和4年10月町別人口構成

R4.10町別	走水	馬堀海岸	馬堀町	池田町	大津町	桜ヶ丘	根岸町
世帯数	828	2020	1890	4063	3315	1796	3848
人口	3087	4281	3852	9699	6719	3775	8971
世帯人員数	3.73	2.12	2.04	2.39	2.03	2.10	2.33
高齢人口	469	1933	1231	2323	2414	1669	2551
高齢化率	16.4%	45.2%	32.0%	24.0%	35.9%	44.2%	28.4%
人口増減	1667	-55	-21	-72	-40	-32	-15
高齢増減	-13	-19	-5	70	-20	-18	6

※走水に関しては、防衛大学生の居住区が走水に含まれているため、実際の高齢化率とは差異がある。

町別認定者数

町別	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均介護度	認定率
走水	12	17	27	16	15	24	13	124	2.28	26.4%
馬堀海岸	46	36	105	55	29	35	30	336	1.89	17.4%
馬堀町	24	26	67	47	33	24	15	236	1.95	19.2%
池田町	43	33	118	59	53	37	25	368	1.93	15.8%
大津町	51	53	143	70	56	63	29	465	1.95	19.3%
桜ヶ丘	52	33	96	43	31	27	15	297	1.69	17.8%
根岸町	57	50	156	115	52	52	30	512	1.87	20.1%

相談対象者の居住地区割合は、根岸町・大津町・池田町が上位を占める。高齢化率は馬堀海岸と桜ヶ丘がダントツ。以上より新規相談数と高齢化率の連動性は大きくないと思われた。むしろ高齢者人口数に密接に関係しているといえ、高齢者が多く住んでいる地域は、その人口数に比例して相談件数も多いと言える。

地域介護予防報告

令和4年10月医療・介護データより

地区名称	町名	国保	後期
大津地区	根岸町、大津町、馬堀海岸、走水、馬堀町、桜が丘、池田町	<ul style="list-style-type: none"> ・脂質異常症の内服している人がやや多い (36%/県27.6%) 既往歴の慢性腎臓病・腎不全の人がやや多い (1.3%/県0.7%) ・女性の腹囲高値がやや多い (22.0%/県17.7%) ・脂質の高値の人がやや多い (3.2%/県2.6%) ・血圧・脂質ともに高値の人がやや多い (12.1%/県9.5%) ・血糖・血圧・脂質すべてが高値の人がやや多い (7.3%/県5.9%) →女性のメタボがやや多い (12.2%/県9.8%) 女性のメタボ予備軍がやや多い (7.4%/県5.9%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期で65～74歳がやや多い (0.7%/県0.4%) →障害のある人の割合がやや多い? ・脂質異常症の服薬をしている人がやや多い (58.0%/県45.9%) ・非肥満高血糖がやや多い (25.1%/県17.4%) ・血圧高値がやや多い (30.0%/県24.1%)

令和4年度の介護予防活動は、コロナの出口が少し見え始めたことをきっかけに、地域のサロン活動が活性化する兆しを見せた。コロナ禍を経て住民の健康に対する意識も高くなってきている今こそ、介護予防普及のチャンスと言えよう。
大津包括では例年に比べ、「サロン活動再開の第一歩として、介護保険に関する講話をして欲しい。」との地域依頼が非常に多かった。

医療・介護データからは、血液・血管性疾患、メタボといった方が他地域より多いといった結果に。運動不足からくるものか？

(参考) 地域活動グループリスト

大津	大津1丁目町内会	互省会	老人会		
	大津シー・ハイツ自治会(大津1)	なごさいいきいきサロン	サロン	第4月曜13:30~15:30	文化活動
		大津シー・ハイツ陸会	老人会	月一回公園で	
	大津2丁目町内会	ふれあいいきいきサロン	サロン	第4水曜13:00~	文化活動
		大津2丁目第一寿クラブ	老人会		
	大津2丁目第二寿クラブ	老人会			
	大津3丁目町内会	なかよしサロン	サロン	第4木曜14:30~16:30	茶話会・食事会
	大津4丁目町内会	ふれあいカフェ	サロン	毎月1日10:00~	体操・文化活動
		白扇会	老人会	第3火曜13:00~	体操・文化活動
大津5丁目町内会	5丁目サロン	サロン			
	グランドゴルフ	自主G	毎週水曜日	運動	
コーポ湘南大津自治会(大津5)	コーポ健康クラブ	自主G	第4金曜10:00~	体操	
	小計				

馬堀	馬堀町1丁目町内会	東竹沢ふれあいサロン	サロン	火・土13:30~15:30	茶話会・手工芸
	矢之津町内会(馬堀2)	矢之津クラブ	老人会	第2金曜14:00~	カラオケ・体操
	馬堀町3丁目	馬堀池月会			
	馬堀町4丁目				
	馬堀町3・4丁目町内会	馬堀きらめき体操	自主G	第一~三月曜10:00~11:30	無料
		小計			

池田町	池田連合町内会(池田町1・2・3)	いきいきサロンひまわり	サロン	毎月7日10:00~11:30	食事・歌
	池田町1~5丁目	いきいきサロン無限	サロン	月2~4回	手工芸・食事会
		四季の街シニアクラブ	老人会		
	池田町1丁目町内会	?	サロン		
	池田町2丁目町内会	池田町享楽会	老人会		
	池田町3丁目町内会	池田町朋友クラブ	老人会	第4土曜日10:30~	文化活動
		ふれあいひろば	サロン	第4日曜10:00~12:00	茶話会・工作・ゲーム
	池田町4丁目町内会				
	池田町5丁目町内会				
池田団地自治会(池田6)	軽い体操とおしゃべり	サロン	第3木曜9:30~12:00	食事会・歌・情報交換	
	池田団地喜楽会	老人会			
	小計				

根岸町	根岸町1・5丁目町内会	ちかたふれあいサロン	サロン	第二・第四水曜10:00~11:30	色々
	根岸町1丁目町内会	長寿会	老人会		
	根岸町2丁目町内会	井田サロン	サロン	第二金曜10:00~12:00	食事会・手芸・囲碁・歌
		長寿会	老人会		
	根岸町3丁目町内会	根岸第二長寿会	老人会		
	根岸CMK自治会(根岸3)	むつみ会	老人会		
		ねぎよんふれあい会	サロン	第3金曜日	色々
	根岸町4丁目町内会	長寿会	老人会		
		福祉部	サロン?	第2火曜10:00~	
ラジオ体操		自主G	毎朝	ラジオ体操	
根岸町5丁目町内会	ちかたふれあいサロン	サロン	第二・第四水曜10:00~11:30	色々	
	小計				

馬堀海岸	シー・ハイツ1丁目町内会(馬堀海岸1)	シー・ハイツいきいきサロン	サロン	第4火曜13:00~	
		みはま会	老人会		
	馬堀海岸2丁目自治会	ふれあいいきいきサロン	サロン	第3木曜10:00~12:00	相談・食事会・講話
		楽々会	サロン	第二・第四日曜13:00~16:30	食事会・情報交換・麻雀
	馬堀海岸3丁目自治会	いきいきサロン	サロン		
		万年青会	老人会		
馬堀海岸4丁目自治会	ふれあいいきいきサロン	サロン	第3土曜10:00~12:00	囲碁・講話・絵手紙	
海上自衛隊馬堀宿舎自治会(馬堀海岸4)					
	小計				

桜が丘	桜が丘1丁目自治会	どんぐりいきいきサロン	サロン	第一・第三木曜10:00~15:00	歌・情報交換・工作
		桜が丘1丁目第一OBOGクラブ	老人会		
		桜が丘1丁目第二OBOGクラブ	老人会		
	桜が丘東映団地自治会(桜が丘1)	ふれあいいきいきサロン東映	サロン	第一日曜9:00~11:30	食事会・歌・工作・講話
		いきいきサロン	サロン	第3水曜10:00~12:00	食事会・歌
	桜が丘2丁目自治会	桜友会	老人会		体操・文化活動
馬堀台団地自治会(桜が丘2)	ふれあいいきいきサロン福寿草	サロン	第3金曜10:00~12:00	食事会・工作・歌等	
	小計				

部門名	部門人数	作成責任者名
ともしびショップ保健福祉大学	4	前田 幾代
1 部門目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 障害を持つ職員を中心とした店舗業務の範囲を拡大していく 2 大学研究費の発注量及び売上の減少について、物品購入等の協力体制の構築を模索する 3 コロナ禍においても、生き生きと笑顔あふれる店づくりを心掛ける 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 面談やコミュニケーションを通して、個々の能力や希望を考慮しつつ、現状よりもう一つ上の業務をできるようにする。 2 県大事務局などの機関に仕事や協力の働きかけを行う。 3 障害を持つ職員の体調や障害の状態を注視し、適宜サポートを行う。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 仲間に対し配慮やアドバイス等ができ、思いやりを持ちつつ指導的なスキルを発揮することができた。 2 新たな業務依頼があったが、今後不透明な部分があり、継続的な関係性を築く必要がある。 3 職員それぞれ加齢や障害による体調変化等抱えながらではあるが、配慮を怠らずにできる限り前向きに仕事に対する姿勢ができた。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 来年度は運営体制が走水拠点から浦上台拠点へ引き継がれることになり、事業形態も障害者支援法上の生活介護へ移行する予定であるが、今まで培ってきたともしびショップとしての障害者雇用の特性と共に浦上台の障害者支援の特性を活かし、幅広くきめ細やかなサービス提供を目指す。 2 大学売店としても、学生、教職員の利便性も考慮しながら、ふれあいのある店づくりをするとともに、大学側との協力体制も話し合いながら進めていく。 		

部門名	部門人数	作成責任者名
チャプレン	1	安河内 アキラ

1 部門目標

- 1 人生の最期を迎えたご利用者に寄り添います
- 2 終末期を迎えたご家族に寄り添います
- 3 職員に法人基本理念を基にして、働きを深めるために語ります

2 実施方法

- 1 朝の集いや、日常の傾聴によってご利用者をお支えします。
終末期には、お声かけをしてお祈りをします。
- 2 ご家族に寄り添って傾聴します。そしてともにお祈りします。
- 3 職員朝礼や様々な場所で、法人基本理念に基づいて話します。

3 結果（グラフや数値等は別に添付）

- 1 感染症対策のために朝の集いが開けない時が多かった。
けれども開ける時には、できるだけフロアーでともにお祈りした。
- 2 終末期のみ、ご家族が面会できる機会となったため、最期にならないとご家族と話す機会を設けることができなかった。
- 3 職員朝礼は時期によって参加者の制限があったが、感染症が蔓延している中で途切れることなく続けることができた。
- 4 安息日礼拝は、本年度はケアハウスは独自で行ってきました。
ご利用者の参加は令和5年3月から再開し、多くのご利用者が喜んで参加している。

4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること）

- 1 感染症の中でも、希望される方が施設でのお別れ会を行うことができた。
- 2 感染症対策のために、施設内の行事が制限されるのは致し方ない。
- 3 施設長との兼務のために、なかなか現場へいけないことも多く、十分な働きができなかった。

●シャロームでご逝去された方、及びお別れ会

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ご逝去された方（人数）	25	24	24	27
お別れ会（実施数）	3	5	3	2

シャローム浦上台 事業報告



事業報告

施設長 近藤 勝利

令和4年度の事業計画は、新型コロナウイルス感染症が、ある程度沈静化することを前提に作成したところ、実際はオミクロン株によるクラスターの報告が各施設から複数あり、予定していた様々な地域や関係者との連携が難しい状況でした。幸い、当施設では7月・8月に1人ずつの陽性者が出たのみで、その後も感染者は出ておりません。ワクチン接種が予定通り行えたこと。全室個室であることに加え、令和3年度のクラスター経験が生かされた結果だと考えています。

日常生活においては制限のある状況下でも、職員の創意工夫により、日中活動、施設での横須賀市花火大会の観覧や施設内納涼祭、クリスマス会などの行事を行うことが出来ました。また、例年行っている「ボランティア感謝の集い」では、お食事はできませんでしたが、入居者の日々の様子の写真展を当施設1階で行い、42人の地域の皆様が来所され「ボランティアが再開したら、また来ますね」などの声を頂きました。(写真展は1日でしたが、その後一週間は入居者の活動アルバムの展示や他法人作業所で作りましたクッキーと布巾を配布し当日と翌日からの1週間で合計64人の方々が来所されました。)

障害者福祉は当施設が開所した20年前とは大きく様変わりしており、当施設の抱えている課題はいくつかありますが、一般的な対応策だけではなく、新しい取り組みを大切に、情報共有と意見交換の場を今後も持ち、対応に迷うことがありましたら、法人基本理念に立ち返り、当施設職員と法人、地域や関係機関と連携を取りながら対応を行っていきたいと考えています。

1. 「共生」のための連携づくりについて

コロナ禍前は町内会と一緒にいていた活動や行事が複数あり、ボランティアに参加いただいた方々も多くいらしゃったと聞きます。残念なことに私はコロナ禍での施設長着任でしたので、伺っている様々な活動や行事の経験がありません。令和4年度も町内との合同での納涼祭(施設内で入所者と職員だけの納涼祭は実施しました。)や餅つきなどは中止致しました。その様な中でも防災の面では、施設での町内合同避難訓練・車椅子の移動方法について町内の皆様と講習会を行うことができました。

実習生等の受け入れに関して、新型コロナの感染状況により実習をお断りした施設が多くあったと聞きます。当施設では、学生や生徒、社会人など幅広い年齢層の方々の実習を受け入れ、障害者福祉の学びをして頂きました。入居者にとってもボランティアの受け入れが中止になっていたこともあり、実習生との交流を大変楽しみに、日中活動などへ参加される方が多くいらしゃいました。

2. これからの施設サービスの役割

障害者福祉は施設から在宅生活へと政策変更が行われており、県営・指定管理障害者施設も在宅への移行を支援する通過型施設へ変ることが決まっています。今後の施設入所に関しては、強度行動障害者等の支援が中心になっていくことが求められています。当施設でも、考え方の大きな転換が求められており、施設サービスの役割の視点から見て解決すべき課題が2つあげられます。

(1) 入所者の高齢化への対応

入居者の高齢化が進んでおり、受診・入院の頻度が高く、看取りを前提としていない施設にも関わ

らず、高齢障害者のスムーズな高齢者施設への入所が行われていません。

(2) 身体障害者の入所希望者が少なく、退所後の次の入所者がすぐに決まらない身体障害者に関しては、在宅でのサービスや福祉用具の充実、バリアフリー化により在宅での生活維持が出来ており、対象者が施設入所を希望する時には高齢者施設入所対象者になっています。

多職種連携という言葉を聞きますが、これは一人の要支援者の必要とされるニーズに対し、様々な専門職や地域の方々と連携をとり計画的に支援を行うと言うものです。今までの様に施設の中で全てのサービスを完結する視点も大切ですが、これからの障害者施設の役割を踏まえ、当施設の果たすべき役割を定め、多施設や多職種との連携についても個別支援計画へ取り入れていく視点が必要と感じています。また、身体障害者を中心に支援を行う施設から、今後の施設ニーズとして重点を置かれている強度行動障害者等のニーズへの対応も考え、職員の強度行動障害者養成研修修了者を増やしていく必要があると考えます。

(1)、(2)の対応について、今後も各部門長を中心に検討を重ねていきたいと考えています。

3. 業務が継続できる体制づくり

感染予防対策や自然災害に関するBCP（事業継続計画）に関しては、作成中であり令和5年度で完成予定です。当施設の一部が急傾斜地崩壊危険区域の特別警戒地区になっており、土砂災害避難確保計画を作成し市へ提出をしました。また、緊急時の連絡を確保するため、LINEWORKS無料お試しプランの活用を行いました。実際の活用を踏まえて、今後の導入など決めていきたいと考えています。

事務的業務の効率化の一つとして施設内全館のWi-Fi導入を行いました。これにより館内どこでもノートパソコン、タブレット型端末の利用が可能になりました。また、入居者や利用者向けのサービスとして、フリーWi-Fiの導入も行いました。スマートフォンの活用や映画等の視聴が便利になると考えられます。

各部門でそれぞれ使用している障害者サービスソフトに関して、共通のソフトを導入し、各部門の情報の共有化を図るためメーカーの選定を行いました。令和5年度の後半には導入の予定です。

4. まとめ

令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策もあり、積極的な活動を行うのは難しい面が多ありましたが、当施設の課題について話し合える時間ができたかと思います。令和4年度で確認した課題の解決や施設内ICT化に向けて分部的にとりかかった内容について令和5年度は具体的に対応していきたいと考えています。

部門名	部門人数	作成責任者名
事務管理	13	倉澤 正男
<p>1 部門目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 長期修繕計画をより具体化し、建物設備を適正に維持管理する。データと書類の整理により、ペーパーレス、タイムレスに繋げる（複合機の年間使用量を12万枚から1万枚の削減目標） 2 稼働率と収支の情報共有、対策の協議、収支の向上を図る 3 キャリアパスの理解と職員間の共通認識を高め、各職員が課題に取り組みスキルアップする。業務改善と効率化に向けた業務マニュアルを整理する。施設の情報発信やアピールに力を入れる（ホームページ更新発信を月5回実施継続） 4 業務継続計画ガイドラインとモデル内容の確認をして、検討・作成着手。町内会と災害、火災発生時の連携体制について意見交換、提案を行う。ポイントを押さえた有効な施設内感染対策の推進 		
<p>2 実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 長期修繕計画情報の共有を行う。維持管理の観点からも定期積立を継続。タイムレコーダーを活用し勤怠管理などシステムに展開する。情報通信機器の整備を進める。 2 合同スタッフ会議等にて定期的に稼働率と収支の情報を共有し協議する。 3 定期開催の情報を共有し共通認識を高められるようにする。業務改善と効率化に向けた業務マニュアルを作成・改善・整理する。ホームページにて施設の情報発信やアピールをしていく。 4 業務継続計画ガイドラインとモデル内容の確認後、検討と作成に着手。町内会と災害、火災発生時の連携体制について意見交換、提案を行う。ポイントを押さえた有効な施設内感染対策の推進を実施する。 		
<p>3 結果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 長期修繕計画情報の共有は行えたが、一覧表の加筆修正までは未実施。定期積立は継続している。タイムレコーダーと勤怠管理の一部運用を見直したことで、提出用紙と確認作業は減少した。複合機使用量は目標を超える約2万枚の削減ができた。情報通信機器のベースとなる全館Wi-Fi工事を完了できた。 2 合同スタッフ会議等にて、定期的に稼働率と収支の情報を共有し協議することができた。 3 法人キャリアパスの情報は定期的に共有したが実施を伴っていないので認識の向上はされていない。業務マニュアルは一部修正したが防犯マニュアルの整備が途中である。ホームページでの情報発信等は月5回以上の数値は達成できた。 4 業務継続計画については、委員会及び会議にて検討と作成に着手している。町内会と災害、火災発生時の連携体制について意見交換、提案を行う。感染対策においては基本的な対策を継続し感染が拡大していない。 		

4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること）

- 1 長期修繕計画の更新が進まない原因の一つとして、一人が行うには日々の業務に追われてしまい優先度が上がってこないことが考えられます。これを進めるためには役割分担をすることで優先度を上げられるのではないかと考えます。勤怠管理の見直しで、用紙と作業が減少したことと、全館Wi-Fi導入は今後に向けた大きな一歩だと考えます。
- 2 各事業所の収支状況を部門責任者と共有し、話し合いを持てたことは評価できます。変化の大きい時に、早めの予測と準備ができればさらに良い数字にも繋がると考えられます。
- 3 法人キャリアパスは来年度が大切な時期であるため、役職者が中心となって前向きに浸透させていき継続する力が必要と考えます。ホームページでの情報発信等は、求人含め良い影響が出ているので随時の改善と発信を継続していきます。
- 4 業務継続計画は、継続して取り組む必要があります。町内会とは、コロナ禍で実施できていなかった防災訓練と車いす操作研修が実施できたので評価できます。感染対策においては、対応が緩和されていくことが予測できるのでスムーズな移行と基本的な対策を継続し感染を拡大させない取り組みをしていくことが重要と考えます。

・年度途中で事務長交代があり、スムーズに引き継げた部分と、経験不足から支障があった部分があったと思いますが、これまでの良い部分を継承しつつ、新たな20年へ向けて部署一丸となって事務管理部門としてより良い働きができるよう取り組んでいきたいと思っています。

施設外研修

月日	研修内容	職種	場所
7月1日	サービス管理責任者更新研修	生活支援員	横浜市内
7月4日	安全運転管理者講習	事務員	横須賀市文化会館
8月3日	療育相談センター療育講演会	ゆんるり相談員	ベイサイドポケット
9月27日	サービス管理責任者更新研修	ゆんるり相談員	横浜市内
10月27日～ 11月21日	介護福祉士実習指導者講習会	生活支援員	オンライン
11月8～9日	強度行動障害支援者養成講習	DS生活支援員	オンライン
11月27日	神奈川県脳外傷リハビリテーション講習会	ゆんるり相談員	オンライン
11月29～30日	強度行動障害支援者養成講習	DS生活支援員	オンライン
12月1日	食品衛生責任者講習会	DS管理責任者	オンライン
12/2, 2/3	虐待防止と人権擁護	DS生活支援員	総合福祉会館
3月23日	伝帳法及び会計システムとの連携について	事務員	オンライン
3月15日	横須賀市障害者虐待防止研修	DS管理責任者	勤労福祉会館
3月28日	成年後見制度講演会	ゆんるり相談員	オンライン

施設内研修

月日	研修内容	職種	場所
4月3日	個人情報保護・虐待防止	新人職員	ホール
5月20日	デイサービススキルアップ計画について	DS職員	デイサービス室
6月17日	ノーリフト・環境調整について	DS職員	デイサービス室
7月15日	デイサービスみんなの心得～虐待防止の観点～	DS職員	デイサービス室
7月22日	高次脳機能障害事例検討会	ゆんるり職員	ゆんるり
8月19日	ノーリフト・環境調整について	DS職員	デイサービス室
9月16日	体力測定	DS職員	デイサービス室
10月21日	ノーリフト・環境調整について	DS職員	デイサービス室
11月18日	虐待防止チェックリスト集計結果より	DS職員	デイサービス室
12月6日	酸素ボンベの使い方講習	生活支援員	ボランティア室
12月16日	デイサービスみんなの心得の浸透について	DS職員	デイサービス室
1月20日	ノーリフトアンケート評価・次年度に向けて	DS職員	デイサービス室
1月10日	夜間緊急時の対応	生活支援員	ボランティア室
2月17日	介助方法等、気になる例の事例検討に繋げる	DS職員	デイサービス室
2月24日	感染症対策	全体研修	ホール

※DSはデイサービス

施設職員在籍状況

職種	障害者支援施設			デイサービス			久里浜	
	指定基準	常勤	非常勤	指定基準	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長（管理者）	0	1	0	0	1（兼務）	0	1（兼務）	0
サービス管理責任者	1	1	0	1	1（専従） 1（兼務）	0	0	0
事務員	0	2	3	0	0	0	0	0
相談員	0	1	0	0	0	0	2	1
生活支援員	17	26	9	4	3	8	1	3
機能訓練指導員	0	1	0	0	0	1	0	0
看護師	1	3	1	1	0	1（兼務）	0	0
医師（産業医）	1	0	1	0	0	0	0	0
栄養士	0	1	0	0	0	0	0	0
調理員	0	4	2	0	0	0	0	0
介助員	0	1	0	0	0	2	0	0
ハウスキーピング	0	0	4	0	0	0	0	0
小計		41	20		4	11	3	4

常勤職員	48
非常勤職員	35
合計	83

防災訓練実施結果

月	日	曜	時	訓練種別	内容	参加者
4	1	金	14:00 ～ 14:20	消火訓練	消火器、消火栓 消火器、消火栓の操作放水、取扱い訓練	職員6人
5	27	金	16:00 ～ 16:30	総合訓練	夜間時地震、火災が発生し避難する 職員3人での避難時は特に声の掛け合いを意識する。放送での言い回しを一部変更しマニュアルを変更。	職員4人、利用者10人
6	25	土	16:00 ～ 16:30	総合訓練	夜間地震で崖崩れが発生し避難する 職員の欠員が出た為職員のみで車いすでの階段を下る避難へ変更。3人で役割を交代しながら行う。	職員3人
7	10	日	14:00 ～ 14:30	総合訓練	土日の日中に地震、火災が発生し避難する 職員全体で同じ動きができるよう。声かけ内容とタイミングを伝えながら訓練を行った。	職員8人
8	15	月	15:00 ～ 15:30	総合訓練	平日日中に地震があり、その後火災発生し避難する スロープを使い利用者を正門まで避難誘導する。スロープのリレー引継ぎが声かけも少なくうまくいかなかったため反復練習が必要。	職員17人、利用者28人
9	27	火	15:00 ～ 15:30	総合訓練	町内合同訓練を車いす操作訓練とする コロナ対策として利用者さんとの合同訓練は無し。以前希望があった車いす操作の勉強会を実施し、避難経路等も確認する。	職員2人、町内会4人
10	12	水	17:00 ～ 17:30	総合訓練	夜間地震、その後火災発生し避難する スロープ側での避難時はPHSでの連絡がとりづらいため、震災時のようなその場の状況把握をした安全への配慮が必要。	職員4人、利用者10人
11	10	木	15:30 ～ 16:00	総合訓練	夜間地震があり、施設に留まる 各所点検、所在確認、ご利用者はデイルームに集まってもらう。	職員4人、利用者10人
12	16	金	17:00 ～ 17:40	総合訓練	通所送迎中の地震対応 海の近くの道、川沿いの道、古いトンネルは通らぬよう津波回避ルートマップで確認する。施設に連絡を入れるが施設側も施設災害状況を伝えるよう意識していく必要がある。	職員10人
1	16	月	15:30 ～ 16:00	総合訓練	通院送迎中の地震対応 外出先車両と本部で情報共有し、安全を第一に帰所するための判断をし連携を行う。	職員4人
2	7	火	19:00 ～ 20:00	通報訓練	職員緊急連絡訓練 施設長が各部門長に連絡する。今回は部門によってはラインワークスも併用する。発信回数は少なく済むが慣れも必要。	全職員

部門名	部門人数	作成責任者名
生活支援	34	岸川 洋平
1 部門目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 研修や勉強会、面談などを通して、個々のスキルアップ、チームワークの向上を行っていく 2 ノーリフトを実践し、ご利用者・職員が安全・安心に介助できるようにしていく 3 ご利用者が安全に楽しく生活ができるよう、リハビリの実施、レクリエーションや環境面を整えていく 4 入所・ショートステイの個別支援計画書作成・実施・評価などの流れを再構築し、ご利用者・家族・職員に対し見える化していく 5 ご利用者の健康管理に努め、極力居室の空きを作らないようにしていく 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 研修の参加、部署内での勉強会、個々の面談を実施しました。 2 リフトや福祉機器を積極的に使うように促しました。 3 リハビリや介助方法、レクリエーションの見直しを行いました。 4 個別支援計画の進行表を作成し、進んでいない所が分かるようにしました。 5 日々のケアや退院後の状態変化に対応できるよう話し合いを行いました。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 新たな知識の修得、コミュニケーションの強化に繋がりました。 2 完全にノーリフト化するというところまでは出来ませんでした。 3 リハビリの実施、定期的なレクリエーション企画・実施を行いました。 4 都合が合わず、作成が遅れてしまうことがありました。進行表は色や記号を用いて分かりやすく改善し活用できました。 5 入院や施設移行、退所があり居室の空きが出てしまいました。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 研修や勉強会を行うことにより、新たな知識の修得や再認識することができました。来年度はキャリアパス制度の流れに沿って実施します。 2 リフトや福祉機器を使用することは増えてきましたが、導入できなかった福祉用具などもあるため、今後導入の検討や改善を進めていきます。 3 ご利用者の状態の変化に合わせ、リハビリの提供や介助方法の見直しなど行いました。また、支援員が企画を考え定期的にレクリエーションの提供を行いました。今後も継続して提供できるようにしていきます。 4 短期入所のご利用者は利用期間が短い方も多く、目標がなかなか達成できないことが多いため、目標が適切か見直しをしていきます。 5 ご利用者の高齢化が進み、入院・退所が増えました。高齢のご利用者に対し施設移行を検討していきます。また、移行後などの空床に対し、新しい入所者がスムーズに入所できるよう流れを作成します。 		

ADL表(男女比ではなく各階の介助量の比ということで表示) (単位:人)

		2F	3F	計			2F	3F	計
座位	自立	8	13	21	寝返り	自立	15	18	33
	一部介助	4	3	7		一部介助	2	1	3
	全介助	10	9	19		全介助	5	6	11
立位	自立	4	4	8	食事	自立	8	10	18
	一部介助	12	16	28		一部介助	7	6	13
	全介助	6	5	11		全介助	7	9	16
排泄	自立	5	3	8	洗面	自立	8	7	15
	一部介助	6	7	13		一部介助	3	2	5
	全介助	11	15	26		全介助	11	16	27
着脱	自立	6	4	10	令和5年3月31日現在				
	一部介助	5	7	12	※座位、立位に関して、以下のように分けた。				
	全介助	11	14	21	自立:自力で支えなしで座位(立位)を保てる。				
入浴	自立	0	0	0	一部:何かにつかまるなどすれば座位(立位)を保てる。				
	一部介助	12	9	21	全介:車椅子上でのみ座位を保てる。(立位不可)				
	全介助	10	16	26	※入浴は、各階対応ではなく、男女浴で分けている。				
移動	自立	13	14	27	※食事について				
	一部介助	5	6	11	セッティングのみの方は自立に振り分けた。				
	全介助	4	5	9					

1. 男女比

性別	人数
男性	25
女性	22
合計	47

2. 入退所状況

性別	人数
男性	3
女性	0
合計	3

3. 年齢別

年齢	男性	女性	合計	比率
20未満	0	0	0	0.0%
20~29	0	1	1	2.1%
30~39	0	1	1	2.1%
40~49	5	7	12	25.2%
50~59	11	5	16	33.8%
60~64	3	3	6	12.0%
65以上	6	5	11	23.1%
合計	25	22	47	100%

4. 障害等級別

身体障害	男性	女性	合計	比率
1級	14	13	27	57.4%
2級	11	9	20	42.6%
その他	0	0	0	0.0%
合計	25	22	47	100%

5. 障害原因別

障害原因	2F	3F	人数	比率
脳性マヒ	13	10	23	52%
脳血管障害	1	4	5	10%
頭部外傷	4	0	4	8%
脊髄損傷	0	0	0	0%
脳炎他	3	3	6	12%
難病	0	1	1	2%
その他	1	7	8	16%
計	22	25	47	100%

※2つ以上重複している場合、先に発症したほうにカウント。
※その他(脊髄腫瘍脊椎奇形、二分脊髄など)

6. 市町村別在籍者の状況

市町村	男性	女性	合計
横須賀市	23	13	34
鎌倉市	0	4	5
三浦市	0	3	4
逗子市	1	1	2
葉山町	1	0	1
川崎市	0	1	1
合計	25	22	47

短期入所稼働率

	2F延べベッド利用数	2F利用率(%)	3F延べベッド利用数	3F利用率(%)	全体利用率(%)
4月	45	75	35	46.6	60.8
5月	49	79	51	82.2	80.6
6月	51	85	39	65	75
7月	47	75.8	40	64.5	70.1
8月	52	83.8	48	77.4	80.6
9月	48	80	45	75	77.5
10月	48	77.4	41	66.1	71.7
11月	51	85	46	76.6	80.8
12月	43	69.3	48	77.4	73.3
1月	42	67.7	44	70.9	69.3
2月	42	75	55	98.2	86.6
3月	45	72.5	53	85.4	78.9
		77.1%		73.7%	75.4%

小数点第2以下切り捨て 小数点第2以下切り捨て

ボランティア活動状況

種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日中活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日活合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一般活動合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
企画	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
企画合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総計	22	5	1	22	22	0	22	0	0	22	0	0	115

生活支援部門(2階) ヒヤリハット・事故、重大事故報告書年間統計

①ヒヤリハット・事故 ②重大事故

1. 月別・時間別・曜日別

	①	②
4月	6	0
5月	6	0
6月	4	0
7月	10	0
8月	15	1
9月	10	0
10月	11	0
11月	14	0
12月	8	0
1月	7	0
2月	9	0
3月	4	0
計	100	1

(単位:件)

	①	②
8時～9時	3	0
9時～10時	5	0
10時～11時	9	0
11時～12時	4	0
12時～13時	5	0
13時～14時	5	0
14時～15時	6	0
15時～16時	4	0
16時～17時	7	1
17時～18時	6	0
18時～19時	6	0
19時～20時	11	0
20時～21時	4	0
21時～0時	12	0
0時～5時	9	0
5時～6時	0	0
6時～7時	4	0
7時～8時	4	0

(単位:件)

	①	②
月曜日	10	0
火曜日	21	1
水曜日	13	0
木曜日	16	0
金曜日	10	0
土曜日	13	0
日曜日	21	0

(単位:件)

3. 発生原因別

		(うちSS)
新たな気づき	11	1
マニュアルの見落とし	6	0
両者の不注意	6	0
介護者の不注意	31	1
利用者の不注意	41	0
原因不明	5	0
その他		

(単位:件)

4. 職員別報告書記入実績(平均)

職員一人当たりの記入枚数	8枚
--------------	----

5. 経験年数別記入実績(平均)

1年未満	15	7年未満	24
2年未満	6	8年未満	2
3年未満	8	9年未満	0
4年未満	0	10年未満	1
5年未満	0	11年未満	8
6年未満	9	11年以上	31

(単位:件)

2. 区分別

		介助中(うちSS)	介助なし(うちSS)
転倒・転落	移乗時	2	0
	移動時	0	0
	歩行時	0	0
	その他	2	0
	計	4	0
服薬関係	介助ミス	6	0
	利用者のミス	0	0
	調剤ミス	0	0
	伝達ミス	0	0
	その他	0	0
計	5	0	
誤飲・誤嚥・異食	1	0	
無断外出	0	0	
利用者の急変	0	0	
職員の不適切な言動・接遇	0	0	
その他	10	0	

(単位:件)

6. 改善策の経過

改善済み	検討中	改善されていない
21(うちSS 2)	44件(うちSS 件)	39(うちSS 0)

(単位:件)

生活支援部門(3階) ヒヤリハット・事故、重大事故報告書年間統計

①ヒヤリハット・事故 ②重大事故

1. 月別・時間別・曜日別

	①	②
4月	6	0
5月	12	0
6月	7	0
7月	10	0
8月	5	0
9月	10	0
10月	7	0
11月	8	1
12月	4	1
1月	10	2
2月	6	1
3月	4	1
計	89	6

(単位:件)

	①	②
8時～9時	9	2
9時～10時	9	0
10時～11時	4	0
11時～12時	9	0
12時～13時	6	0
13時～14時	7	0
14時～15時	3	1
15時～16時	6	0
16時～17時	1	0
17時～18時	3	3
18時～19時	6	0
19時～20時	6	0
20時～21時	2	0
21時～0時	2	0
0時～5時	7	0
5時～6時	1	0
6時～7時	4	0
7時～8時	4	0

(単位:件)

	①	②
月曜日	18	2
火曜日	14	1
水曜日	8	1
木曜日	18	0
金曜日	9	1
土曜日	8	1
日曜日	14	0

(単位:件)

3. 発生原因別

		(うちSS)
新たな気づき	42	
マニュアルの見落とし	5	
両者の不注意	4	
介護者の不注意	24	2
利用者の不注意	16	
原因不明	13	
その他	13	

(単位:件)

2. 区分別

		介助中(うちSS)	介助なし(うちSS)
転倒・転落	移乗時	10	0
	移動時	2	0
	歩行時	3	0
	その他	5	0
	計	20	0
服薬関係	介助ミス	16	0
	利用者のミス	0	0
	調剤ミス	0	0
	伝達ミス	1	0
	その他	3	0
計	20	0	
誤飲・誤嚥・異食	3	1	
無断外出	0	0	
利用者の急変	0	0	
職員の不適切な言動・接遇	0	0	
その他	6	1	

(単位:件)

4. 職員別報告書記入実績(平均)

職員一人当たりの記入枚数	6.1枚
--------------	------

5. 経験年数別記入実績(平均)

1年未満	12	5年未満	0
2年未満	9	6年未満	2
3年未満	4	7年未満	0
4年未満	4	8年未満	64

(単位:枚)

6. 改善策の経過

改善済み	検討中	改善されていない
61(うちSS 1)	19(うちSS)	13(うちSS 0)

(単位:件)

部門名	部門人数	作成責任者名
医務	4	加藤 綾子
1 部門目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 ご入居者の健康維持管理と職員が心身共に健康で働けるよう健康管理の援助を行う 2 ご利用者の健康上の問題点の早期発見と改善の為、部署内及び他部署との連携を図る 3 勉強会やミーティングなどを通し、個々のスキルアップやチームワークの向上を行う 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 嘱託医にご入居者の往診をして頂き、健康上安定した生活が送れるように嘱託医と連携を取りました。またご入居者と職員の健康診断や予防接種を行いました。 2 ご入居者の普段の様子を把握し体調の変化に早く気付くようにし、支援部門からの報告や助言を受けご入居者の異常の早期発見、他部署との情報交換を行いました。 3 月1回ミーティングを行い、施設で行う研修会に参加しました。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 本年度、健康診断ではご入居者様に大きな問題はありませんでした。職員の健康診断結果は、6割の方が医師の助言や指導がありました。コロナ罹患者は2人いましたが感染拡大には至りませんでした。他の感染症の発生はありませんでした。 2 前年度より通院数が増加し、本年度の入院数は12人でした。ご入居者の体調変化を早期に気づき病院受診に繋ぐ事ができました。 また他部署と連携し病状の安定や改善を図りました。 3 ミーティングや日常業務の中で伝達や情報交換を行いチームワークを取ることができ、その中で学ぶ事もできました。 研修会の参加で個々のスキルアップが図れるよう努力できました。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 コロナの感染拡大が防げ、インフルエンザの発症もなく予防接種の効果や感染症に対して職員の意識が高まったと考えられました。（ご入居者）健康診断結果からは往診や急な状態の変化時に嘱託医との連携により健康状態の安定が図れました。 （職員）医師の助言等が必要な人数の増加があり、健康の維持増進のための発信が必要と感じました。 2 新入職員も積極的にご入居者や職員に関わりながら経験を活かし、状態の変化に早く気づくことができたので今後も関わりを深めたいと思います。 また褥瘡や栄養状態に問題のあるご入居者には医師の指示の処置等の実施と並行してそれぞれの部署からアプローチをし改善に繋ぐことができたので今後も連携を深めていきたいと思います。本年度入院したご入居者の半数は40～50代であり、先天的な身体の障害が誘因となった病気も考えられるため、年代に関係なくより一層病状の変化への注意が必要と感じました。病院側の対応変化もあり、ご入居者にとっての新たな最善策を施設全体で考える必要性を感じ、今後の課題であると思いました。 3 ミーティングや業務以外にグループラインやラインワークスの利用で情報交換が素早く行えたので引き続き利用し、さらなるチームワークの向上に努めていきたいと思います。また個々のスキルアップのためには外部研修の参加も視野に入れていきたいです。 		

1. 健康診断

(1) 入居者

- ①春季 令和4年6月7日(火) 48人実施
検査項目：採血 検尿 検便 胸部レントゲン 心電図
結果：服薬中止→1人 服薬変更→1人 経過観察→4人
- ②秋季 令和4年12月6日(火) 48人実施
検査項目：胸部レントゲン
結果：全員問題なし

(2) 職員(結果は臨時衛生委員会)

ア. 常勤職員(一部非常勤職員含む)

- ①春季 令和4年5月17日(火) 58人実施
検査項目：身長 体重 血圧 採血 検尿 胸部レントゲン 心電図 視力 聴力
35歳以上は検便 胃透視 腹囲測定 of 追加あり
- ②秋季 令和4年12月6日(火) 28人実施(夜勤・宿直者)
検査項目：身長 体重 血圧 採血 検尿

イ. 非常勤職員

- ①春季 令和4年6月7日(火) 21人実施
検査項目：身長 体重 採血 検尿 血圧 胸部レントゲン 心電図 視力 聴力

(3) 衛生委員会

〈定例〉毎月1回 職員の健康維持・増進・予防や職場環境について協議

〈臨時〉年2回 職員の健康診断の分析 出席者：嘱託医 施設長 衛生管理者 看護師

- ① 第1回 令和4年8月10日(水)
結果：嘱託医の助言、指導、指示あり→36人 治療継続→8人
- ② 第2回 令和5年3月29日(水)
結果：嘱託医の助言、指導、指示あり→13人 治療継続→3人

2. 予防接種

〈コロナ〉

(1) 入居者

- ①3または4回目 計45人実施
9月7日(水)：23人 9月14日(水)：8人 9月21日(水)：14人
- ②4または5回目(オミクロン株対応) 計43人実施
1月11日(水)：18人 1月18日(水)：17人 1月25日(水)5人 2月1日(水)：1人
2人は医療機関で実施

(2) 職員(3~5回目)

- ①3または4回目 計15人実施
9月14日(水)：7人 9月21日(水)：7人 9月28日(水)：1人
- ②3~5回目(オミクロン株対応) 計16人実施
1月11日(水)：6人 1月18日(水)：2人 1月25日(水)：5人 2月1日(水)：3人

〈インフルエンザ〉

- ①入居者 48人実施
11月9日(水)：40人 11月16日(水)：8人
- ②職員 49人実施
11月9日(水)：22人 11月16日(水)：16人 12月7日(水)：11人

入退院状況内訳

	診断名	診療科	病院名	入院日	退院日
A氏男性 (74)	尿路感染症	内科	湘南中央病院	R.4.3.31	R.4.4.11
A氏男性 (74)	誤嚥性肺炎	内科	浦賀病院	R4.4.15	R4.4.27
B氏女性 (66)	水疱性類天疱瘡	皮膚科	横須賀共済病院	R4.5.24	R4.7.22
C氏男性 (71)	両側臀部褥瘡 水疱性類天疱瘡	皮膚科	横須賀共済病院	R4.6.6	R4.6.16
D氏男性 (47)	腸炎	消化器内科	横須賀共済病院	R4.8.23	R4.8.27
E氏女性 (48)	自己免疫性肝炎	消化器内科	うわまち病院	R4.9.2	R4.10.4
F氏男性 (46)	COVID-19感染症	循環器内科	横須賀共済病院	R4.9.3	R4.9.13
B氏女性 (66)	直腸潰瘍	消化器内科	横須賀共済病院	R4.9.29	R4.10.4
G氏女性 (51)	尿路感染症	脳神経外科	横須賀共済病院	R4.11.26	R4.12.2
H氏女性 (52)	統合失調感情障害	精神科	福井記念病院	R4.12.9	R5.2.6
I氏男性 (73)	腸炎・肺炎	腸炎・肺炎	横須賀共済病院	R4.12.15	R5.1.6
J氏女性 (75)	結石性腎盂腎炎	泌尿器科	横須賀共済病院	R5.1.1	R5.1.18
K氏女性 (44)	イレウス	外科	横須賀共済病院	R5.1.14	R5.3.1
B氏女性 (66)	尿路感染症	内科	うわまち病院	R5.2.13	R5.2.24
A氏男性 (74)	誤嚥性肺炎	内科	浦賀病院	R5.2.17	R5.3.20
L氏女性(76)	心不全	内科	浦賀病院	R5.2.28	R5.3.31
J氏女性 (75)	結石性腎盂腎炎	泌尿器科	横須賀共済病院	R5.3.28	R5.3.31

本年度は12人の方が入院されました。K氏は治療後に療養型病院へ転院され、A氏、I氏の2人は入院先の病院にて逝去されました。

往診内訳

	稲垣医師 (内科)		阿瀬川医師 (精神科)		新村医師 (泌尿器科)	
	回数	延べ人数	回数	延べ人数	回数	延べ人数
4月	4	74	1	23	1	1
5月	3	47	1	23	1	1
6月	4	65	1	23	1	1
7月	4	76	1	23	1	1
8月	4	68	1	23	1	1
9月	4	74	1	22	1	1
10月	4	68	1	24	1	1
11月	4	71	1	24	1	1
12月	4	73	1	22	1	1
1月	4	65	1	23	2	2
2月	4	53	1	22	1	1
3月	4	66	1	22	1	1
計	47	800	12	274	13	13

通院状況内訳

通院科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	4	6	1	1	2	6	4	6	3	7	2	3	45
神経内科	3	3	3	3	5	4	4	3	2	3	3	3	39
泌尿器科	2	5	2	1	2	2	3	3	2	6	4	5	37
皮膚科	9	9	7	4	5	7	6	7	4	3	7	7	75
整形外科	2	1	4	1	5	2	1	3	2	3	4	0	28
眼科	1	0	0	1	2	2	2	0	2	1	0	1	12
外科	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	2	1	6
耳鼻科	1	2	3	2	2	3	2	2	0	3	5	5	30
精神科	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	15
歯科	9	8	5	14	14	9	8	9	11	11	11	15	124
脳外科	0	0	1	1	1	2	0	0	3	1	0	1	10
心臓血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	0	0	0	0	1	0	0	1	1	1	2	0	6
小児科	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	1	2	8
婦人科	0	1	0	0	1	1	2	1	0	0	1	0	7
リハビリ科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
合計	32	36	27	29	42	40	34	39	34	44	43	44	444

医療処置内訳

処置	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
与薬	49	49	48	49	50	50	50	50	50	47	48	46	586
尿道カテーテル管理	96	93	80	93	93	90	93	90	93	117	110	92	1140
膀胱瘻管理	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
自己導尿	30	31	30	31	31	30	31	30	31	26	28	31	360
尿カテーテル交換	4	5	4	3	5	4	0	4	2	0	8	5	44
膀胱洗浄	30	31	30	31	28	30	31	30	31	26	28	31	357
導尿	9	8	9	8	9	11	0	7	8	8	4	3	84
尿バッグ交換	4	3	4	8	4	2	0	4	2	0	8	4	43
ストーマ管理	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
パウチ交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
浣腸	52	53	54	51	53	58	51	41	41	37	40	40	571
摘便	8	4	8	13	14	9	0	2	10	0	16	8	92
腹部マッサージ	3	2	9	7	7	9	7	1	0.7	0	16	10	71.7
ガーゼ交換	237	226	237	232	271	235	204	260	281	302	243	228	2956
軟膏処置	342	331	292	351	402	370	413	414	410	345	423	470	4563
湿布	25	26	26	26	27	35	28	41	36	29	40	36	375
包帯交換	27	21	23	28	58	36	25	23	26	26	20	23	336
点眼	130	172	180	186	208	149	93	94	126	124	112	124	1698
点鼻	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	36	49	391
点耳	19	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	21
酸素吸入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
吸入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
吸引	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血糖測定	49	55	30	15	16	13	13	13	13	13	7	15	252
インスリン注射	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬剤テープ	30	31	30	31	31	32	31	30	25	0	0	0	271
SS浣腸	1	0	0	0	1	2	0	2	0	0	0	0	6
SS処置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1205	1203	1154	1227	1370	1225	1132	1196	1248	1162	1215	1246	14582.7

部門名	部門人数	作成責任者名
給食	8	向井 洋子
1 部門目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 災害時における総合的な体制づくり 2 ご利用者一人ひとりに合わせた栄養管理 3 安全・安心なサービスの提供 4 ご利用者の意見や希望を集約した満足度向上への取り組み 5 徹底した在庫管理 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 施設全体のBCPに沿った形での体制づくりを行っていく。 2 栄養ケア・マネジメントをもとに栄養管理を行っていく。 3 HACCPに基づいた食事提供を行う。 4 行事食や選択食を行う。 5 在庫管理票を利用し実施する。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 物資班として災害時に対応できるよう災害用献立表を下に備蓄食品のローリングストックをすることができた。 2 令和4年5月まで実施した。 3 事故なく安全に食事提供することができた。 4 行事食は行うことができた。 5 在庫管理表を使用せず在庫管理を行った。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 定年退職、退職、転籍等の対応に追われた1年となり、災害時の対応や業務内容の見直し、すでに始まっている給食業界の人手不足にも対応できる食事提供の第一歩を踏み出す結果となったが、少しでもご利用者の方の希望等に沿えるような給食の形を模索していきたい。 2 令和4年12月より給食管理ソフトをクラウド化し走水と同一献立で食事提供を行い始めた。障害・高齢の特徴を考慮し情報共有しながら食事提供を行い福祉に従事する管理栄養士・栄養士・調理師として学びを深める場としていきたい。 3 施設内ですすめている共通ソフトを導入することで、他部門と協働しながら障害者施設の栄養ケア・マネジメントに取り組んでいきます。 4 食材料・備品・高熱水道費等の高騰を受け、購入方法・業者選定等、よりきめ細かい対応が求められる中、よりよい給食管理を未来志向で考えていきたい。 5 キャリアパス導入による人材育成をすすめていきます。 		

行事食

4月	創立記念日献立	9月	15夜献立
5月	端午の節句献立	10月	お月見献立
7月	七夕献立	12月	クリスマス献立
7月	土用丑の日献立	1月	お節、七草がゆ、鏡開き
8月	夏祭り献立	3月	桃の節句献立

選択メニュー

4月	A食：天むす	74人中、26人が選択
	B食：鉄火巻	74人中、48人が選択

度荷重平均・栄養給与目標量

	熱量	たんぱく質	カルシウム	鉄	VA	VB1	VC	食物繊維	食塩相当量
目標栄養 所要量	1650	65	660	11	705	1	100	16.5	8
提供栄養 所要量	1698	67	600	7.8	1375	2.1	68	11	8.8

部門名	部門人数	作成責任者名
デイサービスセンター	16	梶山 輝一
<p>1 部門目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リーフレット、ネットなどのツールを使用し、事業所の魅力や状況を発信し、稼働率向上を図る 2 キャリアデザインに関わる部署内のスキルアップシステム（担当制、研修、スキルアップ等）を見直す 3 コロナ禍で実施できていない外出プログラムを今まで実施した課題を踏まえ見直す 		
<p>2 実施方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リーフレット、ネットなどのツールを使用し、事業所の魅力や状況を発信し、稼働率向上を図る。 <ol style="list-style-type: none"> ①ジャカランダカフェのパンフレットを関係事業所へ配布しました。 ②デイサービスのパンフレットを作成し配布準備をしました。 ③ジャカランダカフェのホームページをアップさせる準備をしました。 ④他職員と連携しホームページに活動の様子などをアップさせました。 ⑤デイサービス運営会議を定期的を開催しました。 ⑥ともしびショップなど、新たな事業展開について検討、準備しました。 2 キャリアデザインに関わる部署内のスキルアップシステム（担当制、研修、スキルアップ等）を見直す。 法人全体で連携し見直す準備ができました。 3 コロナ禍で実施できていない外出プログラムを今まで実施した課題を踏まえ見直す 新たなマニュアルを作成しました。 		
<p>3 結果（グラフや数値等は別に添付）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リーフレット、ネットなどのツールを使用し、事業所の魅力や状況を発信し、稼働率向上を図る。 稼働率を上向きに修正することができました。 2 キャリアデザインに関わる部署内のスキルアップシステム（担当制、研修、スキルアップ等）を見直す。 来年度に運用お試ししていくことになりました。 3 コロナ禍で実施できていない外出プログラムを今まで実施した課題を踏まえ見直す 来年度より段階的に運用していくことになりました。 		
<p>4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること）</p> <p>デイサービスのパンフレットやジャカランダカフェのホームページなど、整ったものを全て出すのではなく、新規の受け入れ状況など確認しつつ、次の一手、二手先を準備しておくことができるようになりました。</p> <p>グループホーム、多機能型事業所、就労継続支援B型、生活介護の定員増など、中長期的な視点での検討、情報共有したことが、来年度、ともしびショップのデイサービス運営計画に繋がりました。</p>		

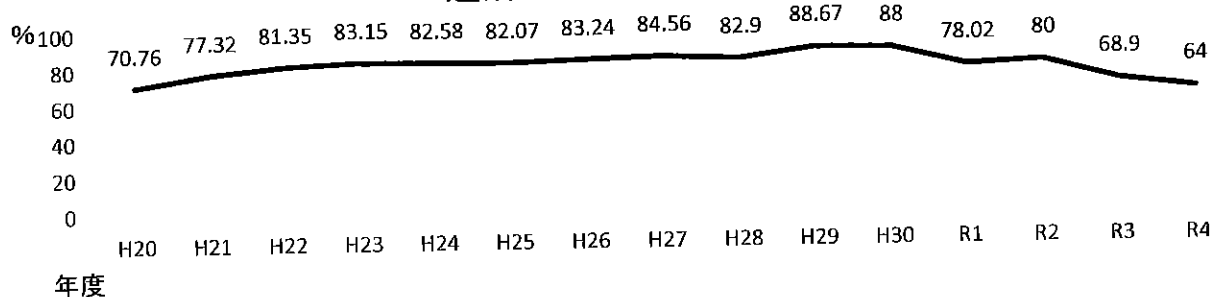
1. 稼働状況（月ベース）

定員20人（単位：％・人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率	57.1%	63.2%	64.8%	59.5%	58.5%	60.0%	68.1%	68.9%	65.9%	66.0%	66.3%	72.3%
1日平均利用人数	11.4	12.6	13	11.9	11.7	12	13.6	13.8	13.2	13.2	12.5	14.6
月間延べ人数	240	278	285	250	269	264	286	303	290	264	274	335

2. 稼働状況（年度ベース）

通所生活介護稼働率



※H30.11～土曜カフェ運営に伴う稼働率減。H31～実質85.8％＝フル稼働。R2.4～しばらく土曜営業せず。

3. ご利用者増減

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規	1	0	1	1	0	1	1	0	0	0	1	2
週2回以上利用	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	1
契約解除	1	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0

契約解除理由	他サービス利用	入所	就労	体調不良	死去	介護保険移行
人数	1	2	0	0	1	1
	その他					
	0					

4. ご利用相談

(単位：件)

相談件数	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
利用相談総数	19	17	25	22	17	21	13	11	7	4	7	10
相談者内訳	本人		家族		横須賀市		ゆんるり		他相談事業所		他障がい福祉事業所	
新規利用相談件数	0		1		1		1		2		1	
新規利用件数	0		0		1		0		2		1	
	地域包括		ケアマネジャー		病院・医療		養護学校		その他			
	0		4		0		0		0			
	0		3		0		0		0			

5. ご利用者の状況（単位：人）

	男性	女性
利用者数	29	18
平均年齢	51.0歳	
平均区分	4.8 ※6段階	

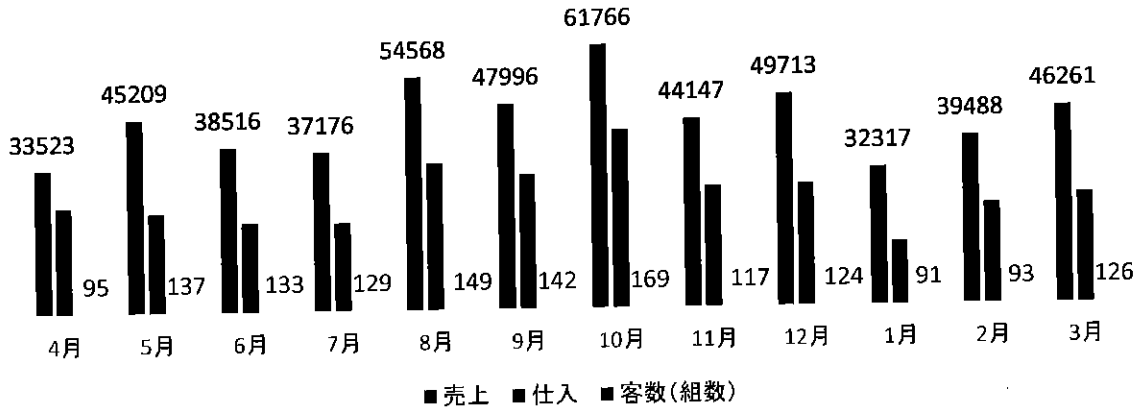
6. 工賃

(1) ジャカラングCafé ※歯科大附属病院（出張所）での生産活動（単位：円）

	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
売上	592,650	1,729,305	314,519	435,737	530,680
仕入	306,360	¥1,012,428.00	177,057	235,400	319,584
工賃（1日）平均	2,219	2,179	524	835	808

※H30年11月1日オープン。R2年4月12日～5月末営業せず。以降短縮営業。

売上・仕入・来客数



(2) ガチャ笑店 ※事業所内での生産活動（単位：円）

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
売り上げ	16,460	37,378	125,355	217,113	231,158	115,073	73,045	73,361	49,553
仕入	13,832	13,213	57,092	94,201	79,901	50,464	28,484	41,480	26,517
工賃（1日）平均	—	60	132	220	148	113	236	78	194

※H29年度まで8月末～9月に工賃支給。H30年度のみ1年半分の工賃。本年度より年度末となる。

7. ヒヤリハット統計

(単位：件)

件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ヒヤリハット	1	4	1	2	4	1	1	2	1	1	3	1
重大事故	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

発生状況	介助中	介助なし	発生状況	介助中	介助なし
車中・乗降時	1	3	移動・移乗・歩行	2	0
日中活動	0	2	服薬	2	3
トイレ	0	0	食形態・嚥下	0	0
入浴	4	1	その他	0	5

※その他内訳：連絡調整・入力・記入・配布・伝達ミスなど

8. 介護職員の採用・離職

(単位：人・%)

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
採用人数	4	1	1	1	2	0	0	0	1	2	1	0
退職人数	4	3	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0
デイ介護職離職率	28.6%	25.0%	0%	0%	16.7%	0%	0%	10%	10%	0%	0%	0%
全国平均離職率	16.1%	17%	16.6%	16.5%	16.5%	16.7%	16.2%	15.4%	15.4%	14.9%	14.3%	—

介護職員の離職（入職）率：（財）介護労働安定センター「介護労働実態調査」より

部門名	部門人数	作成責任者名
久里浜障害者支援センターゆんるり	7	北岡 岳人
1 部門目標 <ol style="list-style-type: none"> 1 市内サポートセンターや指定特定相談事業所との連携を図り、相談者のニーズに対して円滑に対応できるようにする（相談事業） 2 障害者支援を深めるとともに、幅広く地域のニーズに応えることができるように取り組む（活動事業） 3 地域行事への参加や、既存の設備を活かして地域に開かれた場所を目指す 		
2 実施方法 <ol style="list-style-type: none"> 1 市内サポートセンター会議へ参加し情報共有を行いました。市内指定特定相談事業所と年2回の事例検討会を実施し、地域課題について話し合いを行いました。 2 高次脳機能障害支援コーディネーターによる研修を実施しました。個別支援計画作成のための準備を行いました。 3 地域での活動に向けて情報収集を行いました。カフェの営業にこだわらず、社会参加や地域との関わり方を検討しました。 		
3 結果（グラフや数値等は別に添付） <ol style="list-style-type: none"> 1 市内指定特定相談事業所と地域課題を共有することができました。関係性が構築されたことで、ケースの移管を行うことができました。 2 事例を通して、高次脳機能障害に対する理解を深めることができ、日々の業務に活かすことができました。 3 地域での活動に向けての準備をすすめることができました。 		
4 考察・評価（継続すること、残された課題、挑戦すること） <ol style="list-style-type: none"> 1 多様なニーズに対応できるよう、自己研鑽を継続していくと共に、セルフプランから計画相談への移行ができるようになります。相談員増員に伴う業務の整理と、今後の相談支援体制に向けての準備を行っていきます。 2 高次脳機能障害にとらわれず、多様なニーズに対応できるようにします。相談事業と連携しながら、居場所としてのあり方を検討していきます。 3 地域との繋がりのために必要な関係機関と連携を図り、地域のニーズに応えられるような、開かれた場所を目指します。 		

久里浜障害者支援センターゆんるり 事業実績

相談支援事業	◀相談支援を利用している障害者等の人数▶									
	\	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	その他	
	障害者	1058	266	31	135	215	16	55	399	
	障害児	7	0	0	5	0	0	0	2	
	合計	1065	266	31	140	215	16	55	401	
	◀支援方法▶									
	\	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
	件数	402	474	101	1789	313	64	1859	37	5039
	◀支援内容▶									
	\	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援			
件数	1722	301	773	1502	1	120				
ピアサポーター	0	0	0	0	0	0				
\	家計・経済に関する支援	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	合計(C)			
件数	78	174	38	95	20	215	5039			
ピアサポーター	0	0	0	0	0	0	0			
活動事業										
	\	日中活動の場所の提供	自主活動の育成及び支援	ボランティア等の育成及び活動	その他	合計(D)				
	件数	559	0	0	0	559				